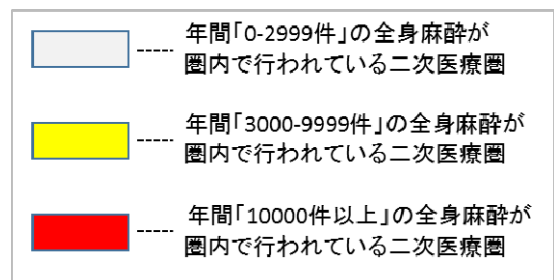
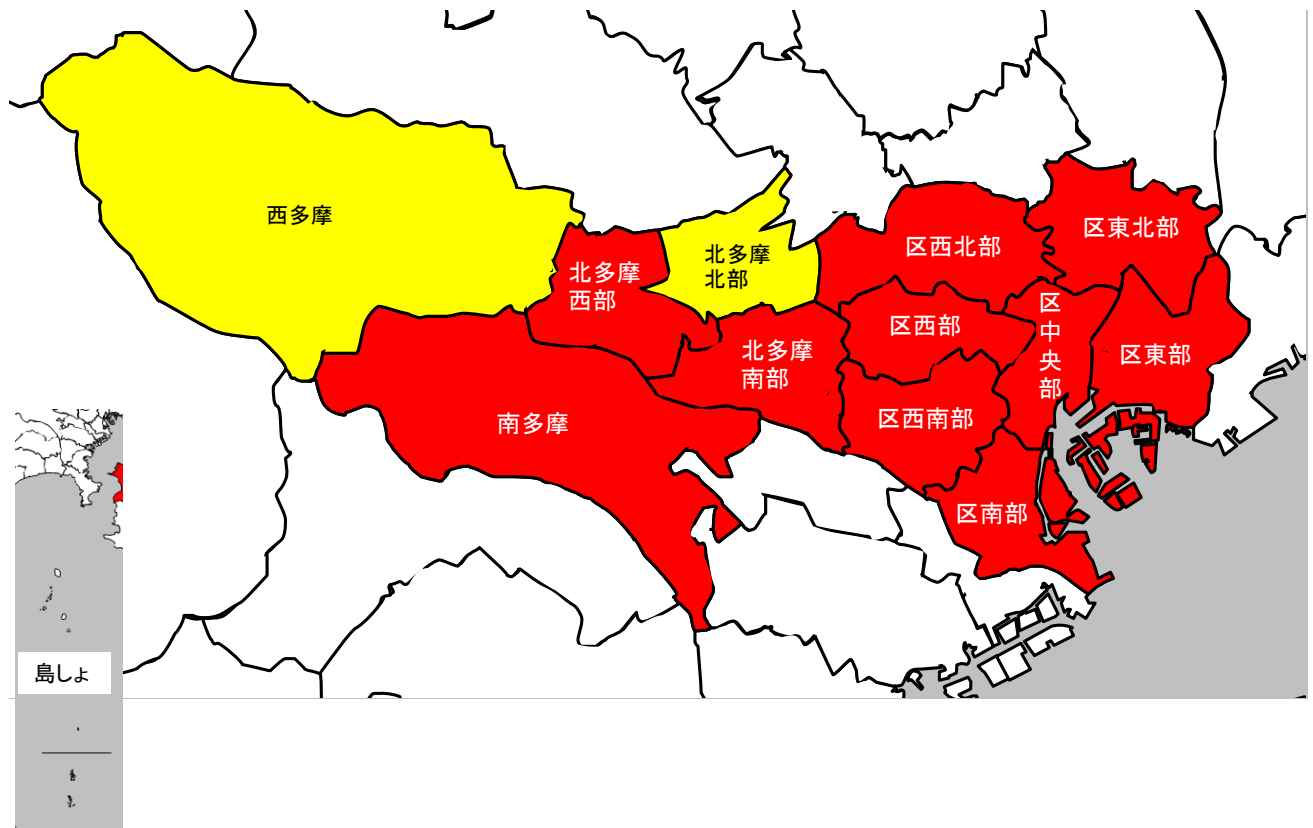


# 13. 東京都



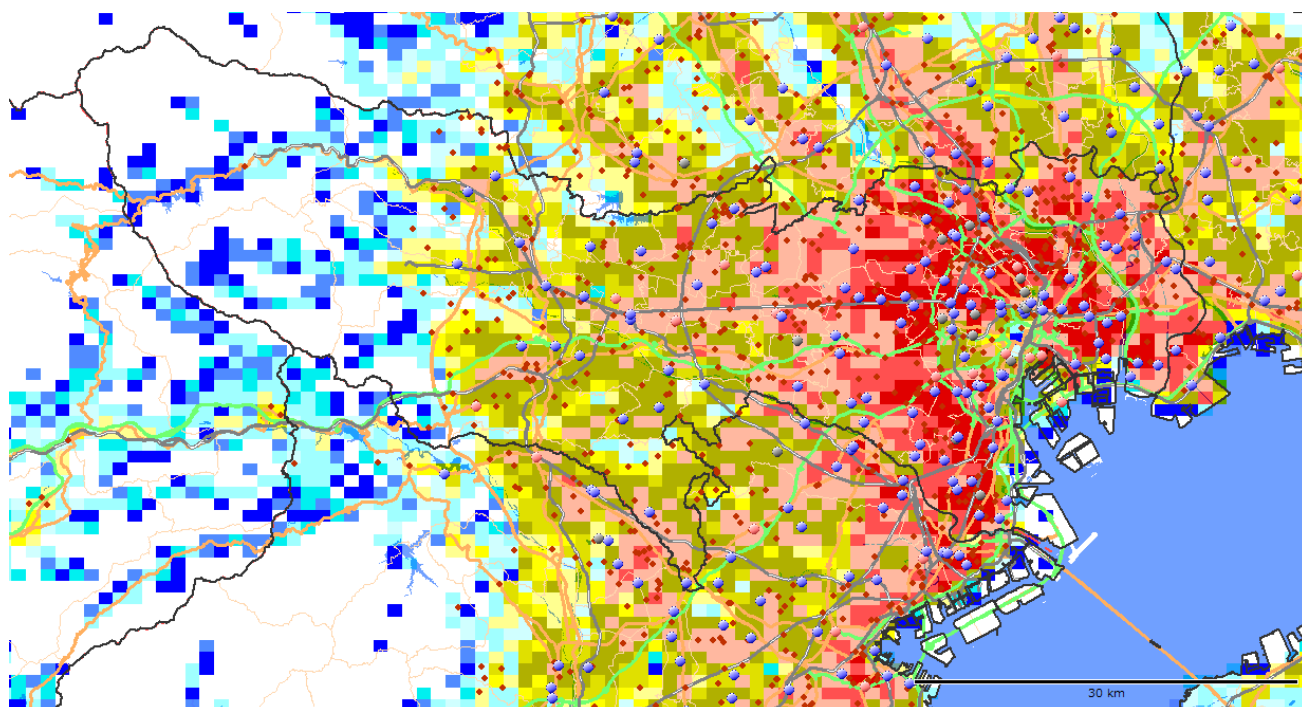
## 13. 東京都

### 目次

東京都.....	13 - 3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料.....	13 - 7
1. 区中央部医療圏.....	13 - 25
2. 区南部医療圏.....	13 - 29
3. 区西南部医療圏.....	13 - 33
4. 区西部医療圏.....	13 - 37
5. 区西北部医療圏.....	13 - 41
6. 区東北部医療圏.....	13 - 45
7. 区東部医療圏.....	13 - 49
8. 西多摩医療圏.....	13 - 53
9. 南多摩医療圏.....	13 - 57
10. 北多摩西部医療圏.....	13 - 61
11. 北多摩南部医療圏.....	13 - 65
12. 北多摩北部医療圏.....	13 - 69
13. 島しょ医療圏.....	13 - 73

# 13. 東京都

人口分布<sup>1</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



<sup>1</sup> 東京都を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所:国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (東京都) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 東京都は、総人口約 13349 千人(2015 年推計)、面積 2178 km<sup>2</sup>、人口密度は 6130 人/km<sup>2</sup>である。

\*人口の将来予測： 東京都の総人口は 2025 年に 13179 千人へと減少し(2015 年比-1%)、2040 年に 12308 千人へと減少する(2025 年比-7%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 1473 千人が、2025 年にかけて 1977 千人へと増加し(2015 年比+34%)、2040 年には 2139 千人へと増加する(2025 年比+8%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 東京都の一人当たり医療費(国保)は 278 千円(偏差値 42)、介護給付費は 247 千円(偏差値 49)であり、医療費は低い、介護給付費は全国平均レベルである。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 東京都の一人当たり急性期医療密度指数<sup>2</sup>は 0.91、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.62 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 59(病院医師数 56、診療所医師数 64)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は 44 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 46 で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数の偏差値は 52 と全国平均レベルである。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 46 と療養病床数はやや少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 44 と少なく、回復期病床数は偏差値 47 とやや少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 46 で精神病床数はやや少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 58 で診療所数は多い。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 東京都の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、122173 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 42)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 66362 床(偏差値 39)、高齢者住宅等が 55811 床(偏差値 51)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、87286 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 39)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 36、特別養護老人ホーム 45、介護療養型医療施設 49、有料老人ホーム 62、軽費ホーム 45、グループホーム 40、サ高住 43 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 54 とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値 50 と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、21299 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 52)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

<sup>2</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>3</sup>

①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は101982床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は113900床であり、その差は+11918床(+12%)である。

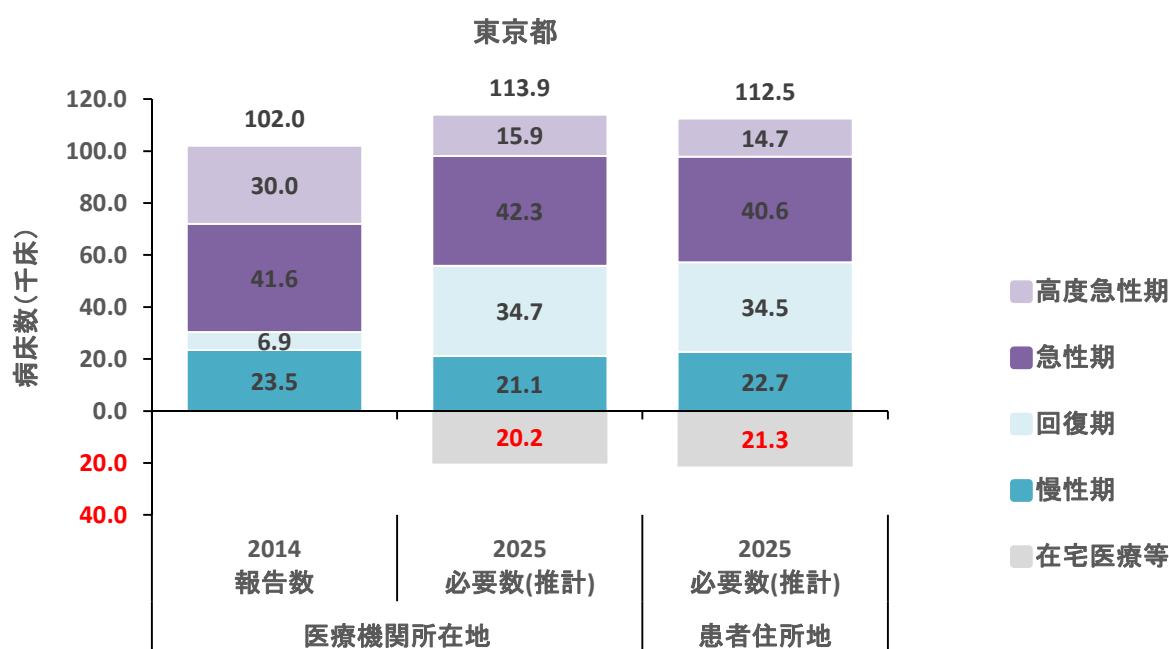
②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は30016床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は15900床であり、その差は-14116床(-47%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は41557床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は42300床であり、その差は+743床(+2%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は6900床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は34700床であり、その差は+27800床(+403%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は23509床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は21100床であり、その差は-2409床(-10%)である。

⑥在宅医療等： 2025年の追加対応患者数(推計)(医療機関所在地)は20200人である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>4</sup>は-7%であり、介護の充足度は全国平均レベルである。2040年の介護充足度指数は-55%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>3</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

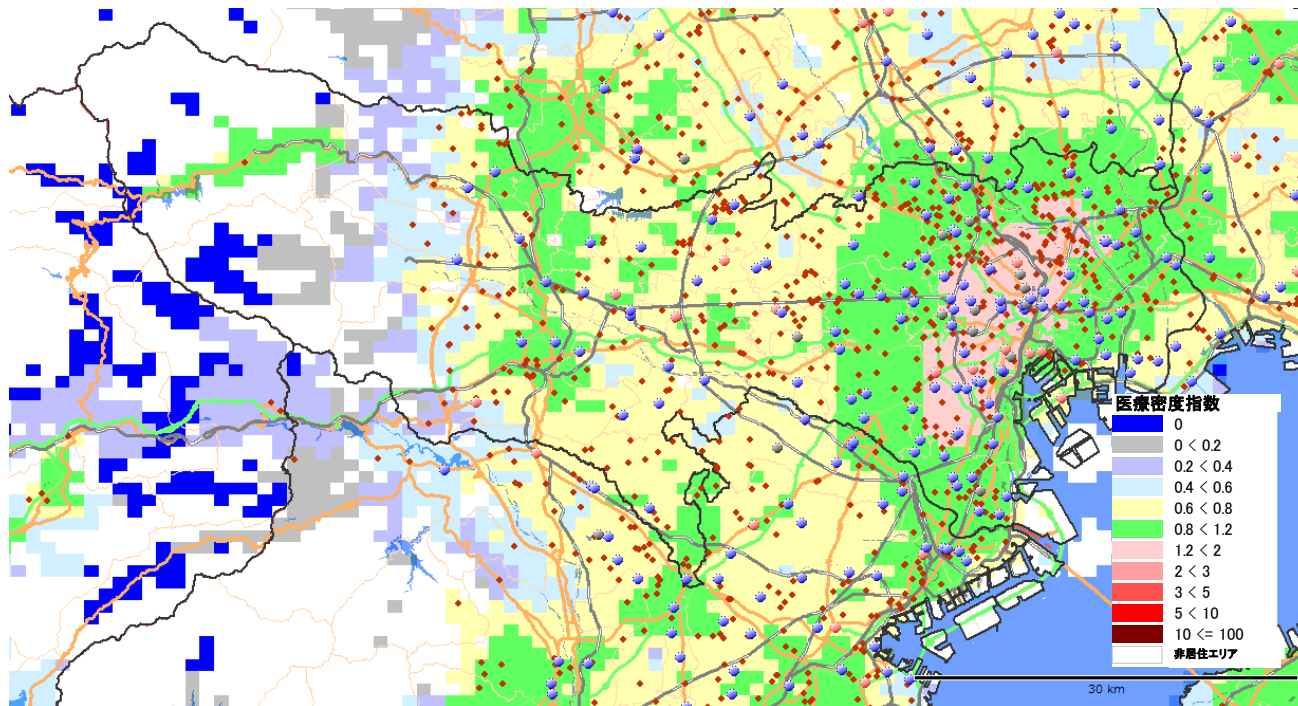
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>4</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

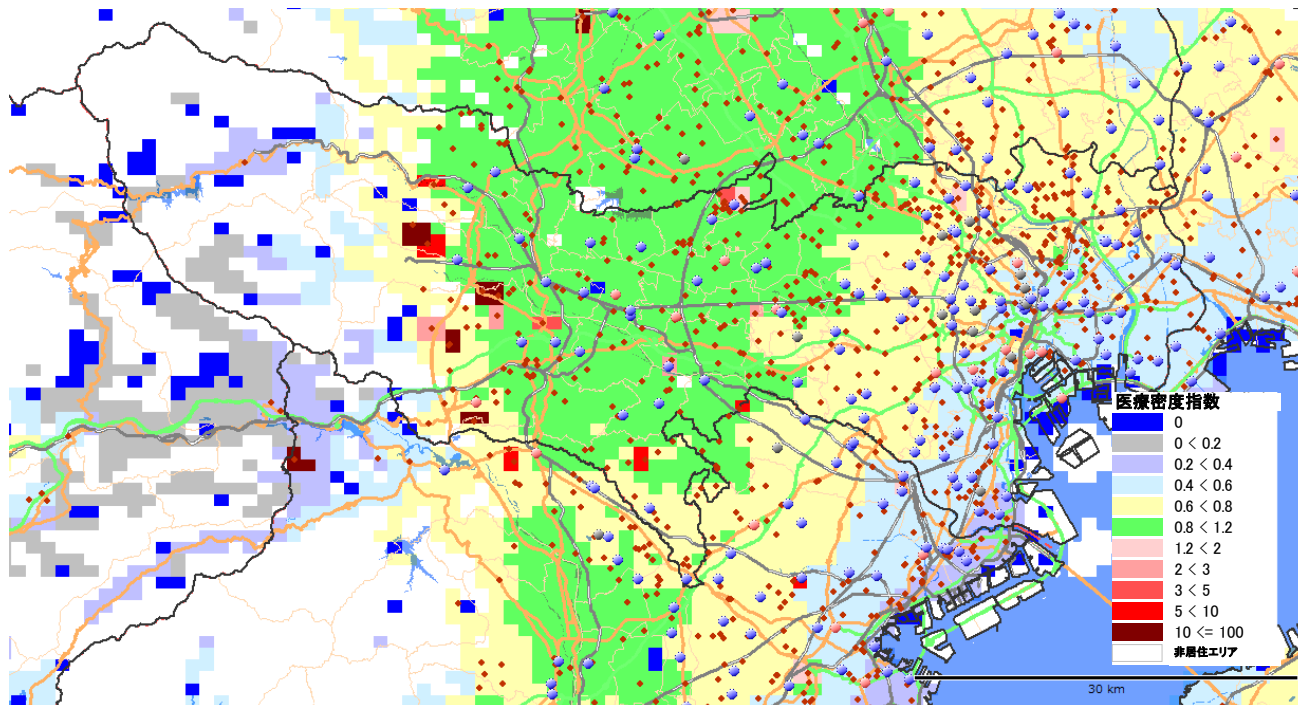
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>5</sup>

図表 13-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-2 慢性期医療密度指数マップ



<sup>5</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料<sup>1</sup>

資\_図表 13-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	126,661		372,903		339.7		27%	120,700	107,439	16,459	21,775	22,232	-5%	-11%	32%	2%
東京都	13,349	1位	2,178	45位	6,129.5		23%	13,179	12,308	1,473	1,977	2,139	-1%	-7%	34%	8%
区中央部	792	6%	64	3%	12,455.3	大都市型	20%	796	758	77	100	117	1%	-5%	30%	17%
区南部	1,078	8%	82	4%	13,118.4	大都市型	22%	1,074	1,016	113	151	158	0%	-5%	34%	5%
区西南部	1,371	10%	88	4%	15,604.2	大都市型	21%	1,361	1,282	144	185	216	-1%	-6%	28%	17%
区西部	1,196	9%	68	3%	17,629.1	大都市型	24%	1,165	1,067	143	184	200	-3%	-8%	29%	9%
区西北部	1,923	14%	114	5%	16,876.2	大都市型	24%	1,902	1,771	221	304	340	-1%	-7%	38%	12%
区東北部	1,313	10%	98	5%	13,368.9	大都市型	25%	1,244	1,098	157	197	190	-5%	-12%	25%	-4%
区東部	1,412	11%	103	5%	13,649.4	大都市型	21%	1,433	1,403	131	176	191	1%	-2%	34%	9%
西多摩	388	3%	573	26%	676.7	地方都市型	27%	362	310	48	66	66	-7%	-14%	38%	0%
南多摩	1,447	11%	325	15%	4,459.7	大都市型	25%	1,441	1,353	162	241	252	0%	-6%	49%	5%
北多摩西部	649	5%	90	4%	7,187.3	大都市型	24%	638	590	72	101	108	-2%	-8%	40%	7%
北多摩南部	1,019	8%	96	4%	10,633.9	大都市型	22%	1,017	965	110	149	172	0%	-5%	35%	15%
北多摩北部	736	6%	77	4%	9,608.0	大都市型	25%	724	674	90	118	126	-2%	-7%	31%	7%
島しょ	27	0%	401	18%	66.6	過疎地域型	33%	23	19	4	5	4	-15%	-17%	25%	-20%
出典	<人口、75歳以上人口(2015年、2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月 <面積>都道府県・市区町村別主要統計表 総務省統計局 平成22年															

<sup>1</sup>日医総研WP no.323 「地域の医療提供体制の現状と将来・都道府県別・二次医療圏別データ集(2014年度版)を更新。ウェルネス・二次医療圏データベースシステム使用。

13. 東京都

資\_図表 13-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり急性期医療密度指数	一人当たり慢性期医療密度指数	75歳以上介護充足度指数 (%)		
			2015年	2025年	2040年
全国	1.00	1.00	0.0%	-32.3%	-32.8%
東京都	0.91	0.62	-6.5%	-43.0%	-54.7%
区中央部	1.19	0.45	-40.3%	-81.8%	-111.9%
区南部	1.05	0.36	-48.8%	-97.9%	-107.9%
区西南部	1.06	0.43	-32.8%	-70.9%	-99.6%
区西部	1.00	0.57	-76.7%	-127.6%	-146.8%
区西北部	0.96	0.66	-27.8%	-75.6%	-96.3%
区東北部	1.05	0.54	-7.8%	-35.4%	-30.3%
区東部	0.87	0.31	-16.8%	-56.9%	-69.5%
西多摩	0.69	1.84	58.8%	43.1%	43.6%
南多摩	0.70	1.01	16.7%	-24.1%	-29.7%
北多摩西部	0.75	0.77	-10.7%	-56.6%	-66.3%
北多摩南部	0.71	0.53	-6.0%	-43.6%	-66.3%
北多摩北部	0.69	0.81	-0.2%	-30.7%	-40.6%
島しょ	0.18	0.37	-13.6%	-27.2%	-13.7%
出典	<p>&lt;一人当たり急性期医療密度指数&gt;&lt;一人当たり慢性期医療密度指数&gt;その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。</p> <p>&lt;75歳以上介護充足度指数&gt;高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。</p>				



資\_図表 13-3 医療費、介護給付費<sup>2</sup>

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	310	(42)	250	(37)
東京都	278	42	247	49
区中央部	270	40	279	58
区南部	301	48	251	50
区西南部	259	38	278	57
区西部	252	36	270	55
区西北部	273	41	256	52
区東北部	284	44	252	50
区東部	287	45	225	43
西多摩	288	45	201	37
南多摩	293	46	218	41
北多摩西部	282	43	225	43
北多摩南部	275	41	247	49
北多摩北部	288	45	235	46
島しょ	284	44	263	54
出典	<一人あたり医療費>平成24年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成25年度介護保険事業状況報告(年報) 平成25年度累計(平成25年3月サービス分から平成26年2月サービス分まで)			

資\_図表 13-4 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,540		6.7	(4.2)	100,528		79	(19.6)
東京都	646	7.6%	4.8	45	12,758	12.7%	96	58
区中央部	53	8%	6.7	50	2,108	17%	266	145
区南部	42	7%	3.9	43	996	8%	92	57
区西南部	51	8%	3.7	43	1,664	13%	121	71
区西部	43	7%	3.6	42	1,409	11%	118	70
区西北部	96	15%	5.0	46	1,627	13%	85	53
区東北部	85	13%	6.5	49	924	7%	70	45
区東部	54	8%	3.8	43	1,002	8%	71	46
西多摩	30	5%	7.7	52	256	2%	66	43
南多摩	77	12%	5.3	47	956	7%	66	43
北多摩西部	25	4%	3.9	43	495	4%	76	48
北多摩南部	48	7%	4.7	45	832	7%	82	51
北多摩北部	41	6%	5.6	47	468	4%	64	42
島しょ	1	0%	3.7	43	21	0%	79	50
出典	平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月			

<sup>2</sup>複数医療圏にまたがる広域連合の医療費・介護費については、構成市町村の医療圏毎の75歳以上人口比で案分した上で、二次医療圏単位で集計している。

13. 東京都

資\_図表 13-5 診療所数（全体、無床、有床）

二次医療圏	診療所数（再掲）				無床診療所数				有床診療所数			
	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	有床 診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	100,528		79	(19.6)	91,279		72	(19.0)	9,249		7.3	(7.0)
東京都	12,758	12.7%	96	58	12,256	13.4%	92	60	502	5.4%	3.8	45
区中央部	2,108	17%	266	145	2,055	17%	260	149	53	11%	6.7	49
区南部	996	8%	92	57	963	8%	89	59	33	7%	3.1	44
区西南部	1,664	13%	121	71	1,599	13%	117	73	65	13%	4.7	46
区西部	1,409	11%	118	70	1,353	11%	113	72	56	11%	4.7	46
区西北部	1,627	13%	85	53	1,555	13%	81	55	72	14%	3.7	45
区東北部	924	7%	70	45	876	7%	67	47	48	10%	3.7	45
区東部	1,002	8%	71	46	953	8%	67	48	49	10%	3.5	45
西多摩	256	2%	66	43	240	2%	62	45	16	3%	4.1	45
南多摩	956	7%	66	43	914	7%	63	45	42	8%	2.9	44
北多摩西部	495	4%	76	48	476	4%	73	51	19	4%	2.9	44
北多摩南部	832	7%	82	51	806	7%	79	54	26	5%	2.6	43
北多摩北部	468	4%	64	42	454	4%	62	45	14	3%	1.9	42
島しょ	21	0%	79	50	12	0%	45	36	9	2%	33.7	88
出典	平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月			

資\_図表 13-6 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院総病床数				診療所病床数				病院+診療所病床数			
	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院+ 診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,573,772		1,243	(510)	121,342		96	(111)	1,695,114		1,338	(576)
東京都	127,639	8.1%	956	44	4,486	3.7%	34	44	132,125	7.8%	990	44
区中央部	13,960	11%	1,764	60	367	8%	46	46	14,327	11%	1,810	58
区南部	7,962	6%	739	40	270	6%	25	44	8,232	6%	764	40
区西南部	11,078	9%	808	41	466	10%	34	44	11,544	9%	842	41
区西部	10,604	8%	887	43	439	10%	37	45	11,043	8%	923	43
区西北部	17,248	14%	897	43	597	13%	31	44	17,845	14%	928	43
区東北部	10,364	8%	790	41	602	13%	46	45	10,966	8%	835	41
区東部	8,035	6%	569	37	577	13%	41	45	8,612	7%	610	37
西多摩	6,688	5%	1,726	59	158	4%	41	45	6,846	5%	1,766	57
南多摩	17,518	14%	1,210	49	405	9%	28	44	17,923	14%	1,238	48
北多摩西部	4,425	3%	682	39	178	4%	27	44	4,603	3%	710	39
北多摩南部	11,194	9%	1,099	47	219	5%	21	43	11,413	9%	1,120	46
北多摩北部	8,509	7%	1,156	48	144	3%	20	43	8,653	7%	1,176	47
島しょ	54	0%	202	30	64	1%	240	63	118	0%	442	34
出典	平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資\_図表 13-7 病院病床数（一般病床、療養病床、精神病床）

二次医療圏	一般病床				療養病床				精神病床			
	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	897,380		708	(232)	328,195		259	(213)	339,780		268	(219)
東京都	81,420	9.1%	610	46	22,432	6.8%	168	46	23,041	6.8%	173	46
区中央部	13,017	16%	1,645	90	591	3%	75	41	304	1%	38	39
区南部	6,255	8%	580	44	1,463	7%	136	44	178	1%	17	38
区西南部	7,920	10%	577	44	1,738	8%	127	44	1,348	6%	98	42
区西部	8,704	11%	728	51	1,539	7%	129	44	317	1%	27	39
区西北部	10,151	12%	528	42	3,541	16%	184	46	3,524	15%	183	46
区東北部	6,869	8%	523	42	2,001	9%	152	45	1,453	6%	111	43
区東部	6,666	8%	472	40	1,102	5%	78	42	207	1%	15	38
西多摩	1,744	2%	450	39	2,297	10%	593	66	2,643	11%	682	69
南多摩	6,229	8%	430	38	3,909	17%	270	51	7,338	32%	507	61
北多摩西部	3,207	4%	494	41	1,149	5%	177	46	63	0%	10	38
北多摩南部	6,227	8%	611	46	1,391	6%	137	44	3,469	15%	340	53
北多摩北部	4,379	5%	595	45	1,711	8%	233	49	2,197	10%	299	51
島しょ	52	0%	195	28	0	0%	0	38	0	0%	0	38
出典	平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月				平成25年医療施設調査 厚生労働省 平成25年10月			

資\_図表 13-8 回復期リハビリ病棟病床数

二次医療圏	回復期病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	74,508		59	(46)
東京都	5,704	7.7%	43	47
区中央部	201	4%	25	43
区南部	332	6%	31	44
区西南部	462	8%	34	45
区西部	609	11%	51	48
区西北部	1,056	19%	55	49
区東北部	675	12%	51	48
区東部	425	7%	30	44
西多摩	223	4%	58	50
南多摩	547	10%	38	45
北多摩西部	306	5%	47	47
北多摩南部	476	8%	47	47
北多摩北部	392	7%	53	49
島しょ	0	0%	0	37
出典	地方厚生局データを活用した全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会の独自調査 平成27年3月			

13. 東京都

資\_図表 13-9 全身麻酔件数、分娩件数（年間）

二次医療圏	全身麻酔件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値 *全国は標準偏差	分娩件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値 *全国は標準偏差
全国	2,577,228		2,035	(946)	1,062,024		838	(291)
東京都	294,984	11.4%	2,210	52	96,732	9.1%	725	46
区中央部	73,128	25%	9,239	126	8,772	9%	1,108	59
区南部	22,704	8%	2,106	51	5,676	6%	526	39
区西南部	30,252	10%	2,206	52	13,140	14%	958	54
区西部	36,912	13%	3,086	61	9,540	10%	798	49
区西北部	28,980	10%	1,507	44	10,080	10%	524	39
区東北部	15,192	5%	1,157	41	10,116	10%	771	48
区東部	20,268	7%	1,435	44	9,348	10%	662	44
西多摩	4,680	2%	1,207	41	2,808	3%	724	46
南多摩	18,408	6%	1,272	42	9,408	10%	650	44
北多摩西部	11,064	4%	1,706	47	4,788	5%	738	47
北多摩南部	25,956	9%	2,547	55	8,088	8%	794	48
北多摩北部	7,440	3%	1,011	39	4,944	5%	672	44
島しょ	0	0%	0	28	24	0%	90	24
出典	平成23年医療施設調査 厚生労働省 平成23年10月				平成23年医療施設調査 厚生労働省 平成23年10月			

資\_図表 13-10 医師数（総数、病院医師数、診療所医師数）

二次医療圏	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値 *全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値 *全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値 *全国は標準偏差
全国	328,427		259	(89)	206,659		163	(65)	121,769		96	(30)
東京都	45,624	13.9%	342	59	27,124	13.1%	203	56	18,500	15.2%	139	64
区中央部	10,145	22%	1,282	166	6,495	24%	821	151	3,650	20%	461	170
区南部	3,576	8%	332	58	2,069	8%	192	54	1,507	8%	140	64
区西南部	4,631	10%	338	59	2,527	9%	184	53	2,104	11%	153	69
区西部	6,246	14%	522	80	3,965	15%	331	76	2,281	12%	191	81
区西北部	5,189	11%	270	51	3,070	11%	160	49	2,118	11%	110	55
区東北部	2,855	6%	218	45	1,459	5%	111	42	1,396	8%	106	53
区東部	3,233	7%	229	47	1,680	6%	119	43	1,553	8%	110	55
西多摩	796	2%	205	44	521	2%	134	46	274	1%	71	42
南多摩	2,924	6%	202	44	1,571	6%	109	42	1,353	7%	93	49
北多摩西部	1,343	3%	207	44	681	3%	105	41	662	4%	102	52
北多摩南部	3,187	7%	313	56	2,170	8%	213	58	1,017	5%	100	51
北多摩北部	1,466	3%	199	43	911	3%	124	44	555	3%	75	43
島しょ	35	0%	131	36	5	0%	19	28	30	0%	113	55
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成25年病院報告 厚生労働省 平成25年10月				平成23年医療施設調査 厚生労働省 平成23年10月			

資\_図表 13-11 看護師数（総数、病院看護師数、診療所看護師数）

二次医療圏	看護師数				病院看護師数				診療所看護師数			
	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,070,056		845	(286)	889,314		702	(241)	180,742		143	(74)
東京都	90,560	8.5%	678	44	77,761	8.7%	583	45	12,799	7.1%	96	44
区中央部	15,210	17%	1,922	88	12,266	16%	1,550	85	2,944	23%	372	81
区南部	6,189	7%	574	41	5,498	7%	510	42	692	5%	64	39
区西南部	8,640	10%	630	42	7,521	10%	548	44	1,119	9%	82	42
区西部	8,941	10%	748	47	7,911	10%	661	48	1,030	8%	86	42
区西北部	11,317	12%	589	41	9,810	13%	510	42	1,508	12%	78	41
区東北部	6,088	7%	464	37	5,106	7%	389	37	982	8%	75	41
区東部	6,378	7%	452	36	5,302	7%	375	36	1,077	8%	76	41
西多摩	2,767	3%	714	45	2,476	3%	639	47	291	2%	75	41
南多摩	8,489	9%	587	41	7,505	10%	519	42	984	8%	68	40
北多摩西部	3,504	4%	540	39	2,827	4%	436	39	677	5%	104	45
北多摩南部	8,100	9%	795	48	7,266	9%	713	50	834	7%	82	42
北多摩北部	4,853	5%	660	44	4,242	5%	576	45	611	5%	83	42
島しょ	84	0%	313	31	32	0%	121	26	51	0%	193	57
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成25年病院報告 厚生労働省 平成25年10月				平成23年医療施設調査 厚生労働省 平成23年10月			

資\_図表 13-12 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士数				薬剤師数			
	総療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	薬剤師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	111,708		88	(49)	280,052		221	(94)
東京都	8,092	7.2%	61	44	44,718	16.0%	335	62
区中央部	507	6%	64	45	12,911	29%	1,631	200
区南部	511	6%	47	42	3,622	8%	336	62
区西南部	753	9%	55	43	4,058	9%	296	58
区西部	795	10%	66	46	4,308	10%	360	65
区西北部	1,224	15%	64	45	5,205	12%	271	55
区東北部	721	9%	55	43	2,477	6%	189	47
区東部	592	7%	42	41	2,853	6%	202	48
西多摩	321	4%	83	49	620	1%	160	44
南多摩	990	12%	68	46	3,194	7%	221	50
北多摩西部	424	5%	65	45	1,430	3%	220	50
北多摩南部	722	9%	71	46	2,455	5%	241	52
北多摩北部	533	7%	72	47	1,561	3%	212	49
島しょ	1	0%	4	33	24	0%	90	36
出典	平成25年病院報告 厚生労働省 平成25年10月				平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成24年12月			

13. 東京都

資\_図表 13-13 在宅医療施設数（在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院）

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,364		0.9	(0.5)	1,027		0.1	(0.1)
東京都	1,541	10.7%	1.0	54	93	9.1%	0.1	50
区中央部	189	12%	2.4	85	3	3%	0.0	46
区南部	142	9%	1.3	58	5	5%	0.0	47
区西南部	202	13%	1.4	62	3	3%	0.0	43
区西部	181	12%	1.3	59	8	9%	0.1	49
区西北部	254	16%	1.1	56	18	19%	0.1	53
区東北部	131	9%	0.8	49	14	15%	0.1	55
区東部	122	8%	0.9	51	7	8%	0.1	48
西多摩	21	1%	0.4	40	4	4%	0.1	54
南多摩	98	6%	0.6	44	13	14%	0.1	53
北多摩西部	47	3%	0.7	45	5	5%	0.1	51
北多摩南部	94	6%	0.9	50	9	10%	0.1	53
北多摩北部	58	4%	0.6	45	4	4%	0.0	47
島しょ	2	0%	0.4	41	0	0%	0	39
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成26年11月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平成26年11月			

資\_図表 13-14 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,572,585		96	(16)	966,631		59	(13)	605,954		37	(14)
東京都	122,173	7.8%	83	42	66,362	6.9%	45	39	55,811	9.2%	38	51
区中央部	4,878	4%	63	30	2,829	4%	37	33	2,049	4%	26	43
区南部	7,219	6%	64	30	2,913	4%	26	24	4,306	8%	38	51
区西南部	9,770	8%	68	33	4,038	6%	28	26	5,732	10%	40	52
区西部	7,125	6%	50	22	3,317	5%	23	22	3,808	7%	27	43
区西北部	16,085	13%	73	36	8,229	12%	37	33	7,856	14%	36	49
区東北部	14,598	12%	93	48	7,684	12%	49	42	6,914	12%	44	55
区東部	9,848	8%	75	37	5,574	8%	42	37	4,274	8%	33	47
西多摩	10,099	8%	211	120	9,033	14%	188	150	1,066	2%	22	40
南多摩	17,947	15%	111	59	9,586	14%	59	50	8,361	15%	52	60
北多摩西部	6,349	5%	88	46	3,669	6%	51	44	2,680	5%	37	50
北多摩南部	9,467	8%	86	44	4,197	6%	38	34	5,270	9%	48	58
北多摩北部	8,452	7%	94	49	4,966	7%	55	47	3,486	6%	39	51
島しょ	336	0%	75	37	327	0%	73	61	9	0%	2	26
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資\_図表 13-15 老人保健施設（老健）定員数、特別養護老人ホーム（特養）定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設（老健）定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	特別養護 老人ホーム （特養） 定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護療養 病床数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	357,540		22	(5.7)	539,475		33	(10.2)	69,616		4.2	(4.2)
東京都	19,840	5.5%	13	36	41,039	7.6%	28	45	5,483	7.9%	3.7	49
区中央部	789	4%	10	30	1,941	5%	25	42	99	2%	1.3	43
区南部	670	3%	6	22	1,850	5%	16	34	393	7%	3.5	48
区西南部	1,099	6%	8	25	2,568	6%	18	35	371	7%	2.6	46
区西部	868	4%	6	23	2,254	5%	16	33	195	4%	1.4	43
区西北部	2,730	14%	12	34	4,690	11%	21	39	809	15%	3.7	49
区東北部	2,965	15%	19	45	4,269	10%	27	45	450	8%	2.9	47
区東部	2,328	12%	18	43	3,060	7%	23	41	186	3%	1.4	43
西多摩	1,315	7%	27	60	6,870	17%	143	159	848	15%	17.7	82
南多摩	2,541	13%	16	40	5,733	14%	35	53	1,312	24%	8.1	59
北多摩西部	1,369	7%	19	45	2,240	5%	31	48	60	1%	0.8	42
北多摩南部	1,597	8%	15	38	2,239	5%	20	38	361	7%	3.3	48
北多摩北部	1,569	8%	17	42	2,998	7%	33	51	399	7%	4.4	50
島しょ	0	0%	0	12	327	1%	73	89	0	0%	0	40
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 13-16 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	軽費 ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	グループ ホーム	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	209,255		12.7	(10.0)	20,481		1.2	(1.9)	186,381		11.3	(5.6)
東京都	35,969	17.2%	24.4	62	561	2.7%	0.4	45	8,653	4.6%	5.9	40
区中央部	1,351	4%	17.4	55	118	21%	1.5	51	410	5%	5.3	39
区南部	2,573	7%	22.7	60	81	14%	0.7	47	789	9%	7.0	42
区西南部	4,286	12%	29.9	67	0	0%	0	43	875	10%	6.1	41
区西部	2,718	8%	19.0	56	170	30%	1.2	50	680	8%	4.8	38
区西北部	4,981	14%	22.5	60	0	0%	0	43	1,190	14%	5.4	39
区東北部	3,420	10%	21.8	59	40	7%	0.3	45	1,231	14%	7.8	44
区東部	2,857	8%	21.8	59	68	12%	0.5	46	1,049	12%	8.0	44
西多摩	551	2%	11.5	49	0	0%	0	43	153	2%	3.2	35
南多摩	6,020	17%	37.2	74	30	5%	0.2	44	833	10%	5.2	39
北多摩西部	1,336	4%	18.6	56	14	2%	0.2	44	339	4%	4.7	38
北多摩南部	3,914	11%	35.7	73	40	7%	0.4	45	547	6%	5.0	39
北多摩北部	1,962	5%	21.8	59	0	0%	0	43	548	6%	6.1	41
島しょ	0	0%	0	37	0	0%	0	43	9	0%	2.0	33
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

13. 東京都

資\_図表 13-17 サービス付き高齢者専用賃貸住宅（サ高住）定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)				サ高住 (特定施設)				サ高住 (非特定施設)			
	サ高住 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		サ高住 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		サ高住 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	189,837		11.5	(6.2)	9,386		0.6	(1.2)	180,451		11.0	(5.9)
東京都	10,628	5.6%	7.2	43	981	10.5%	0.7	51	9,647	5.3%	6.6	42
区中央部	170	2%	2.2	35	0	0%	0	45	170	2%	2.2	35
区南部	863	8%	7.6	44	150	15%	1.3	56	713	7%	6.3	42
区西南部	571	5%	4.0	38	38	4%	0.3	48	533	6%	3.7	38
区西部	240	2%	1.7	34	0	0%	0	45	240	2%	1.7	34
区西北部	1,685	16%	7.6	44	290	30%	1.3	56	1,395	14%	6.3	42
区東北部	2,223	21%	14.2	54	0	0%	0	45	2,223	23%	14.2	55
区東部	300	3%	2.3	35	0	0%	0	45	300	3%	2.3	35
西多摩	362	3%	7.5	44	64	7%	1.3	56	298	3%	6.2	42
南多摩	1,478	14%	9.1	46	0	0%	0	45	1,478	15%	9.1	47
北多摩西部	991	9%	13.8	54	150	15%	2.1	62	841	9%	11.7	51
北多摩南部	769	7%	7.0	43	90	9%	0.8	52	679	7%	6.2	42
北多摩北部	976	9%	10.8	49	199	20%	2.2	63	777	8%	8.6	46
島しょ	0	0%	0	31	0	0%	0	45	0	0%	0	31
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 13-18 介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）

二次医療圏	介護サービス従事看護師数				看護師数 (施設)				看護師数 (訪問)			
	介護サー ビス従事 看護師数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (訪問)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	153,515		9.3	(2.5)	116,114		7.1	(2.3)	37,402		2.3	(0.8)
東京都	11,496	7.5%	7.8	44	7,848	6.8%	5.3	42	3,648	9.8%	2.5	53
区中央部	590	5%	7.6	43	340	4%	4.4	38	250	7%	3.2	62
区南部	741	6%	6.5	39	434	6%	3.8	36	307	8%	2.7	55
区西南部	1,153	10%	8.0	45	709	9%	4.9	41	444	12%	3.1	60
区西部	785	7%	5.5	35	451	6%	3.2	33	333	9%	2.3	51
区西北部	1,587	14%	7.2	41	1,087	14%	4.9	41	499	14%	2.3	50
区東北部	1,154	10%	7.3	42	796	10%	5.1	41	358	10%	2.3	50
区東部	918	8%	7.0	41	615	8%	4.7	40	302	8%	2.3	50
西多摩	755	7%	15.7	75	635	8%	13.2	77	120	3%	2.5	53
南多摩	1,538	13%	9.5	51	1,170	15%	7.2	51	368	10%	2.3	50
北多摩西部	559	5%	7.8	44	373	5%	5.2	42	186	5%	2.6	54
北多摩南部	898	8%	8.2	45	623	8%	5.7	44	275	8%	2.5	53
北多摩北部	801	7%	8.9	48	595	8%	6.6	48	205	6%	2.3	50
島しょ	18	0%	4.0	29	18	0%	4.0	37	0	0%	0	22
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											



資\_図表 13-19 介護サービス従事介護職員数（介護施設等、在宅介護）

二次医療圏	介護サービス従事介護職員数				介護職員数（介護施設等）				介護職員数（在宅）			
	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	1,449,644		88	(15.7)	1,230,764		75	(14.6)	218,879		13.3	(5.4)
東京都	108,585	7.5%	74	41	87,286	7.1%	59	39	21,299	9.7%	14.5	52
区中央部	5,379	5%	69	38	4,014	5%	52	34	1,365	6%	17.6	58
区南部	6,621	6%	58	31	5,240	6%	46	30	1,380	6%	12.2	48
区西南部	9,521	9%	66	36	7,280	8%	51	34	2,241	11%	15.6	54
区西部	8,426	8%	59	31	6,170	7%	43	28	2,256	11%	15.8	55
区西北部	15,635	14%	71	39	11,929	14%	54	36	3,706	17%	16.8	56
区東北部	12,757	12%	81	46	9,972	11%	63	42	2,785	13%	17.7	58
区東部	9,605	9%	73	41	7,692	9%	59	39	1,913	9%	14.6	52
西多摩	7,308	7%	152	91	6,985	8%	146	98	323	2%	6.7	38
南多摩	12,957	12%	80	45	11,184	13%	69	46	1,773	8%	11.0	46
北多摩西部	5,342	5%	74	41	4,442	5%	62	41	900	4%	12.5	49
北多摩南部	7,775	7%	71	39	6,179	7%	56	37	1,596	7%	14.6	52
北多摩北部	6,887	6%	76	43	5,869	7%	65	43	1,019	5%	11.3	46
島しょ	373	0%	83	47	329	0%	73	49	44	0%	9.9	44
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資\_図表 13-20 在宅医療・介護サービス利用者数（月間）

二次医療圏	在宅医療利用者数				訪問看護利用者数				訪問介護利用者数			
	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	
全国	733,366		45	(24)	349,081		21	(9)	1,423,393		86	(30)
東京都	110,063	15.0%	75	62	43,931	12.6%	30	59	154,400	10.8%	105	56
区中央部	9,517	9%	123	82	3,785	9%	49	80	9,576	6%	124	62
区南部	8,886	8%	78	64	3,930	9%	35	65	11,433	7%	101	55
区西南部	13,204	12%	92	70	6,186	14%	43	74	17,485	11%	122	62
区西部	12,277	11%	86	67	3,959	9%	28	57	16,261	11%	114	59
区西北部	13,796	13%	62	57	4,823	11%	22	51	25,616	17%	116	60
区東北部	19,033	17%	121	82	3,836	9%	24	54	17,795	12%	113	59
区東部	9,992	9%	76	63	3,017	7%	23	52	13,663	9%	104	56
西多摩	483	0%	10	36	941	2%	20	48	2,185	1%	46	37
南多摩	8,654	8%	54	54	4,712	11%	29	59	13,975	9%	86	50
北多摩西部	4,296	4%	60	56	2,544	6%	35	66	6,487	4%	90	51
北多摩南部	6,053	5%	55	54	3,599	8%	33	63	11,332	7%	103	56
北多摩北部	3,669	3%	41	48	2,599	6%	29	58	8,307	5%	92	52
島しょ	203	0%	45	50	0	0%	0	27	285	0%	63	42
出典	平成27年4月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

13. 東京都

資\_図表 13-21 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)<sup>3</sup> — 合計病床数

(高度急性期+急性期+回復期+慢性期)

二次医療圏	2014年 報告数	医療機関所在地			患者住所地	
		2025年 必要病床 数(推計)	報告数と 必要数 (推計)の差	差の割合 (%) (報告数を 分母)	2025年 必要病床 数(推計)	医療機関 所在地/ 患者住所 地 (2025年)
全国	1,234,000	1,181,600	-52,400	-4%	1,181,700	100.0%
東京都	101,982	113,900	11,918	12%	112,500	98.8%
区中央部	13,761	14,474	713	5%	7,247	50.1%
区南部	7,990	8,508	518	6%	9,230	108.5%
区西南部	9,876	9,971	94	1%	10,467	105.0%
区西部	10,282	12,106	1,824	18%	11,278	93.2%
区西北部	14,263	15,383	1,120	8%	17,319	112.6%
区東北部	9,264	9,715	451	5%	11,423	117.6%
区東部	8,285	8,417	132	2%	10,371	123.2%
西多摩	4,245	3,759	-487	-11%	3,214	85.5%
南多摩	10,253	11,935	1,682	16%	12,336	103.4%
北多摩西部	4,530	4,835	305	7%	5,335	110.3%
北多摩南部	7,617	8,704	1,087	14%	7,725	88.7%
北多摩北部	5,584	6,037	453	8%	6,290	104.2%
島しょ	114	40	-74	-65%	249	617.9%
出典	都道府県ホームページ、社会保障制度改革推進本部「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第一次報告」					

<sup>3</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

合計病床数には無回答が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

資\_図表 13-22 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup> — 高度急性期病床数

二次医療圏	合計病床数			高度急性期病床数						
	2014年 報告数	2025年 必要病床 数(推計) 医療施設 住所地	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	2014年 報告数	合計に 対する 比率	2025年 必要病床 数(推計) 医療機関 所在地	報告数と 必要数 (推計)の差	差の割合 (%) (報告数を 分母)	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	医療機関 所在地/ 患者住所 地 (2025年)
全国	1,234,000	1,181,600	1,181,700	191,000	15.5%	130,300	-60,700	-31.8%	130,300	100.0%
東京都	101,982	113,900	112,500	30,016	29.4%	15,900	-14,116	-47.0%	14,700	92.5%
区中央部	13,761	14,474	7,247	9,193	66.8%	3,298	-5,895	-64.1%	1,134	34.4%
区南部	7,990	8,508	9,230	3,132	39.2%	1,349	-1,783	-56.9%	1,342	99.5%
区西南部	9,876	9,971	10,467	1,500	15.2%	1,492	-8	-0.5%	1,505	100.9%
区西部	10,282	12,106	11,278	3,815	37.1%	2,056	-1,759	-46.1%	1,508	73.3%
区西北部	14,263	15,383	17,319	4,486	31.5%	1,845	-2,641	-58.9%	2,198	119.1%
区東北部	9,264	9,715	11,423	496	5.4%	837	341	68.7%	1,326	158.5%
区東部	8,285	8,417	10,371	1,636	19.7%	1,087	-549	-33.5%	1,435	131.9%
西多摩	4,245	3,759	3,214	33	0.8%	274	241	730.3%	361	131.6%
南多摩	10,253	11,935	12,336	1,825	17.8%	995	-830	-45.5%	1,421	142.9%
北多摩西部	4,530	4,835	5,335	1,009	22.3%	594	-415	-41.1%	703	118.2%
北多摩南部	7,617	8,704	7,725	2,844	37.3%	1,430	-1,414	-49.7%	966	67.6%
北多摩北部	5,584	6,037	6,290	1,102	19.7%	596	-506	-45.9%	760	127.5%
島しょ	114	40	249	0	0.0%	0	0	0.0%	39	0.0%
出典	都道府県ホームページ、社会保障制度改革推進本部「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第一次報告」									

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

13. 東京都

資\_図表 13-23 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)<sup>5</sup> — 急性期病床数

二次医療圏	合計病床数			急性期病床数						
	2014年 報告数	2025年 必要病床 数(推計) 医療施設 住所地	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	2014年 報告数	合計に 対する 比率	2025年 必要病床 数(推計) 医療機関 所在地	報告数と 必要数 (推計)の差	差の割合 (%) (報告数を 分母)	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	医療機関 所在地/ 患者住所 地 (2025年)
全国	1,234,000	1,181,600	1,181,700	581,000	47.1%	400,600	-180,400	-31.0%	400,600	100.0%
東京都	101,982	113,900	112,500	41,557	40.7%	42,300	743	1.8%	40,600	96.0%
区中央部	13,761	14,474	7,247	3,778	27.5%	6,712	2,934	77.6%	2,676	39.9%
区南部	7,990	8,508	9,230	3,001	37.6%	3,563	562	18.7%	3,651	102.4%
区西南部	9,876	9,971	10,467	6,010	60.9%	3,710	-2,300	-38.3%	3,950	106.5%
区西部	10,282	12,106	11,278	4,315	42.0%	4,982	667	15.5%	4,034	81.0%
区西北部	14,263	15,383	17,319	4,881	34.2%	5,513	632	12.9%	6,368	115.5%
区東北部	9,264	9,715	11,423	5,249	56.7%	3,161	-2,088	-39.8%	4,047	128.0%
区東部	8,285	8,417	10,371	4,727	57.1%	3,634	-1,093	-23.1%	4,120	113.4%
西多摩	4,245	3,759	3,214	1,637	38.6%	966	-671	-41.0%	1,078	111.5%
南多摩	10,253	11,935	12,336	3,374	32.9%	3,290	-85	-2.5%	4,070	123.7%
北多摩西部	4,530	4,835	5,335	1,782	39.3%	1,787	5	0.3%	1,886	105.6%
北多摩南部	7,617	8,704	7,725	2,578	33.8%	3,088	510	19.8%	2,581	83.6%
北多摩北部	5,584	6,037	6,290	1,756	31.4%	1,877	121	6.9%	2,066	110.1%
島しょ	114	40	249	114	100.0%	21	-93	-81.8%	89	430.9%
出典	都道府県ホームページ、社会保障制度改革推進本部「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第一次報告」									

<sup>5</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

資\_図表 13-24 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)<sup>6</sup> — 回復期病床数

二次医療圏	合計病床数			回復期病床数						
	2014年 報告数	2025年 必要病床 数(推計) 医療施設 住所地	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	2014年 報告数	合計に 対する 比率	2025年 必要病床 数(推計) 医療機関 所在地	報告数と 必要数 (推計)の差	差の割合 (%) (報告数を 分母)	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	医療機関 所在地/ 患者住所 地 (2025年)
全国	1,234,000	1,181,600	1,181,700	110,000	8.9%	375,200	265,200	241.1%	375,300	100.0%
東京都	101,982	113,900	112,500	6,900	6.8%	34,700	27,800	402.9%	34,500	99.4%
区中央部	13,761	14,474	7,247	295	2.1%	3,906	3,611	1223.9%	2,259	57.8%
区南部	7,990	8,508	9,230	404	5.1%	2,730	2,326	575.6%	2,782	101.9%
区西南部	9,876	9,971	10,467	711	7.2%	3,080	2,369	333.2%	3,106	100.9%
区西部	10,282	12,106	11,278	656	6.4%	3,934	3,278	499.7%	3,714	94.4%
区西北部	14,263	15,383	17,319	1,207	8.5%	4,879	3,672	304.3%	5,352	109.7%
区東北部	9,264	9,715	11,423	797	8.6%	3,370	2,573	322.8%	3,783	112.3%
区東部	8,285	8,417	10,371	733	8.8%	2,739	2,006	273.7%	3,004	109.7%
西多摩	4,245	3,759	3,214	220	5.2%	1,031	811	368.6%	1,040	100.9%
南多摩	10,253	11,935	12,336	617	6.0%	3,067	2,450	397.0%	3,641	118.7%
北多摩西部	4,530	4,835	5,335	400	8.8%	1,454	1,054	263.5%	1,510	103.8%
北多摩南部	7,617	8,704	7,725	495	6.5%	2,636	2,141	432.6%	2,254	85.5%
北多摩北部	5,584	6,037	6,290	503	9.0%	1,830	1,327	263.8%	1,941	106.0%
島しょ	114	40	249	0	0.0%	20	20	0.0%	88	449.5%
出典	都道府県ホームページ、社会保障制度改革推進本部「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第一次報告」									

<sup>6</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

13. 東京都

資\_図表 13-25 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)<sup>7</sup> — 慢性期病床数

二次医療圏	合計病床数			慢性期病床数						
	2014年 報告数	2025年 必要病床 数(推計) 医療施設 住所地	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	2014年 報告数	合計に 対する 比率	2025年 必要病床 数(推計) 医療機関 所在地	報告数と 必要数 (推計)の差	差の割合 (%) (報告数を 分母)	2025年 必要病床 数(推計) 患者住所 地	医療機関 所在地/ 患者住所 地 (2025年)
全国	1,234,000	1,181,600	1,181,700	352,000	28.5%	275,500	-76,500	-21.7%	275,500	100.0%
東京都	101,982	113,900	112,500	23,509	23.1%	21,100	-2,409	-10.2%	22,700	107.6%
区中央部	13,761	14,474	7,247	495	3.6%	559	64	12.9%	1,179	211.0%
区南部	7,990	8,508	9,230	1,279	16.0%	866	-413	-32.3%	1,456	168.1%
区西南部	9,876	9,971	10,467	1,655	16.8%	1,689	34	2.0%	1,906	112.8%
区西部	10,282	12,106	11,278	1,473	14.3%	1,134	-339	-23.0%	2,023	178.4%
区西北部	14,263	15,383	17,319	3,689	25.9%	3,146	-543	-14.7%	3,402	108.1%
区東北部	9,264	9,715	11,423	2,714	29.3%	2,347	-367	-13.5%	2,267	96.6%
区東部	8,285	8,417	10,371	1,109	13.4%	957	-152	-13.7%	1,812	189.4%
西多摩	4,245	3,759	3,214	2,321	54.7%	1,487	-834	-35.9%	735	49.4%
南多摩	10,253	11,935	12,336	4,437	43.3%	4,584	147	3.3%	3,204	69.9%
北多摩西部	4,530	4,835	5,335	1,339	29.6%	1,001	-338	-25.3%	1,237	123.6%
北多摩南部	7,617	8,704	7,725	1,605	21.1%	1,551	-54	-3.4%	1,924	124.1%
北多摩北部	5,584	6,037	6,290	2,173	38.9%	1,734	-439	-20.2%	1,523	87.8%
島しょ	114	40	249	0	0.0%	0	0	0.0%	33	0.0%
出典	都道府県ホームページ、社会保障制度改革推進本部「医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第一次報告」									

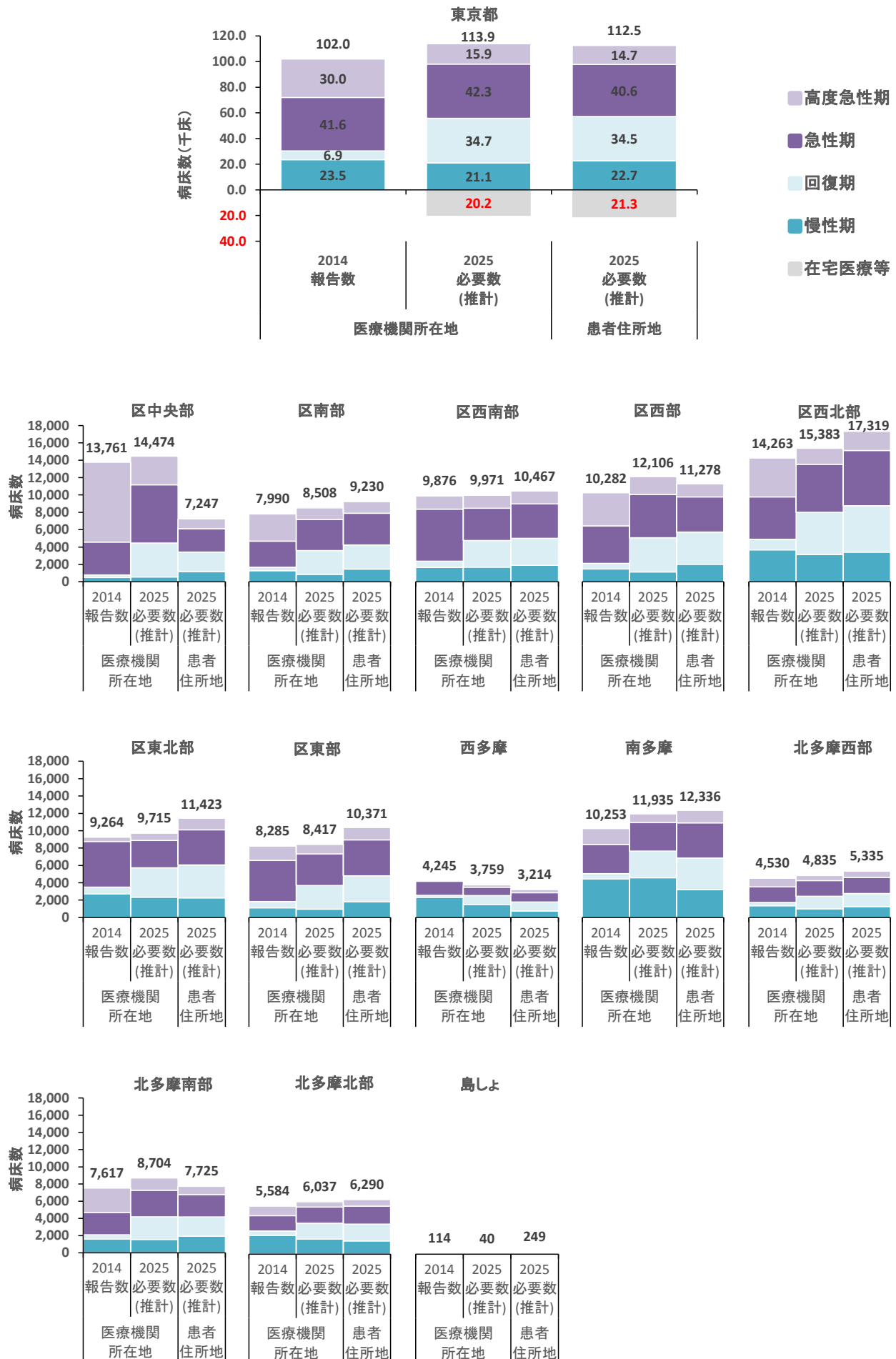
<sup>7</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

資\_図表 13-26 病床機能報告制度報告数と2025年必要病床数(推計)(再掲)



13. 東京都

資\_図表 13-27 公的病院病床数、民間病院病床数

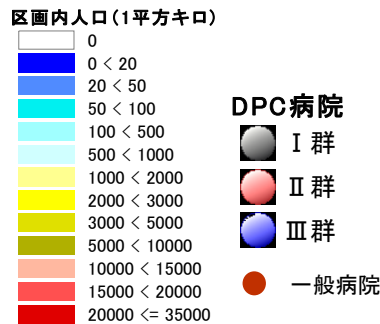
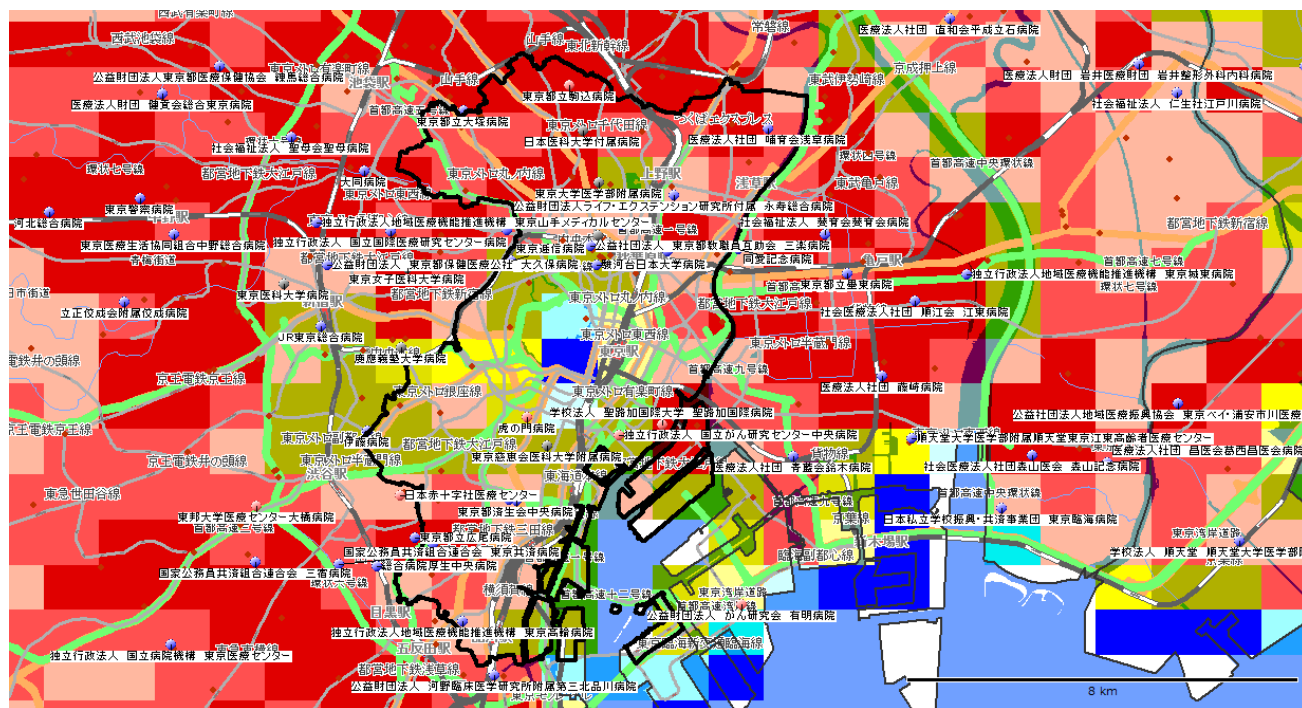
二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般病床数	療養病床数	総病床数	一般病床数	療養病床数	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差	公的病院 病床数 の比率	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	549,932	467,163	29,302	1,011,492	427,742	293,995	52.2%	(24%)	9.1%	(23%)
東京都	42,969	36,039	2,190	85,340	46,713	19,966	43.6%	46	9.9%	50
区中央部	8,817	8,427	220	4,981	4,439	365	65.5%	55	37.6%	62
区南部	1,788	1,645	93	6,434	4,761	1,393	25.7%	39	6.3%	49
区西南部	6,399	4,839	278	4,570	2,899	1,646	62.5%	54	14.4%	52
区西部	2,827	2,365	380	7,744	6,374	1,093	27.1%	40	25.8%	57
区西北部	3,481	2,997	72	13,890	7,370	3,502	28.9%	40	2.0%	47
区東北部	827	646	164	9,642	6,249	1,933	9.4%	32	7.8%	49
区東部	3,663	3,587	30	4,253	3,092	982	53.7%	51	3.0%	47
西多摩	1,231	1,177	0	5,491	1,007	1,902	53.9%	51	0.0%	46
南多摩	3,247	2,358	0	14,363	4,071	3,863	36.7%	44	0.0%	46
北多摩西部	1,966	1,781	116	2,443	1,437	1,006	55.3%	51	10.3%	51
北多摩南部	3,785	2,764	44	7,411	3,610	1,281	43.4%	46	3.3%	48
北多摩北部	4,886	3,401	793	4,118	1,404	1,000	70.8%	58	44.2%	65
島しょ	52	52	0	0	0	0	100.0%	70		
出典	地方厚生局届出受理名簿平成27年5月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計(一部、ウェルネス独自調査含む) 公的病院はここでは、開設者が国もしくは都道府県、市町村、地方行政法人、その他の公的医療機関(日赤など)としている。									



くちゅうおうぶ  
**13-1. 区中央部医療圏**

構成市区町村<sup>1</sup> 千代田区,中央区,港区,文京区,台東区

人口分布<sup>2</sup> (1km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 区中央部医療圏を1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## (区中央部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区中央部(千代田区)は、総人口約 792 千人(2015 年推計)、面積 64 km<sup>2</sup>、人口密度は 12455 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区中央部の総人口は 2025 年に 796 千人へと増加し(2015 年比+1%)、2040 年に 758 千人へと減少する(2025 年比-5%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 77 千人が、2025 年にかけて 100 千人へと増加し(2015 年比+30%)、2040 年には 117 千人へと増加する(2025 年比+17%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区中央部の一人当たり医療費(国保)は 270 千円(偏差値 40)、介護給付費は 279 千円(偏差値 58)であり、医療費は低い、介護給付費は高い。

### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区中央部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 1.19、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.45 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 166(病院医師数 151、診療所医師数 170)と、総医師数は非常に多く、病院医師数、診療所医師数ともに、非常に多い。総看護師数の偏差値は 88 と非常に多い。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 90 で、一般病床は非常に多い。全身麻酔数の偏差値は 126 と非常に多い。区中央部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の聖路加国際病院(Ⅱ群・救命)、三田病院、東京都立駒込病院(Ⅱ群)、三井記念病院、東京都済生会中央病院(救命)、東京大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、日本医科大学付属病院(Ⅰ群・救命)、順天堂大学医学部附属順天堂医院(Ⅰ群)、国立がん研究センター中央病院(Ⅱ群)、東京慈恵会医科大学附属病院(Ⅰ群)、東京医科歯科大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、虎の門病院(Ⅱ群)、1000 例以上の北里大学北里研究所病院、駿河台日本大学病院(救命)、東京逋信病院、500 例以上の三楽病院、東京高輪病院、永寿総合病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 41 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 45 とやや少なく、回復期病床数は偏差値 43 と少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 39 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 145 で診療所数は非常に多い。

### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区中央部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、4878 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 30)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 2829 床(偏差値 33)、高齢者住宅等が 2049 床(偏差値 43)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回り、高齢者住宅系は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、4014 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 34)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 30、特別養護老人ホーム 42、介護療養型医療施設 43、有料老人ホーム 55、軽費ホーム 51、グループホーム 39、サ高住 35 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 85 と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値 46

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

とやや少ない。介護職員（在宅）の合計は、1365人（75歳以上1000人当たりの偏差値58）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

### 【医療と介護の需要予測】

#### \*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

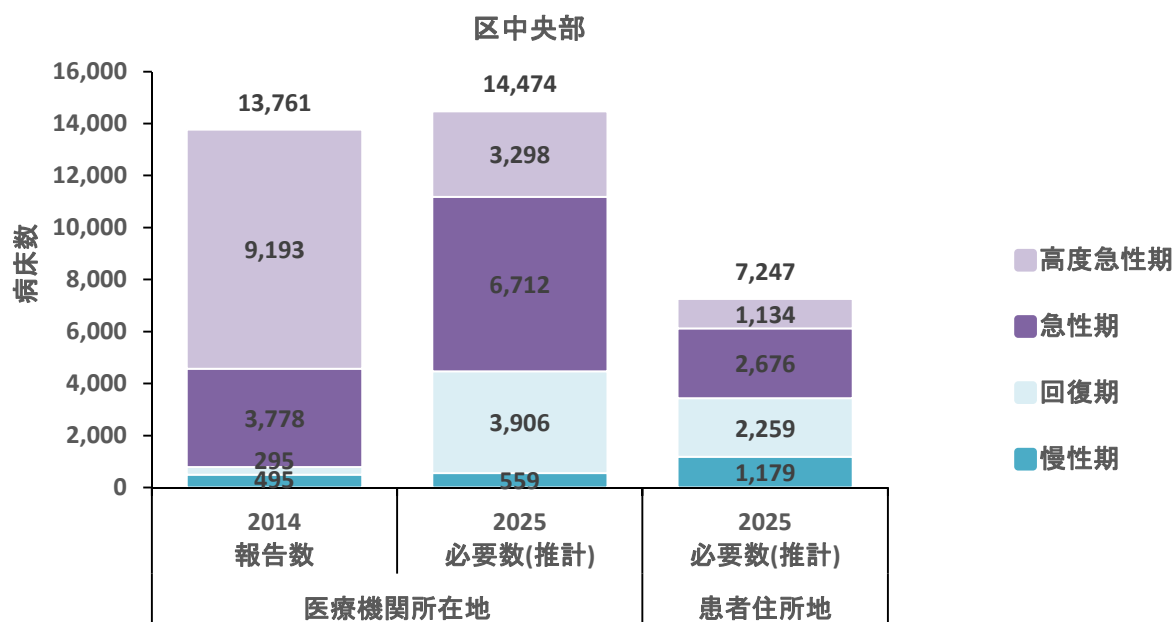
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は13761床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は14474床であり、その差は+713床(+5%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は9193床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3298床であり、その差は-5895床(-64%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は3778床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は6712床であり、その差は+2934床(+78%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は295床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3906床であり、その差は+3611床(+1224%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は495床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は559床であり、その差は+64床(+13%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-40%であり、介護の充足度はかなり低い。2040年の介護充足度指数は-112%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

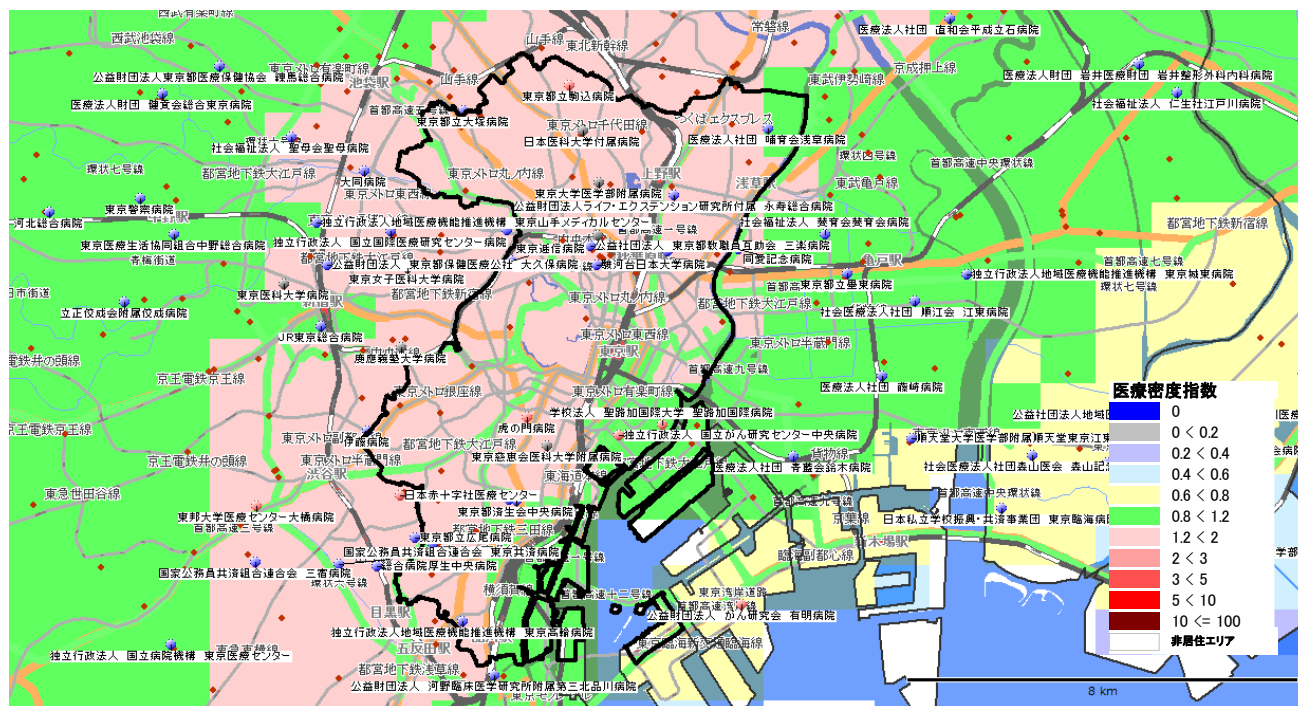
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多い/少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

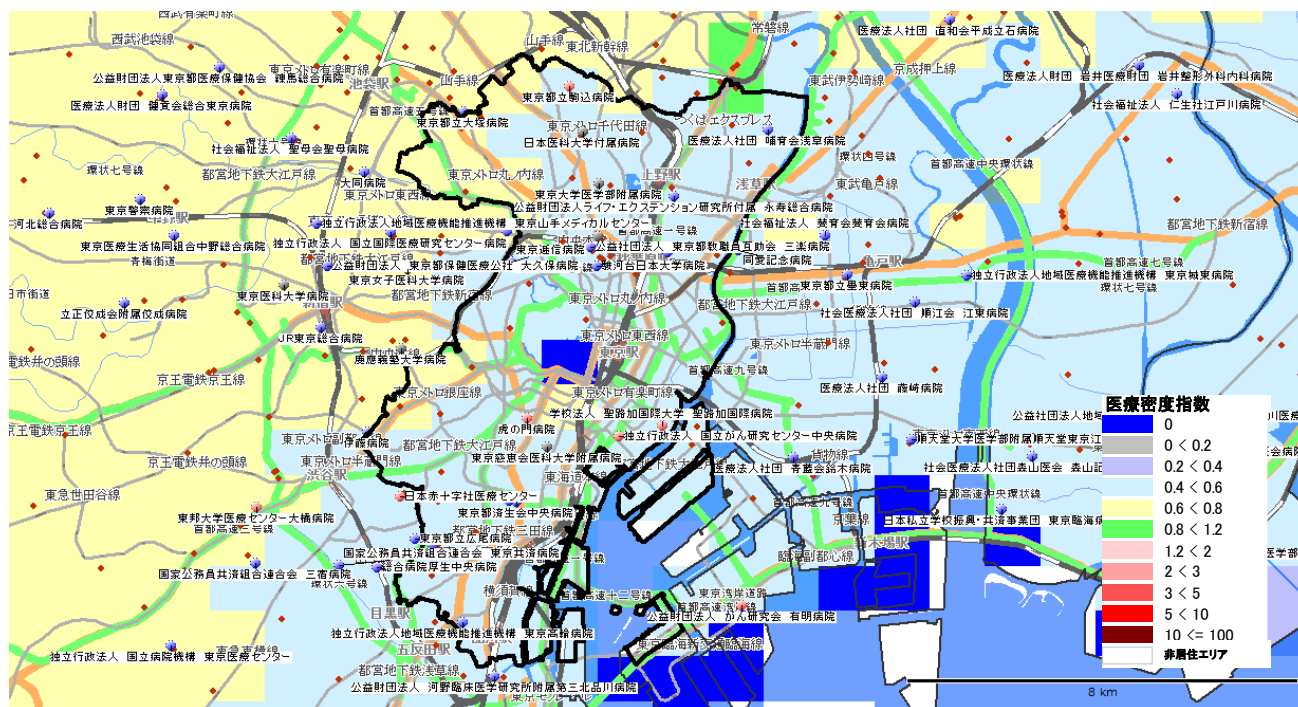
# 13. 東京都

## 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-1-2 慢性期医療密度指数マップ

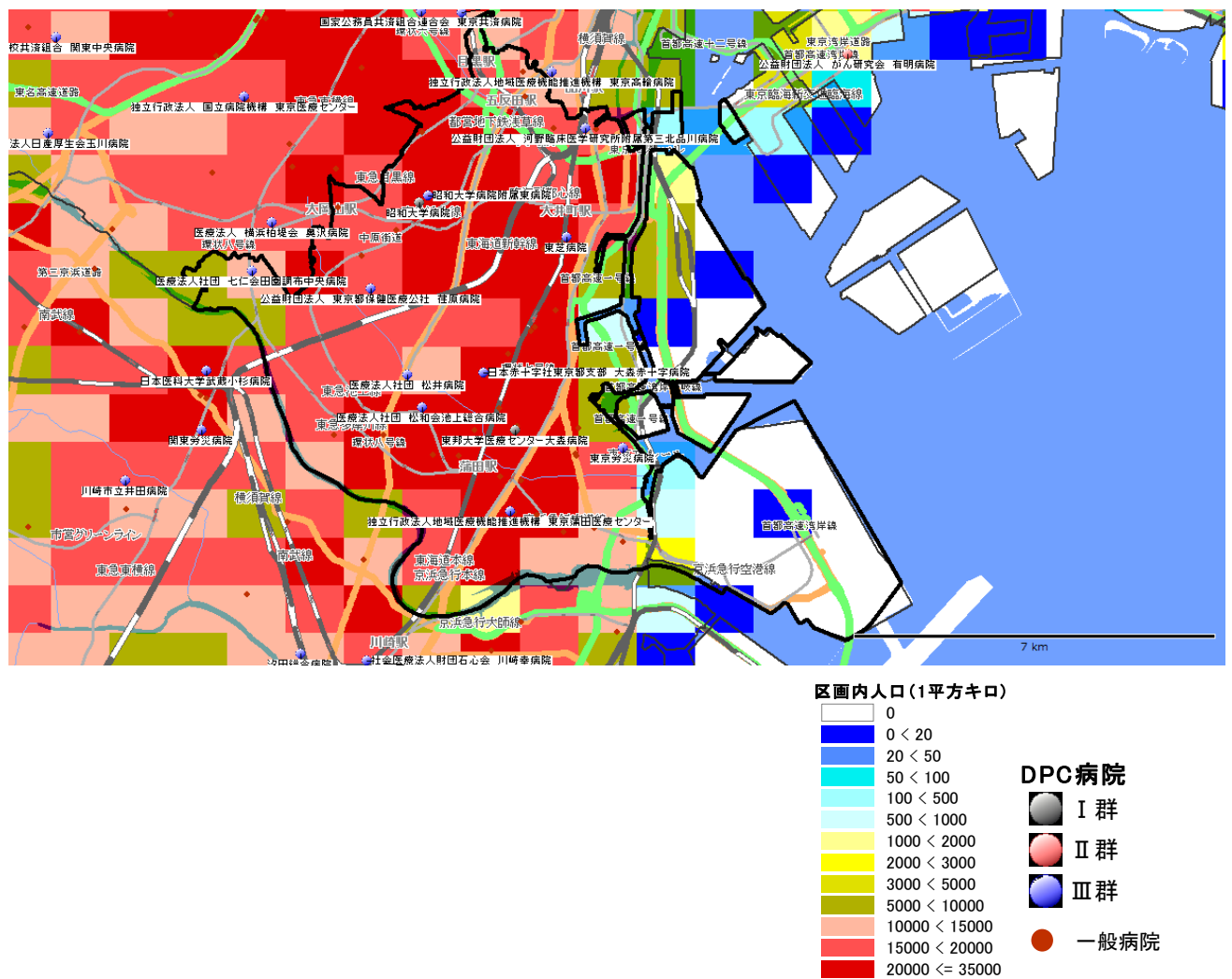


<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# くなんぶ 13-2. 区南部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 品川区,大田区

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地名をクリックするとリンク先へ移動します。

<sup>2</sup> 区南部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (区南部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区南部(品川区)は、総人口約 1078 千人(2015 年推計)、面積 82 km<sup>2</sup>、人口密度は 13118 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区南部の総人口は 2025 年に 1074 千人とほぼ変わらず(2015 年比±0%)、2040 年に 1016 千人へと減少する(2025 年比-5%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 113 千人が、2025 年にかけて 151 千人へと増加し(2015 年比+34%)、2040 年には 158 千人へと増加する(2025 年比+5%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区南部の一人当たり医療費(国保)は 301 千円(偏差値 48)、介護給付費は 251 千円(偏差値 50)であり、医療費、介護給付費ともに全国平均レベルである。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区南部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 1.05、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.36 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 58(病院医師数 54、診療所医師数 64)と、総医師数、診療所医師数は多い。総看護師数の偏差値は 41 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 44 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 51 と全国平均レベルである。区南部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の昭和大学病院(I 群・救命)、大森病院(I 群・救命)、1000 例以上の東京労災病院、荏原病院、大森赤十字病院、500 例以上の松和会池上総合病院、東芝病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 44 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 42 と少なく、回復期病床数は偏差値 44 と少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 38 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 57 で診療所数は多い。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区南部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、7219 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 30)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 2913 床(偏差値 24)、高齢者住宅等が 4306 床(偏差値 51)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5240 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 30)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 22、特別養護老人ホーム 34、介護療養型医療施設 48、有料老人ホーム 60、軽費ホーム 47、グループホーム 42、サ高住 44 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 58 と多く、在宅療養支援病院は偏差値 47 とやや少ない。介護職員(在宅)の合計は、1380 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 48)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

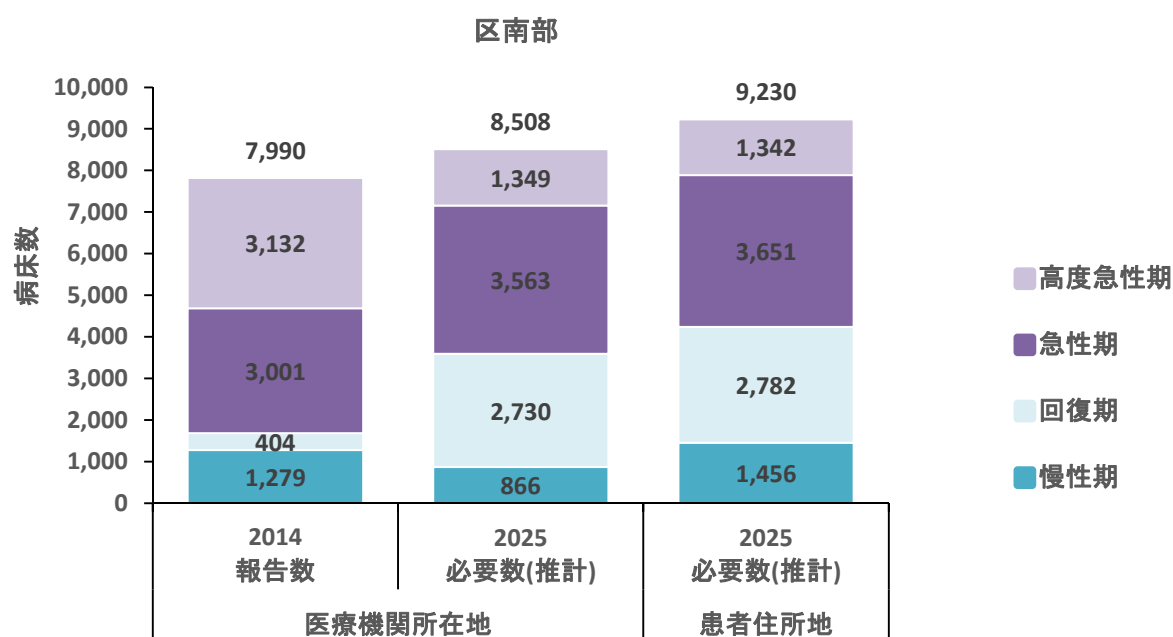
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は7990床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は8508床であり、その差は+518床(+6%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は3132床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1349床であり、その差は-1783床(-57%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は3001床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3563床であり、その差は+562床(+19%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は404床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は2730床であり、その差は+2326床(+576%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1279床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は866床であり、その差は-413床(-32%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-49%であり、介護の充足度はかなり低い。2040年の介護充足度指数は-108%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

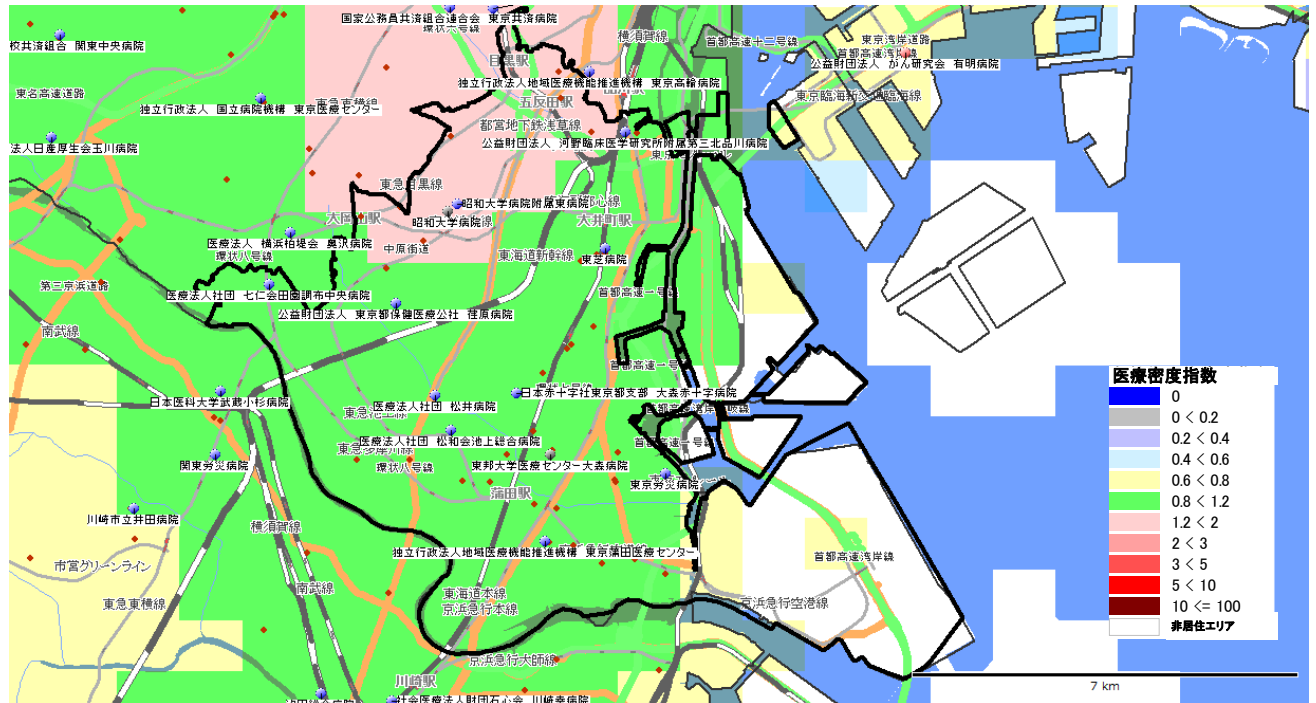
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

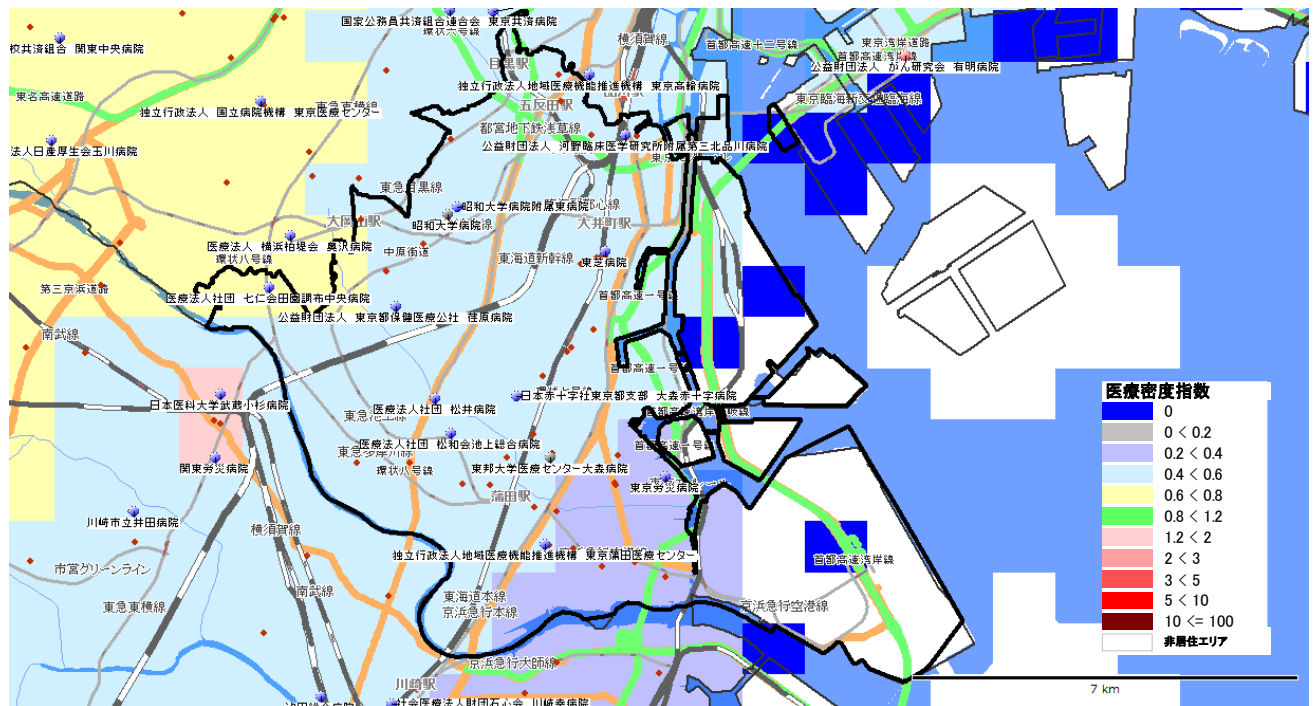
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-2-2 慢性期医療密度指数マップ



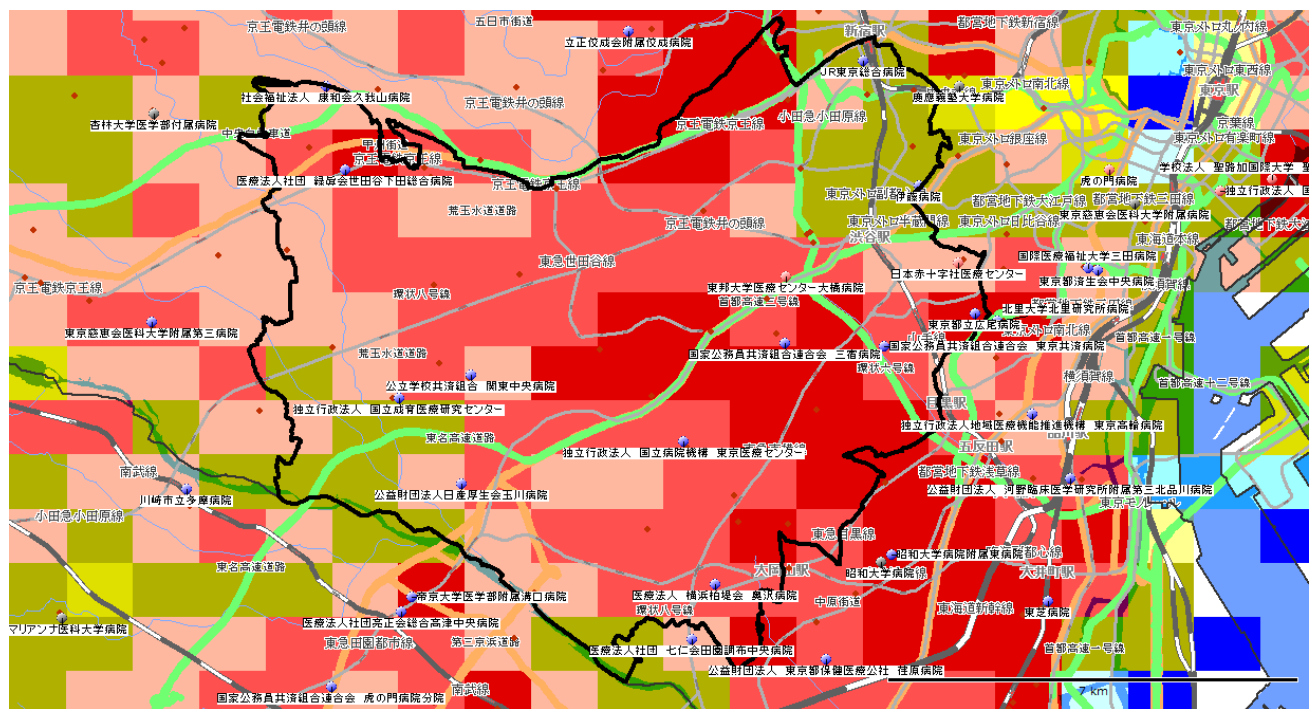
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# くせいなんぶ 13-3. 区西南部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 目黒区, 世田谷区, 渋谷区

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



● 一般病院

<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 区西南部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系は人口が多く(10,000 人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系は中間レベル(1,000~10,000 人/km<sup>2</sup>)、青色系は人口が少ない(1,000 人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (区西南部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区西南部(目黒区)は、総人口約 1371 千人(2015 年推計)、面積 88 km<sup>2</sup>、人口密度は 15604 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区西南部の総人口は 2025 年に 1361 千人へと減少し(2015 年比-1%)、2040 年に 1282 千人へと減少する(2025 年比-6%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 144 千人が、2025 年にかけて 185 千人へと増加し(2015 年比+28%)、2040 年には 216 千人へと増加する(2025 年比+17%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区西南部の一人当たり医療費(国保)は 259 千円(偏差値 38)、介護給付費は 278 千円(偏差値 57)であり、医療費は低い、介護給付費は高い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区西南部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 1.06、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.43 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 59(病院医師数 53、診療所医師数 69)と、総医師数は多く、診療所医師数は非常に多い。総看護師数の偏差値は 42 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 44 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 52 と全国平均レベルである。区西南部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の東京医療センター(救命)、日本赤十字社医療センター(Ⅱ群・救命)、国立成育医療研究センター、大橋病院(Ⅱ群)、1000 例以上の J R 東京総合病院、伊藤病院、関東中央病院、玉川病院、広尾病院(救命)、厚生中央病院、東京共済病院、500 例以上の三宿病院、康和会久我山病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 44 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 43 と少なく、回復期病床数は偏差値 45 とやや少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 42 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 71 で診療所数は非常に多い。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区西南部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9770 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 33)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 4038 床(偏差値 26)、高齢者住宅等が 5732 床(偏差値 52)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、7280 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 34)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 25、特別養護老人ホーム 35、介護療養型医療施設 46、有料老人ホーム 67、軽費ホームなし(偏差値 43)、グループホーム 41、サ高住 38 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 62 と多く、在宅療養支援病院は偏差値 43 と少

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実。

ない。介護職員（在宅）の合計は、2241人（75歳以上1000人当たりの偏差値54）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや上回る。

### 【医療と介護の需要予測】

#### \*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

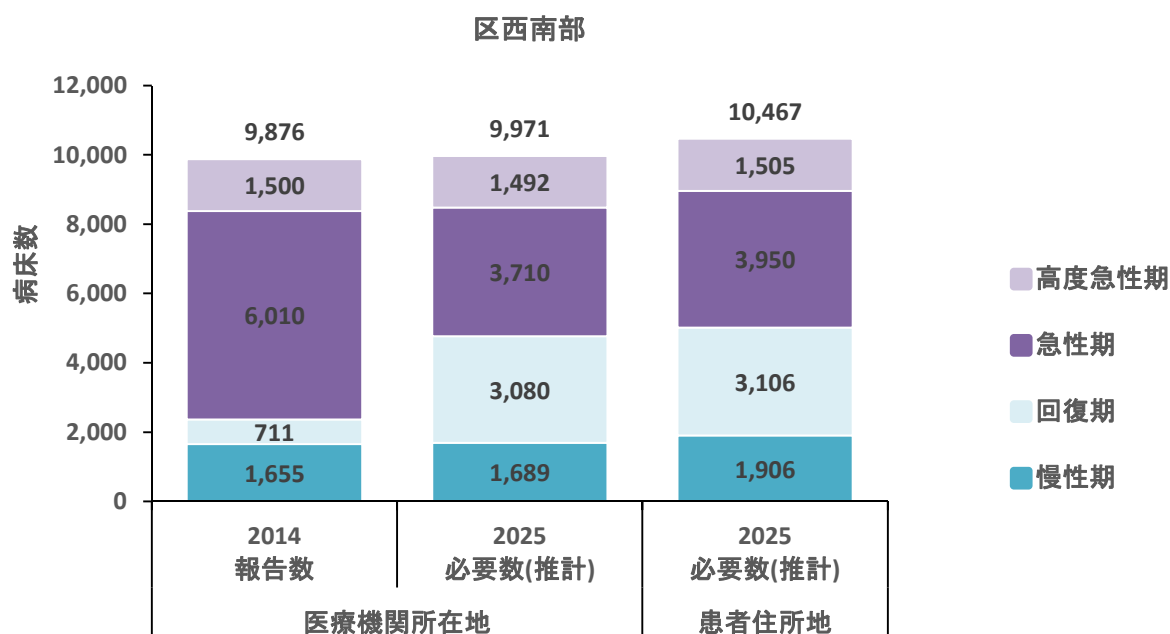
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は9876床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は9971床であり、その差は+95床(+1%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は1500床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1492床であり、その差は-8床(-1%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は6010床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3710床であり、その差は-2300床(-38%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は711床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3080床であり、その差は+2369床(+333%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1655床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1689床であり、その差は+34床(+2%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-33%であり、介護の充足度はかなり低い。2040年の介護充足度指数は-100%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

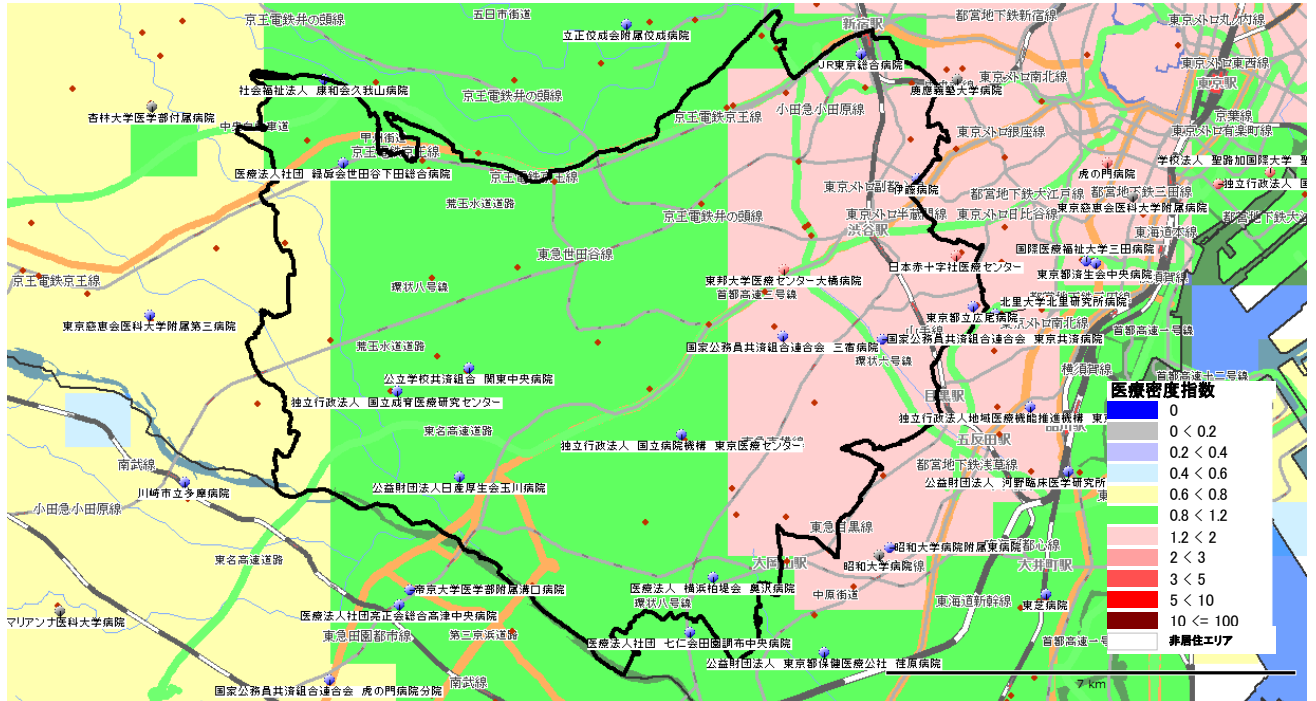
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

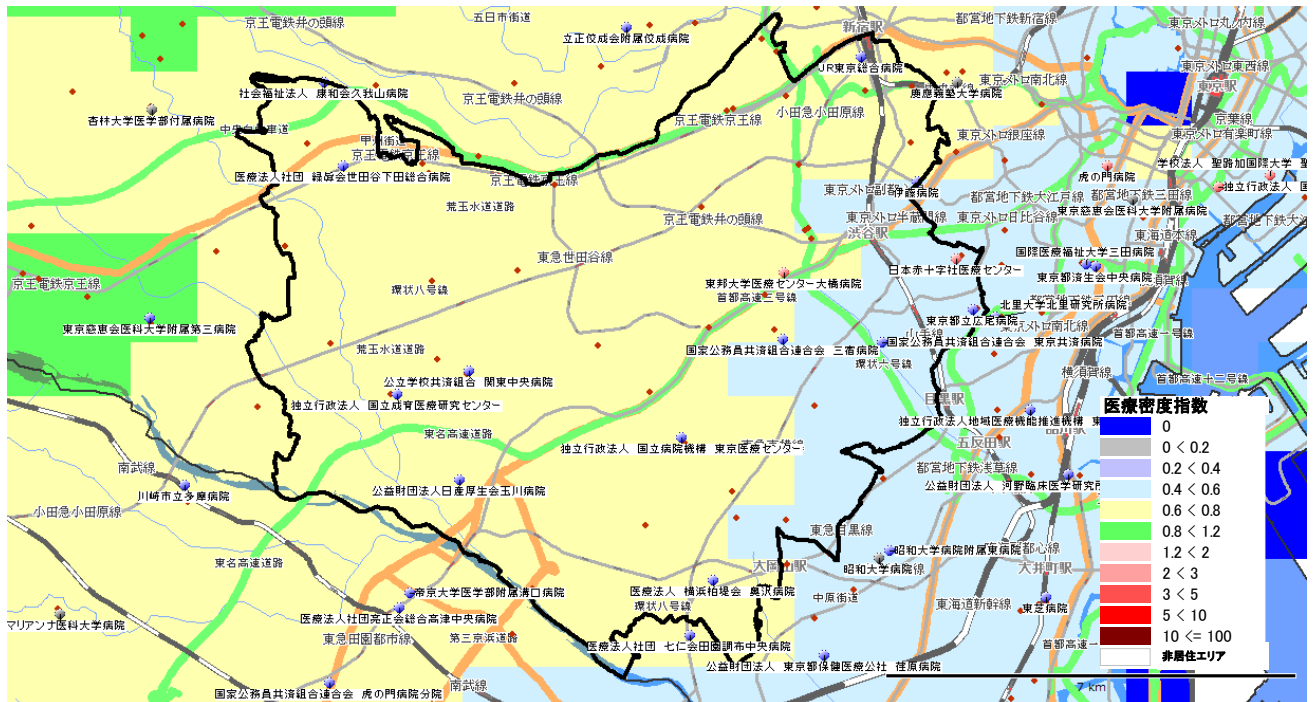
# 13. 東京都

## 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-3-2 慢性期医療密度指数マップ

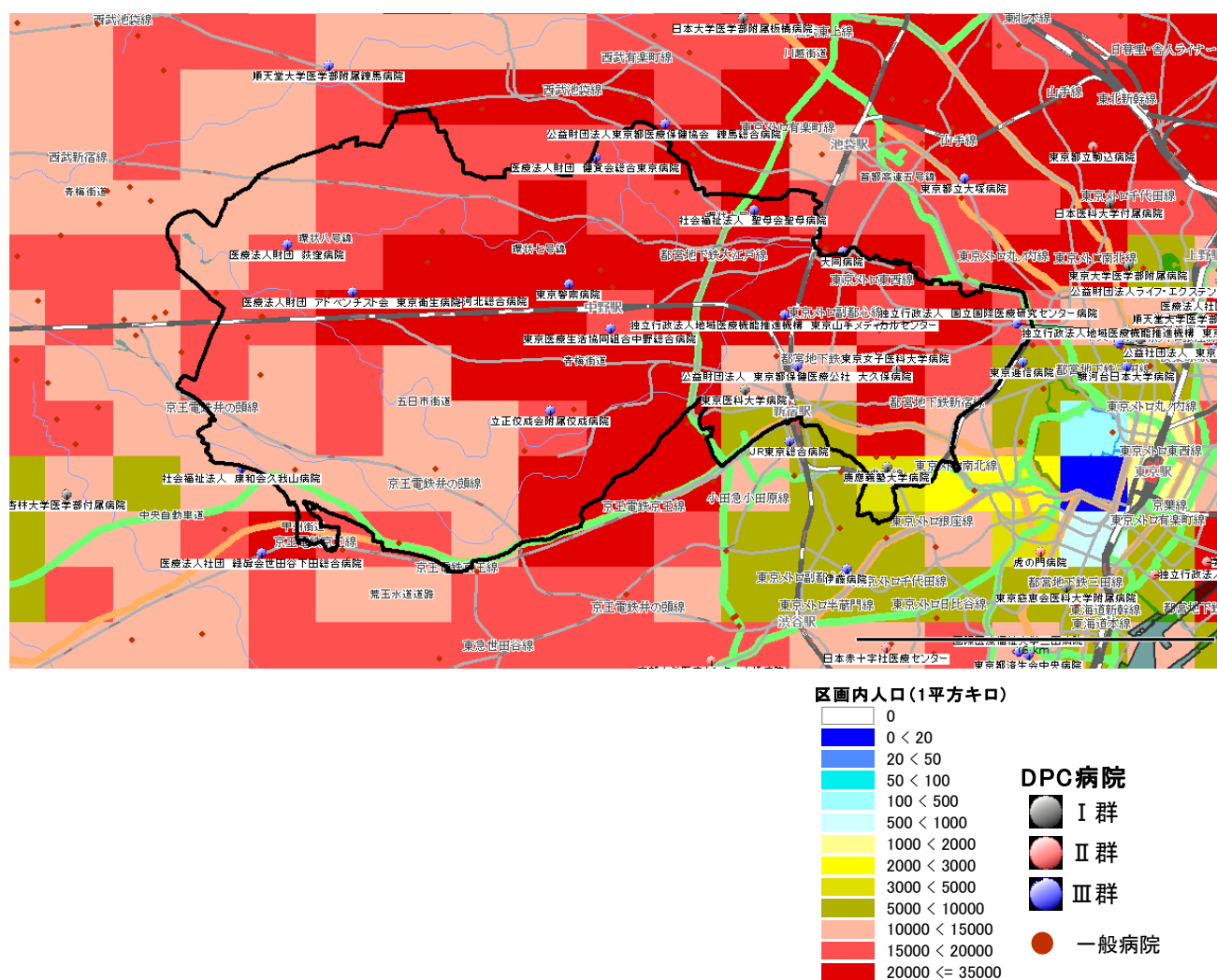


<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# くせいぶ 13-4. 区西部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 新宿区, 中野区, 杉並区

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 区西部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画 (1 km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000 人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000 人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000 人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## (区西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区西部(新宿区)は、総人口約 1196 千人(2015 年推計)、面積 68 km<sup>2</sup>、人口密度は 17629 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区西部の総人口は 2025 年に 1165 千人へと減少し(2015 年比-3%)、2040 年に 1067 千人へと減少する(2025 年比-8%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 143 千人が、2025 年にかけて 184 千人へと増加し(2015 年比+29%)、2040 年には 200 千人へと増加する(2025 年比+9%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区西部の一人当たり医療費(国保)は 252 千円(偏差値 36)、介護給付費は 270 千円(偏差値 55)であり、医療費は低い、介護給付費はやや高い。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区西部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 1、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.57 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 80(病院医師数 76、診療所医師数 81)と、総医師数は非常に多く、病院医師数、診療所医師数ともに、非常に多い。総看護師数の偏差値は 47 とやや少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 51 で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は 61 と多い。区西部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の慶應義塾大学病院(I 群)、東京警察病院、国立国際医療研究センター病院(救命)、東京医科大学病院(I 群・救命)、東京女子医科大学病院(I 群・救命)、1000 例以上の荻窪病院、東京山手メディカルセンター、東京新宿メディカルセンター、河北総合病院、500 例以上の大久保病院、中野総合病院、佼成病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 44 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 46 とやや少なく、回復期病床数は偏差値 48 と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 39 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 70 で診療所数は非常に多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、7125 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 22)と全国平均レベルを大きく下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 3317 床(偏差値 22)、高齢者住宅等が 3808 床(偏差値 43)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回り、高齢者住宅系は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6170 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 28)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 23、特別養護老人ホーム 33、介護療養型医療施設 43、有料老人ホーム 56、軽費ホーム 50、グループホーム 38、サ高住 34 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 59 と多く、在宅療養支援病院は偏差値 49 と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、2256 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 55)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや上回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

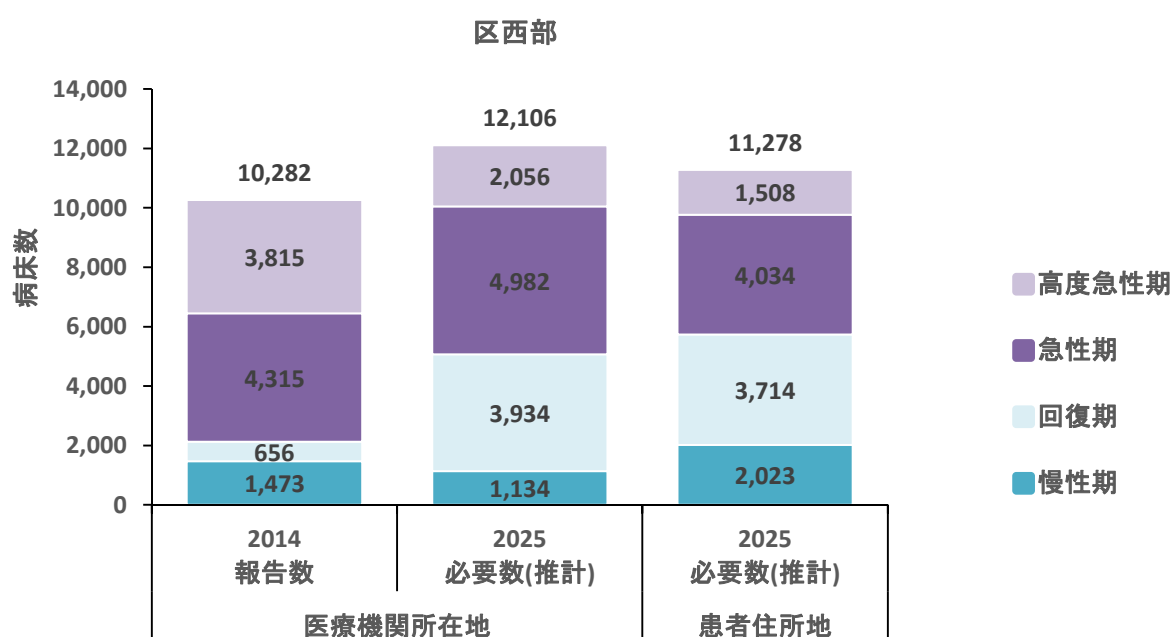
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は10282床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は12106床であり、その差は+1824床(+18%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は3815床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は2056床であり、その差は-1759床(-46%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は4315床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は4982床であり、その差は+667床(+15%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は656床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3934床であり、その差は+3278床(+500%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1473床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1134床であり、その差は-339床(-23%)である。



**\*介護の2040年の需要予測：** 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-77%であり、介護の充足度は非常に低い。2040年の介護充足度指数は-147%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

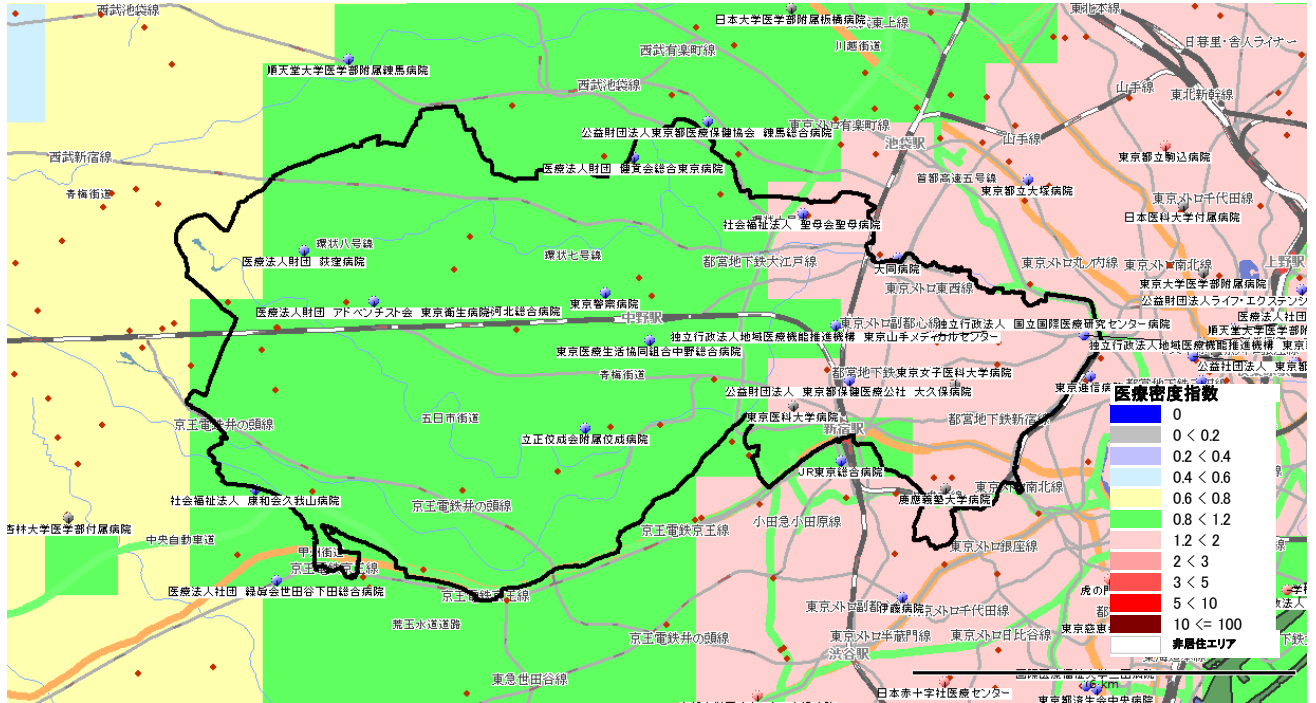
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

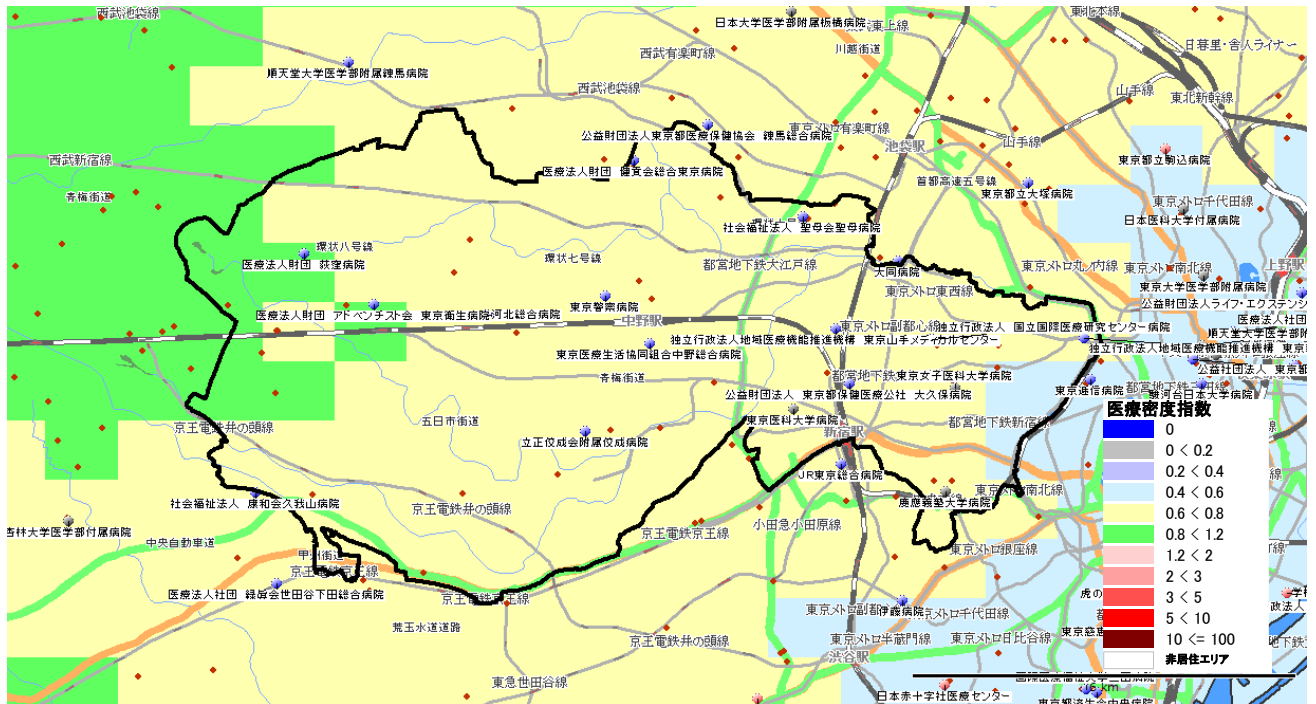
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-4-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-4-2 慢性期医療密度指数マップ



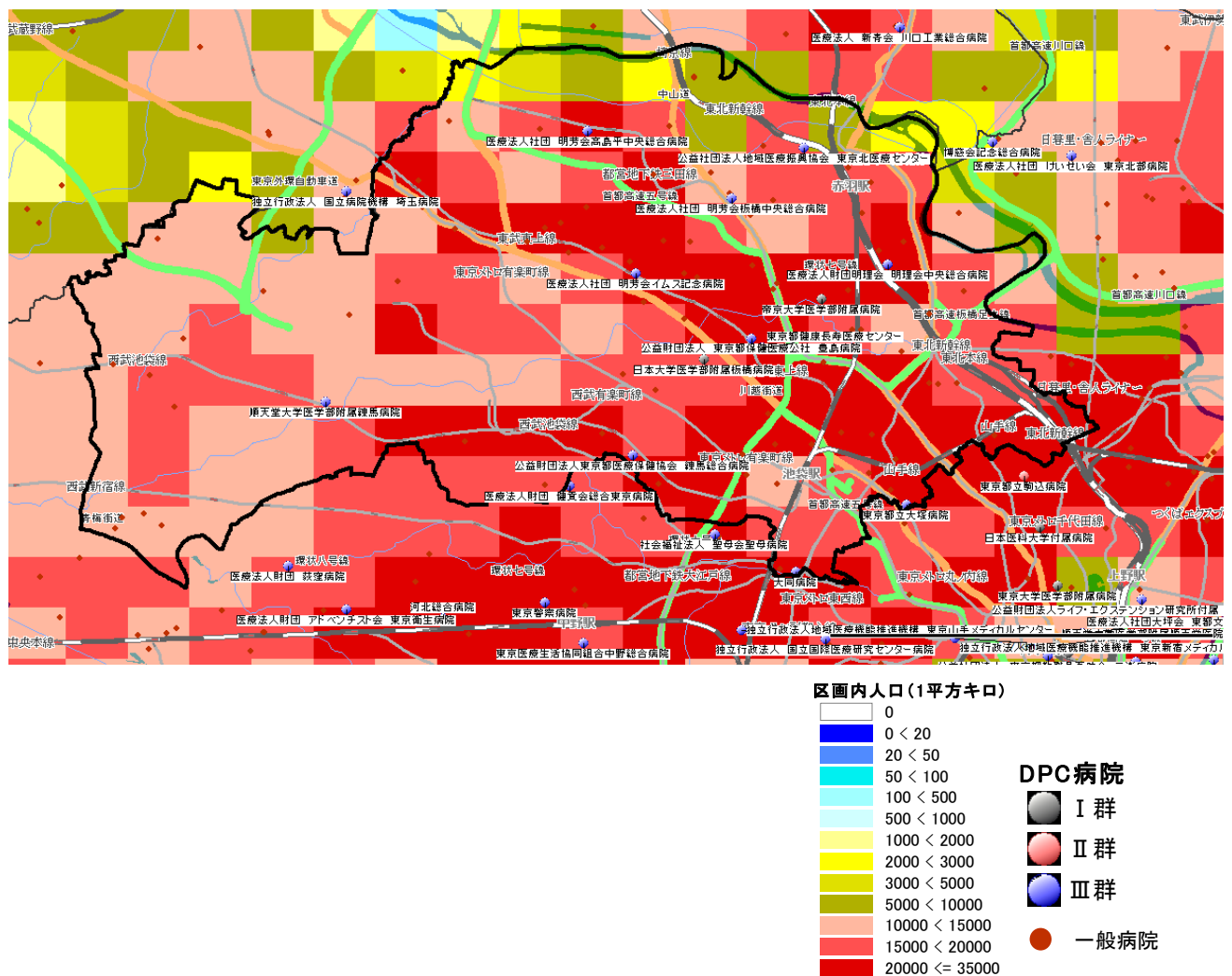
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# くせいほくぶ 13-5. 区西北部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 豊島区,北区,板橋区,練馬区

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 区西北部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## (区西北部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区西北部(豊島区)は、総人口約 1923 千人(2015 年推計)、面積 114 km<sup>2</sup>、人口密度は 16876 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区西北部の総人口は 2025 年に 1902 千人へと減少し(2015 年比-1%)、2040 年に 1771 千人へと減少する(2025 年比-7%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 221 千人が、2025 年にかけて 304 千人へと増加し(2015 年比+38%)、2040 年には 340 千人へと増加する(2025 年比+12%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区西北部の一人当たり医療費(国保)は 273 千円(偏差値 41)、介護給付費は 256 千円(偏差値 52)であり、医療費は低い、介護給付費は全国平均レベルである。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区西北部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 0.96、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.66 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 51(病院医師数 49、診療所医師数 55)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は 41 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 42 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 44 と少ない。区西北部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の帝京大学医学部附属病院(I 群・救命)、日本大学医学部附属板橋病院(I 群・救命)、順天堂大学医学部附属練馬病院、板橋中央総合病院、1000 例以上の練馬総合病院、東京都立大塚病院、豊島病院、東京都立大塚病院、500 例以上の東京北医療センター、明理会中央総合病院、高島平中央総合病院、東京都健康長寿医療センターがある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 46 と療養病床数はやや少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 45 とやや少なく、回復期病床数は偏差値 49 と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 46 で精神病床数はやや少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 53 で診療所数はやや多い。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区西北部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、16085 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 36)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 8229 床(偏差値 33)、高齢者住宅等が 7856 床(偏差値 49)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、11929 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 36)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 34、特別養護老人ホーム 39、介護療養型医療施設 49、有料老人ホーム 60、軽費ホームなし(偏差値 43)、グループホーム 39、サ高住 44 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 56 と多く、在宅療養支援病院は偏差値 53 とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、3706 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 56)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

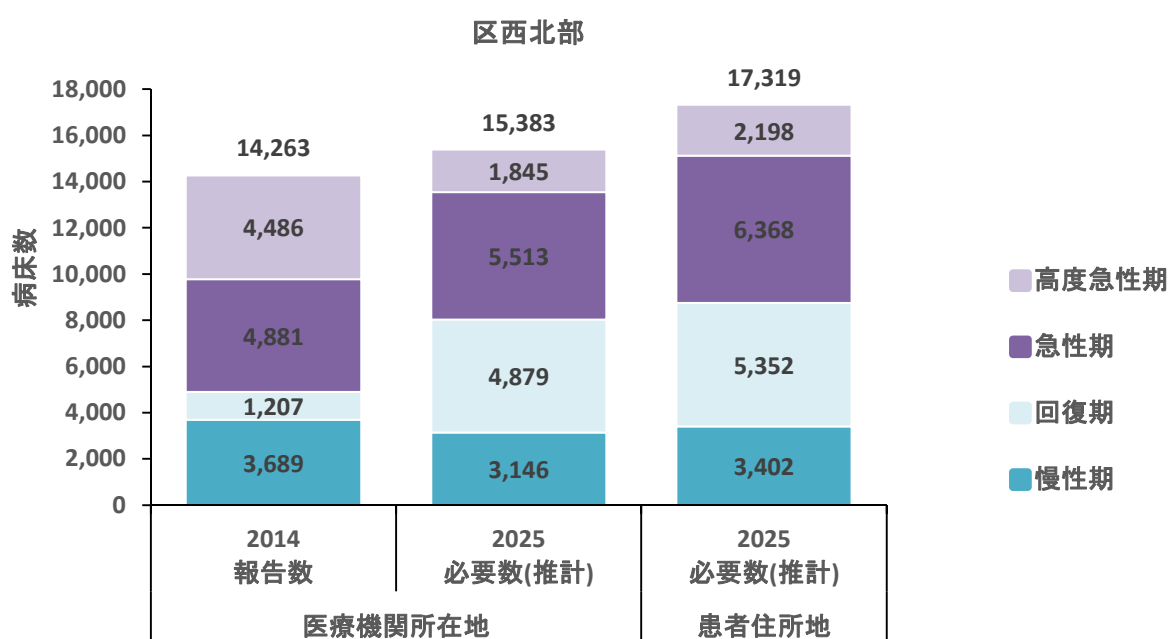
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は14263床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は15383床であり、その差は+1120床(+8%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は4486床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1845床であり、その差は-2641床(-59%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は4881床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は5513床であり、その差は+632床(+13%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は1207床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は4879床であり、その差は+3672床(+304%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は3689床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3146床であり、その差は-543床(-15%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-28%であり、介護の充足度は低い。2040年の介護充足度指数は-96%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

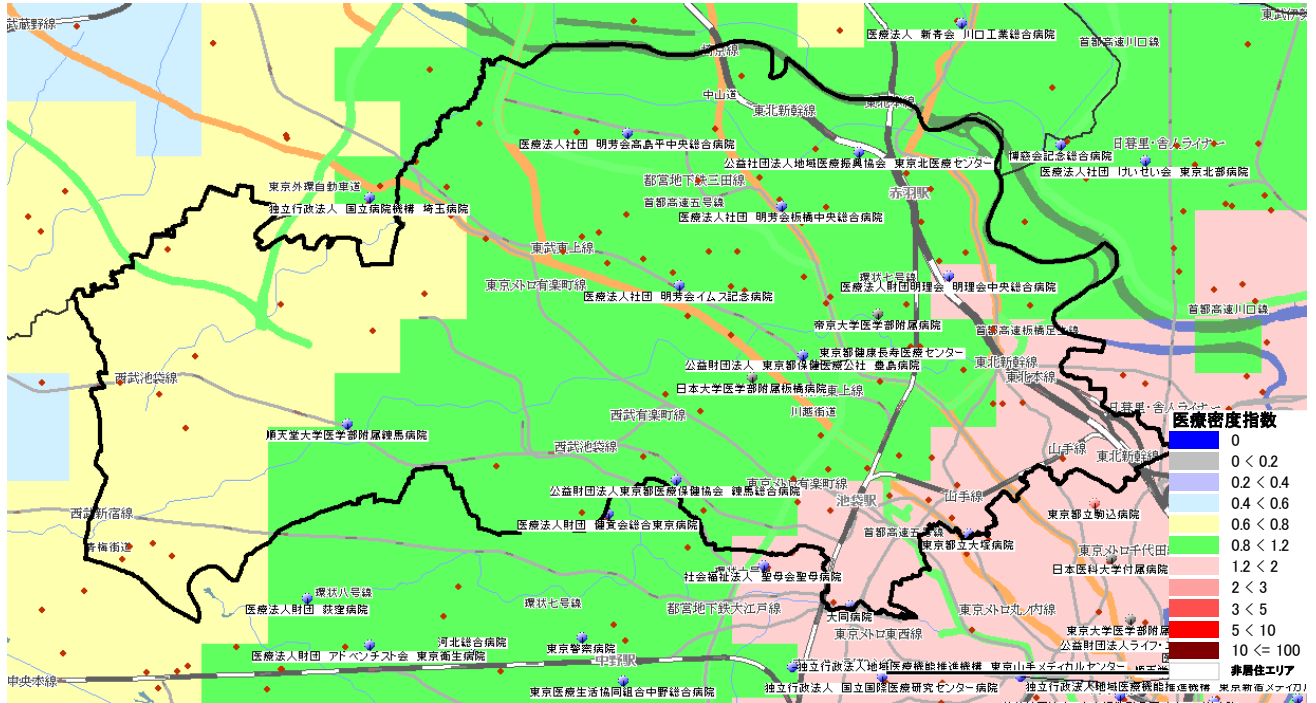
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

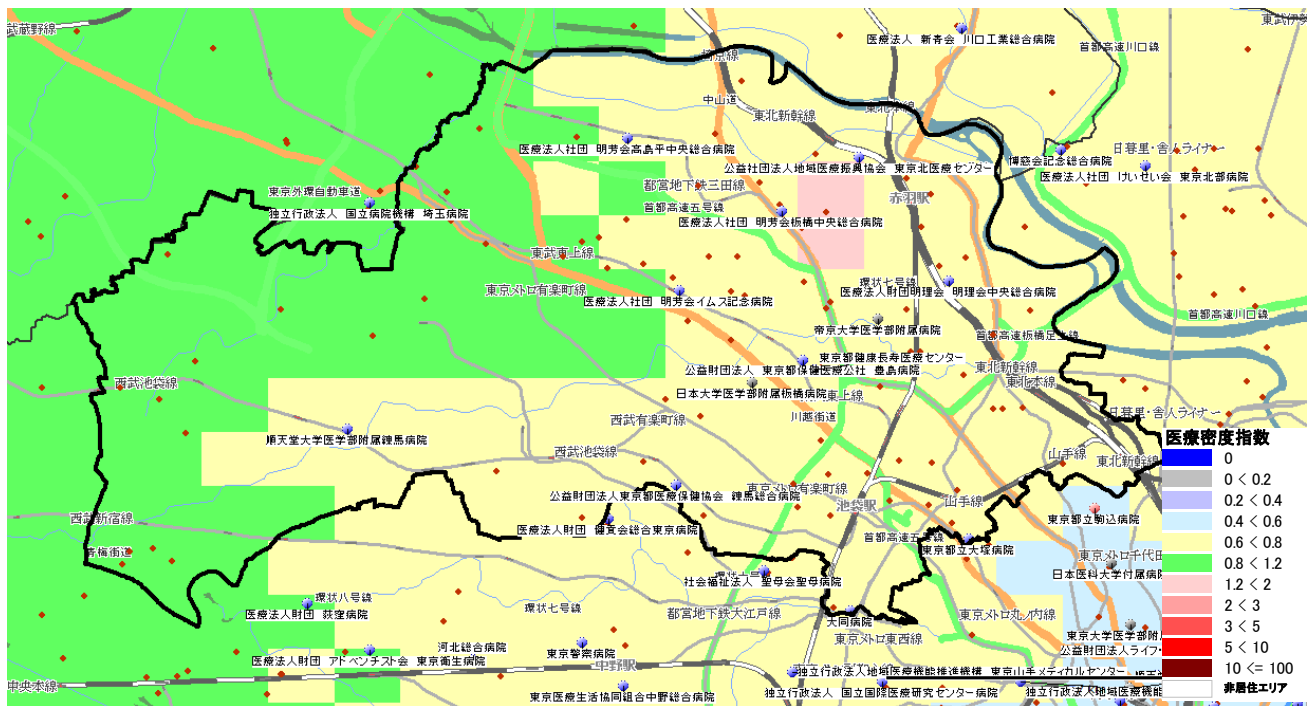
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-5-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-5-2 慢性期医療密度指数マップ

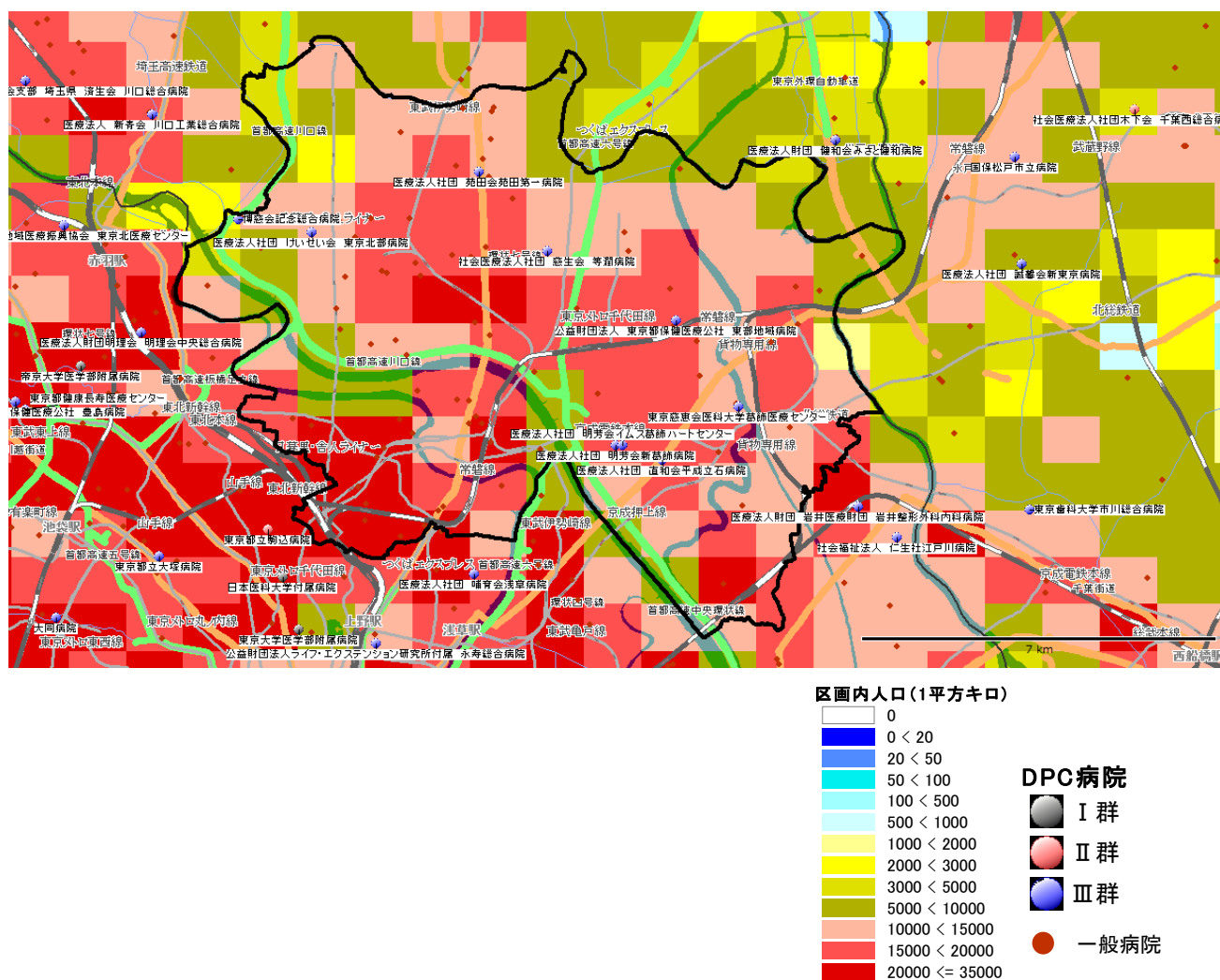


<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# くとうほくぶ 13-6. 区東北部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 荒川区,足立区,葛飾区

人口分布<sup>2</sup> (1km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先へ移動します。

<sup>2</sup> 区東北部医療圏を1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所：国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## (区東北部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区東北部(荒川区)は、総人口約 1313 千人(2015 年推計)、面積 98 km<sup>2</sup>、人口密度は 13369 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区東北部の総人口は 2025 年に 1244 千人へと減少し(2015 年比-5%)、2040 年に 1098 千人へと減少する(2025 年比-12%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 157 千人が、2025 年にかけて 197 千人へと増加し(2015 年比+25%)、2040 年には 190 千人へと減少する(2025 年比-4%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区東北部の一人当たり医療費(国保)は 284 千円(偏差値 44)、介護給付費は 252 千円(偏差値 50)であり、医療費は低い、介護給付費は全国平均レベルである。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区東北部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 1.05、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.54 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 45(病院医師数 42、診療所医師数 53)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は少ない。総看護師数の偏差値は 37 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 42 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 41 と少ない。区東北部には、年間全身麻酔件数が 1000 例以上の東部地域病院、500 例以上の平成立石病院、新葛飾病院、博慈会記念総合病院、苑田会苑田第一病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 45 と療養病床数はやや少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 43 と少なく、回復期病床数は偏差値 48 と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 43 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 45 で診療所数はやや少ない。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区東北部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、14598 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 48)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が 7684 床(偏差値 42)、高齢者住宅等が 6914 床(偏差値 55)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、9972 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 42)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 45、特別養護老人ホーム 45、介護療養型医療施設 47、有料老人ホーム 59、軽費ホーム 45、グループホーム 44、サ高住 54 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 49 と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値 55 とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、2785 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 58)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

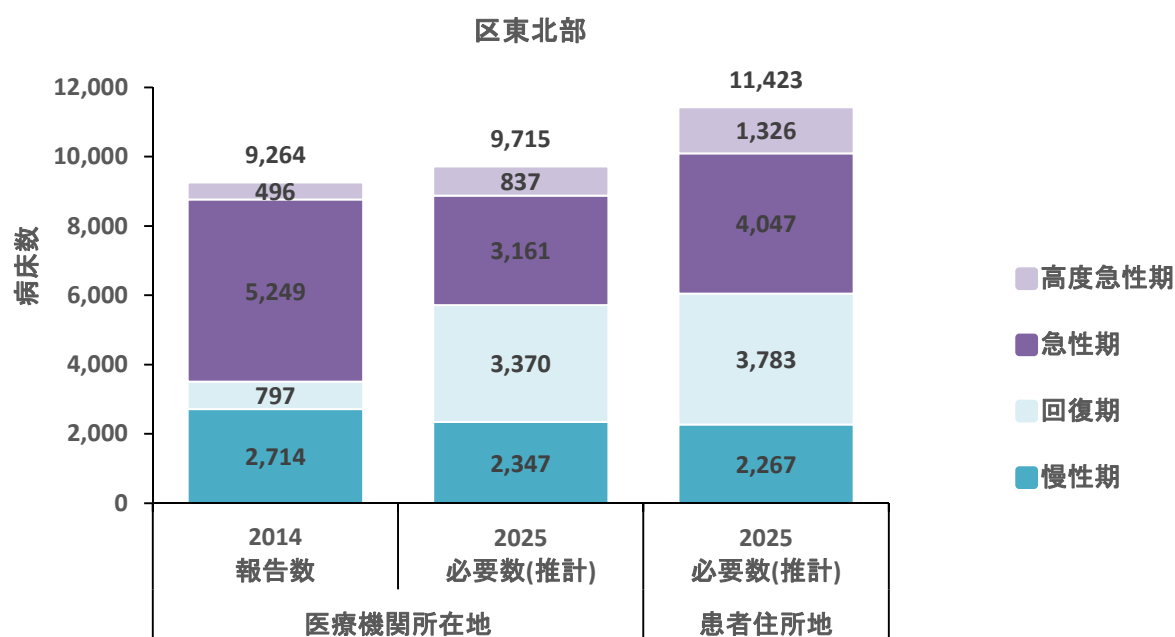
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は9264床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は9715床であり、その差は+451床(+5%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は496床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は837床であり、その差は+341床(+69%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は5249床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3161床であり、その差は-2088床(-40%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は797床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3370床であり、その差は+2573床(+323%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は2714床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は2347床であり、その差は-367床(-14%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-8%であり、介護の充足度は全国平均レベルである。2040年の介護充足度指数は-30%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

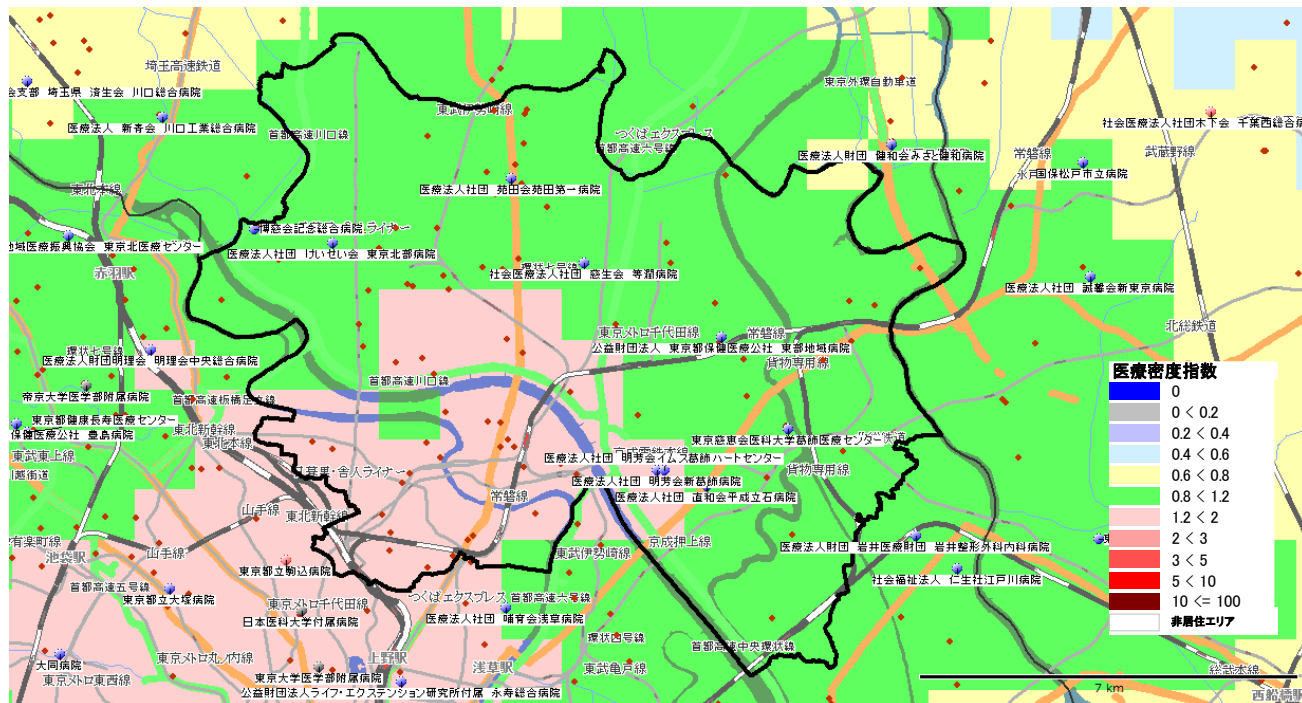
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

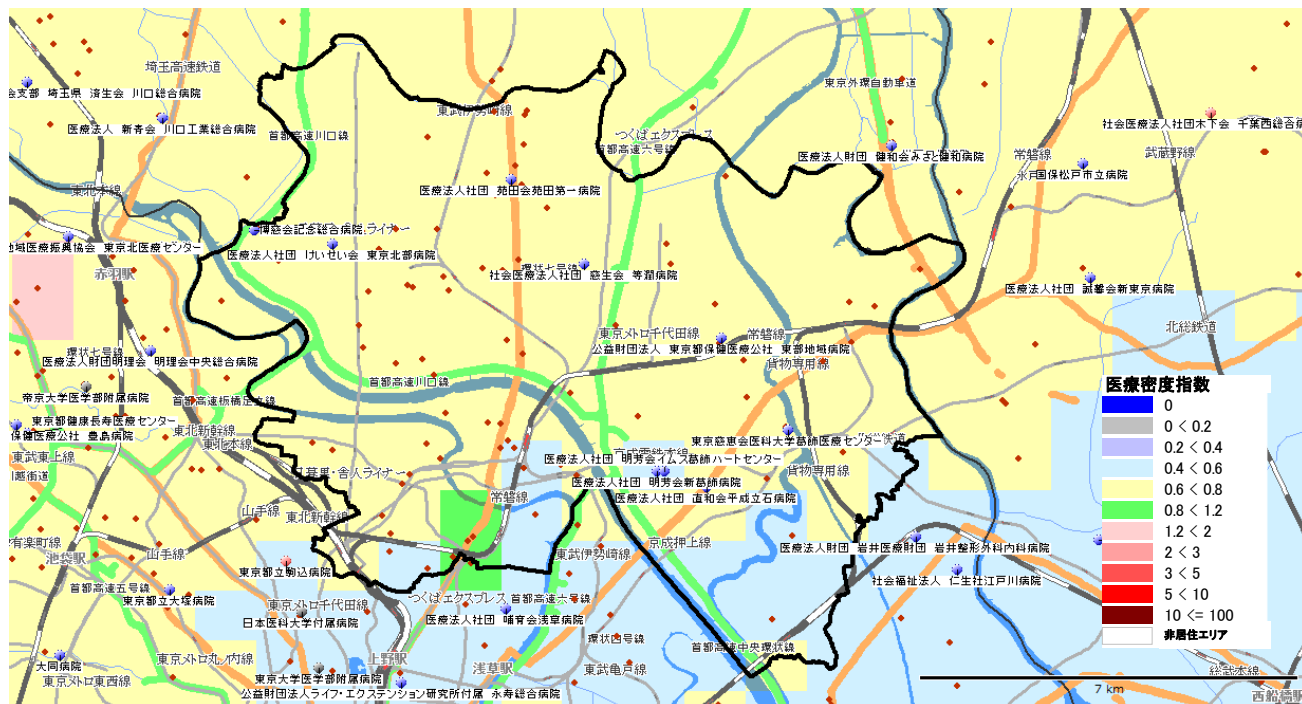
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-6-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-6-2 慢性期医療密度指数マップ



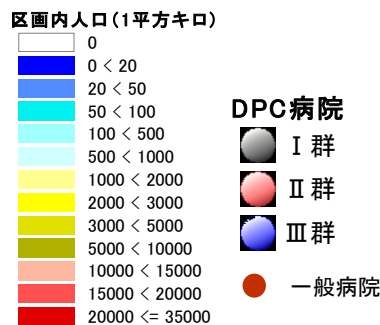
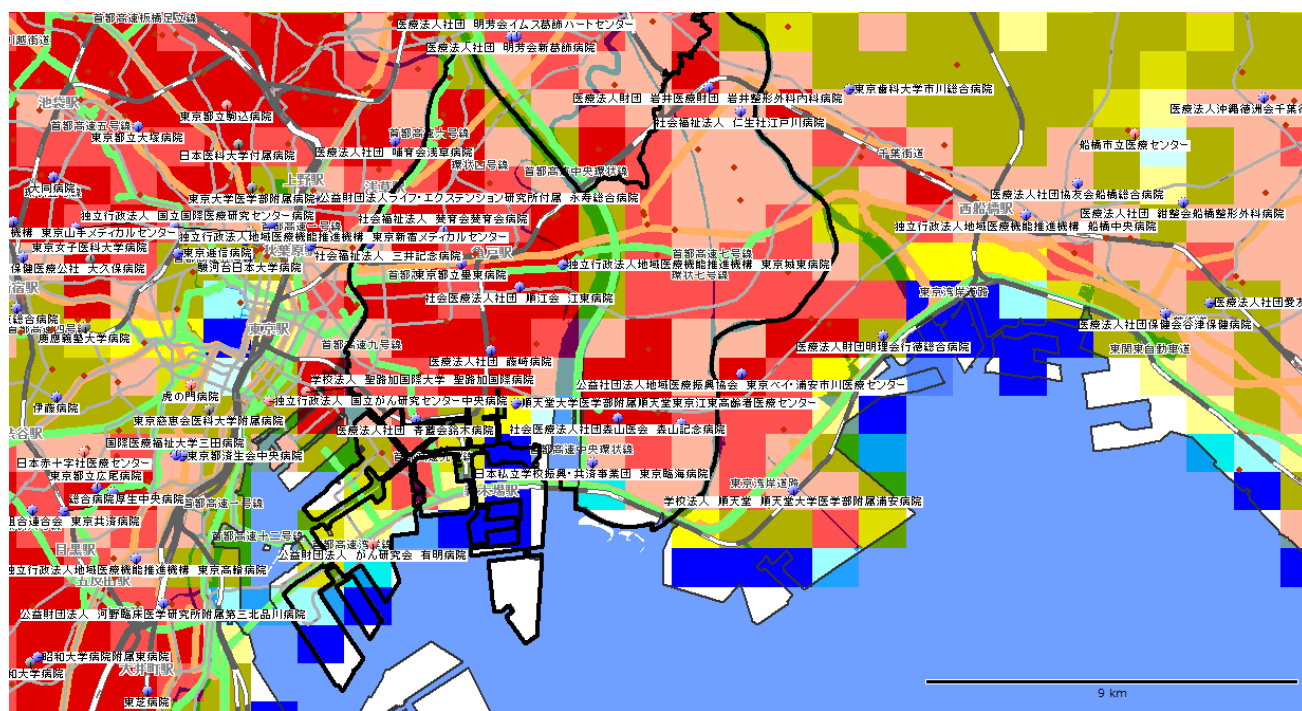
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# くとうぶ 13-7. 区東部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 墨田区,江東区,江戸川区

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場、地域名をクリックするとリンク先へ移動します。

<sup>2</sup> 区東部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (区東部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 区東部(墨田区)は、総人口約 1412 千人(2015 年推計)、面積 103 km<sup>2</sup>、人口密度は 13649 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 区東部の総人口は 2025 年に 1433 千人へと増加し(2015 年比+1%)、2040 年に 1403 千人へと減少する(2025 年比-2%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 131 千人が、2025 年にかけて 176 千人へと増加し(2015 年比+34%)、2040 年には 191 千人へと増加する(2025 年比+9%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 区東部の一人当たり医療費(国保)は 287 千円(偏差値 45)、介護給付費は 225 千円(偏差値 43)であり、医療費はやや低く、介護給付費は低い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 区東部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 0.87、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.31 で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 47(病院医師数 43、診療所医師数 55)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は少ない。総看護師数の偏差値は 36 と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 40 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 44 と少ない。区東部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の有明病院(Ⅱ群)、墨東病院(救命)、1000 例以上の同愛記念病院、江東病院、江戸川病院、岩井整形外科内科病院、東京臨海病院、500 例以上の森山記念病院、賛育会賛育会病院、藤崎病院、順天堂東京江東高齢者医療センターがある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 42 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 41 と少なく、回復期病床数は偏差値 44 と少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 38 で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 46 で診療所数はやや少ない。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 区東部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9848 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 37)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 5574 床(偏差値 37)、高齢者住宅等が 4274 床(偏差値 47)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回り、高齢者住宅系は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、7692 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 39)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 43、特別養護老人ホーム 41、介護療養型医療施設 43、有料老人ホーム 59、軽費ホーム 46、グループホーム 44、サ高住 35 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 51 と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値 48 と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、1913 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 52)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

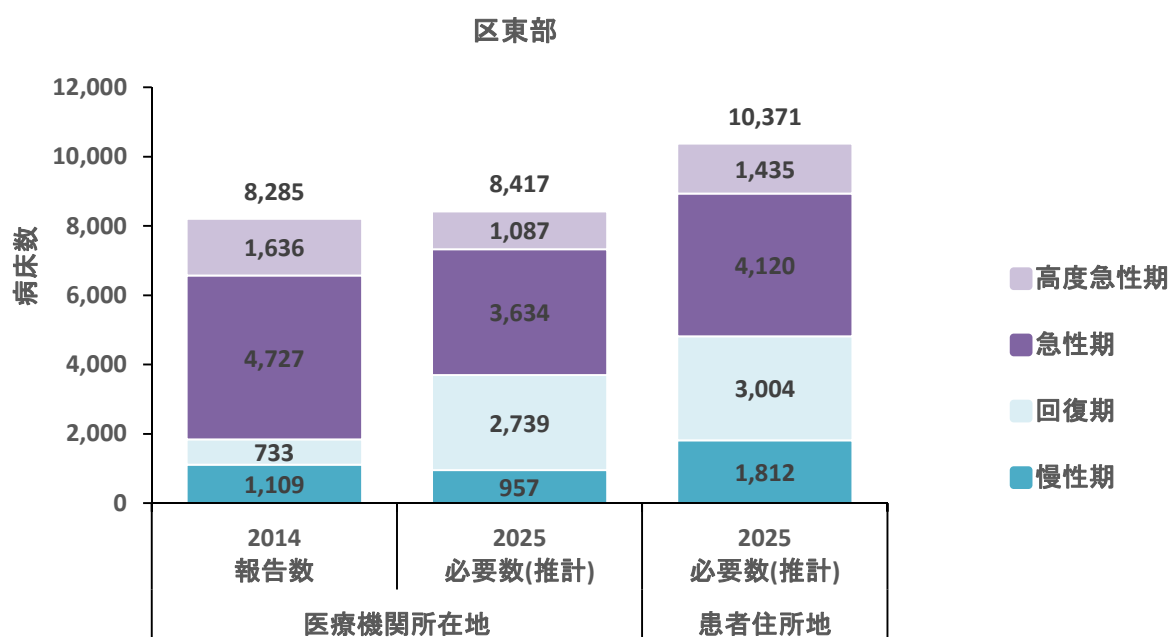
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は8285床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は8417床であり、その差は+132床(+2%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は1636床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1087床であり、その差は-549床(-34%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は4727床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3634床であり、その差は-1093床(-23%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は733床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は2739床であり、その差は+2006床(+274%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1109床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は957床であり、その差は-152床(-14%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-17%であり、介護の充足度は低い。2040年の介護充足度指数は-70%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

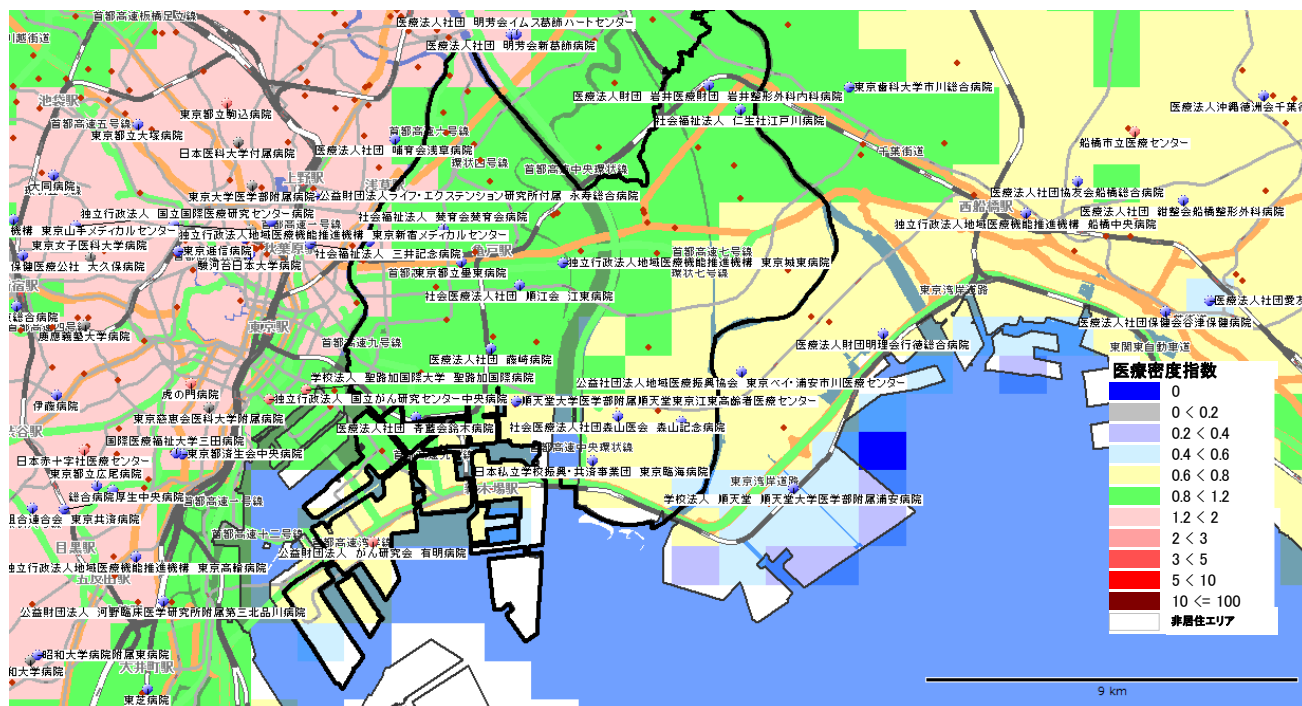
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

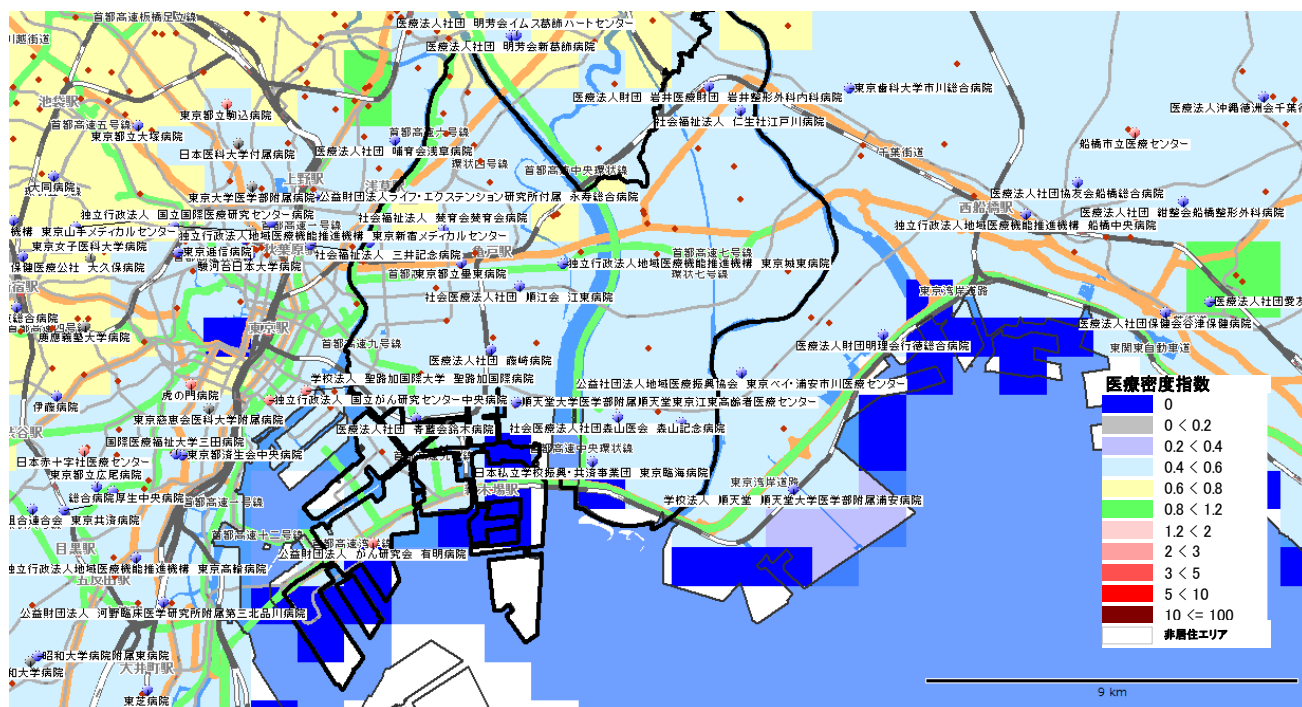
# 13. 東京都

## 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-7-1 急性期医療密度指数マップ



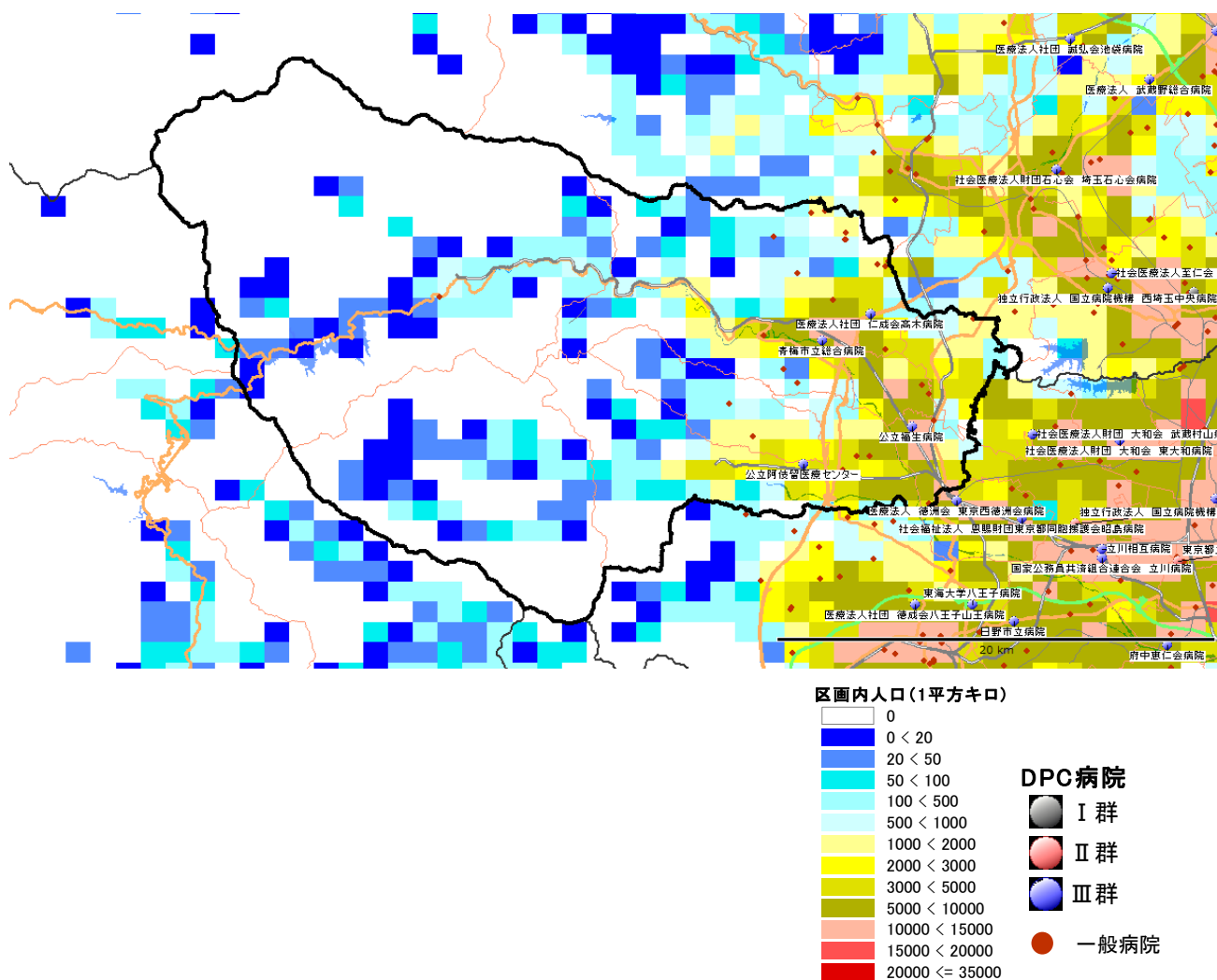
図表 13-7-2 慢性期医療密度指数マップ



<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# 13-8. にしたま 西多摩医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 青梅市,福生市,羽村市,あきる野市,瑞穂町,日の出町,檜原村,奥多摩町  
人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 西多摩医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (西多摩医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など：西多摩(青梅市)は、総人口約 388 千人(2015 年推計)、面積 573 km<sup>2</sup>、人口密度は 677 人/km<sup>2</sup>の地方都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測：西多摩の総人口は 2025 年に 362 千人へと減少し(2015 年比-7%)、2040 年に 310 千人へと減少する(2025 年比-14%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 48 千人が、2025 年にかけて 66 千人へと増加し(2015 年比+38%)、2040 年には 66 千人とほぼ変わらない(2025 年比±0%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費：西多摩の一人当たり医療費(国保)は 288 千円(偏差値 45)、介護給付費は 201 千円(偏差値 37)であり、医療費はやや低く、介護給付費は低い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度：西多摩の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 0.69、一人当たり慢性期医療密度指数は 1.84 で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

\*医師・看護師の現状：総医師数の偏差値が 44(病院医師数 46、診療所医師数 42)と、総医師数と診療所医師数は少ない。総看護師数の偏差値は 45 とやや少ない。

\*一般病床等の現状：人口当たりの一般病床の偏差値は 39 で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は 41 と少ない。西多摩には、年間全身麻酔件数が 1000 例以上の青梅市立総合病院(救命)、公立福生病院、500 例以上の仁成会高木病院、公立阿伎留医療センターがある。

\*療養病床の現状：人口当たりの療養病床の偏差値は 66 と療養病床数は非常に多い。

\*リハビリの現状：総療法士数は偏差値 49 と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値 50 と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状：人口当たりの精神病床の偏差値は 69 で精神病床数は非常に多い。

\*診療所の現状：人口当たりの診療所数の偏差値は 43 で診療所数は少ない。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状：西多摩の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10099 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 120)と全国平均レベルを大きく上回る。そのうち、介護保険施設の定員が 9033 床(偏差値 150)、高齢者住宅等が 1066 床(偏差値 40)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく上回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6985 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 98)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 60、特別養護老人ホーム 159、介護療養型医療施設 82、有料老人ホーム 49、軽費ホームなし(偏差値 43)、グループホーム 35、サ高住 44 である。

\*在宅ケアの現状：在宅療養支援診療所は偏差値 40 と少なく、在宅療養支援病院は偏差値 54 とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、323 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 38)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

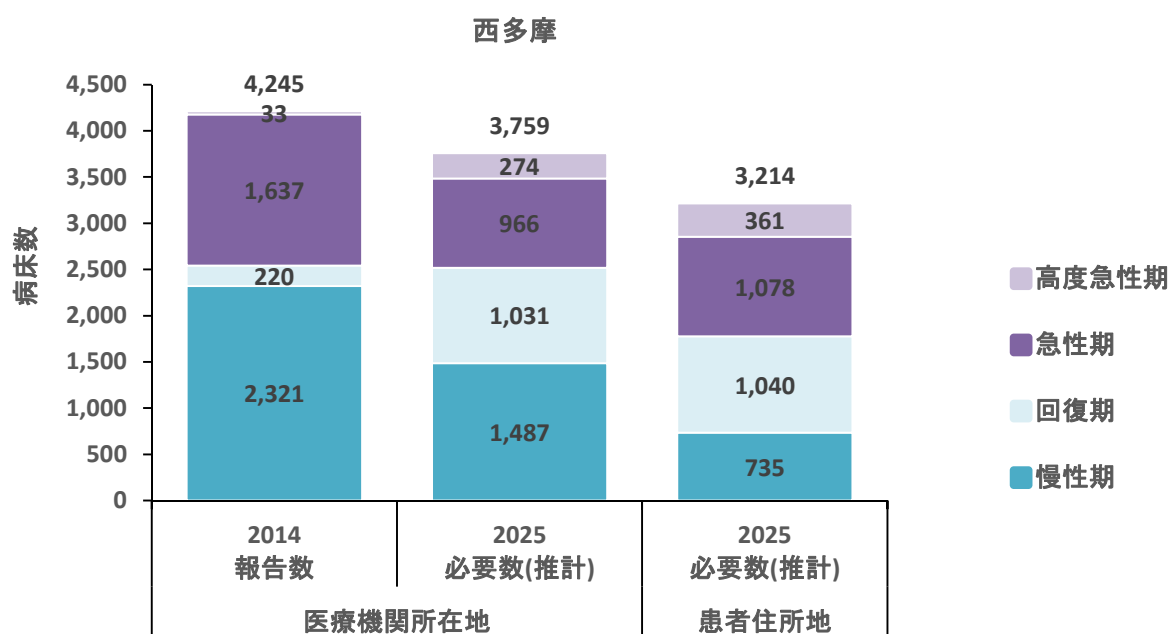
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は4245床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3759床であり、その差は-486床(-11%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は33床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は274床であり、その差は+241床(+730%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は1637床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は966床であり、その差は-671床(-41%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は220床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1031床であり、その差は+811床(+369%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は2321床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1487床であり、その差は-834床(-36%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は+59%であり、介護の充足度は非常に高い。2040年の介護充足度指数は+44%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数では過剰である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

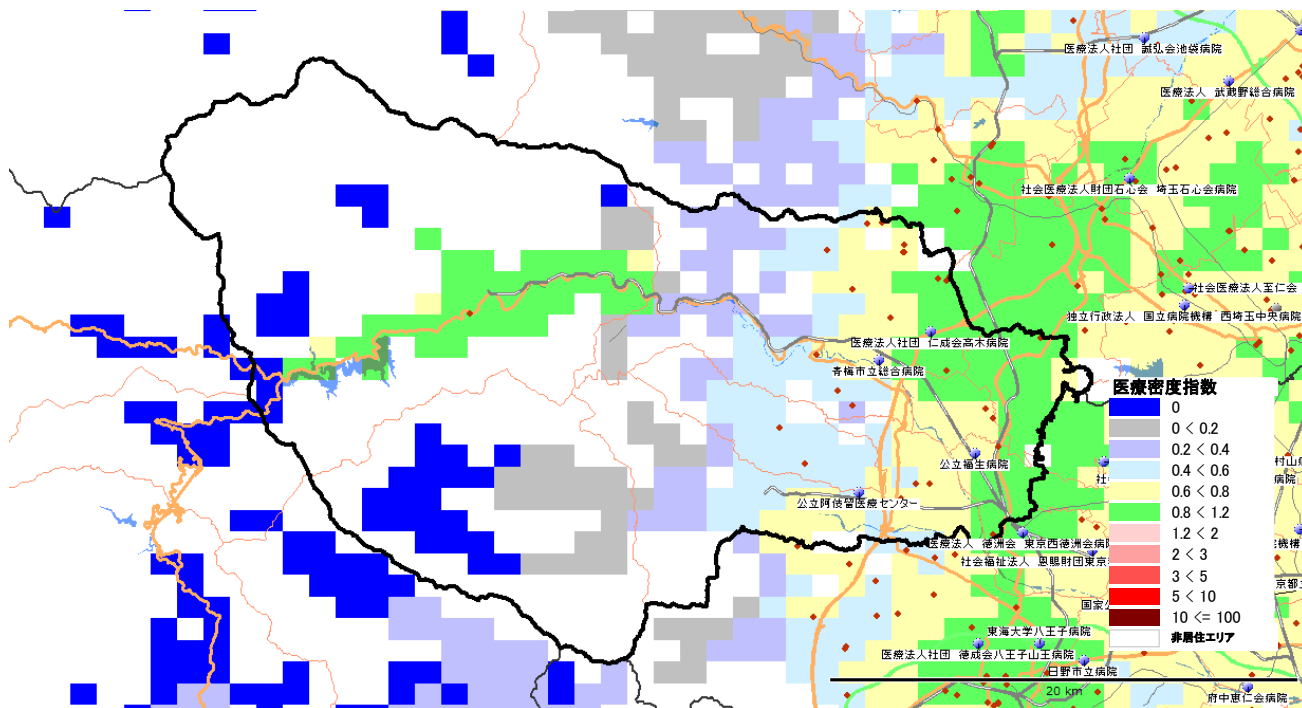
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

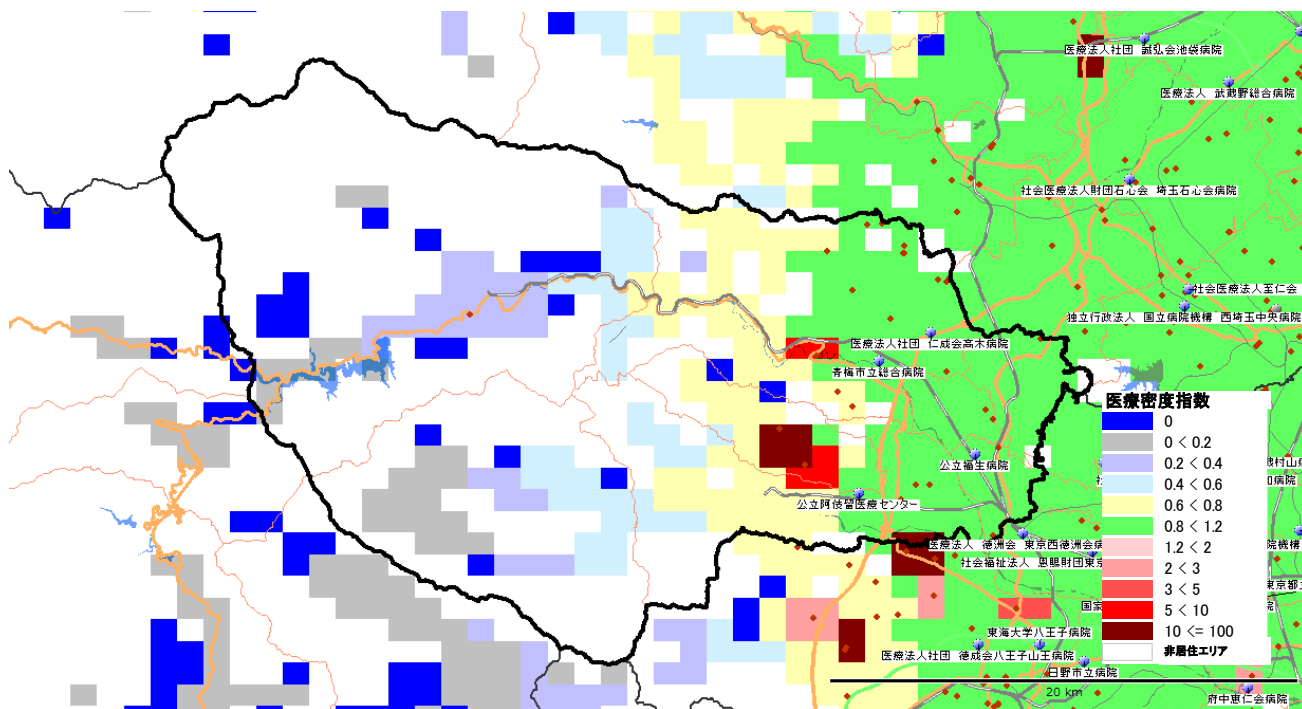
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-8-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-8-2 慢性期医療密度指数マップ



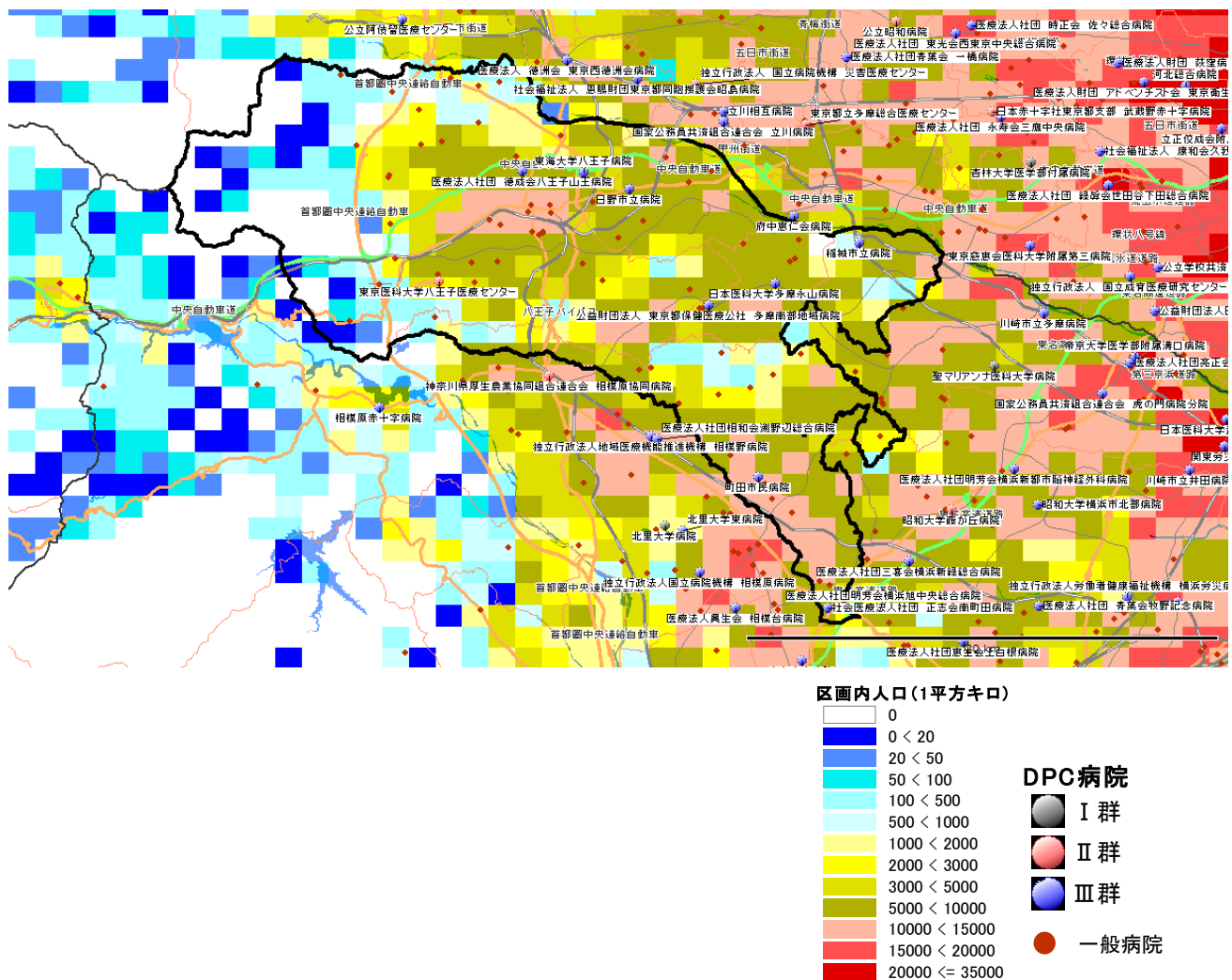
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# 13-9. みなみたま 南多摩医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 八王子市,町田市,日野市,多摩市,稲城市

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 南多摩医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (南多摩医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 南多摩(八王子市)は、総人口約1447千人(2015年推計)、面積325km<sup>2</sup>、人口密度は4460人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 南多摩の総人口は2025年に1441千人とほぼ変わらず(2015年比±0%)、2040年に1353千人へと減少する(2025年比-6%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の162千人が、2025年にかけて241千人へと増加し(2015年比+49%)、2040年には252千人へと増加する(2025年比+5%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 南多摩の一人当たり医療費(国保)は293千円(偏差値46)、介護給付費は218千円(偏差値41)であり、医療費はやや低く、介護給付費は低い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 南多摩の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は0.7、一人当たり慢性期医療密度指数は1.01で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が44(病院医師数42、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は41と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は38で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は42と少ない。南多摩には、年間全身麻酔件数が2000例以上の東海大学八王子病院、八王子医療センター(Ⅱ群・救命)、1000例以上の稲城市立病院、日本医科大学多摩永山病院(救命)、日野市立病院、町田市民病院、500例以上の正志会南町田病院、多摩南部地域病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は51と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値46とやや少なく、回復期病床数は偏差値45とやや少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は61で精神病床数は多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は43で診療所数は少ない。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 南多摩の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、17947人(75歳以上1000人当たりの偏差値59)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が9586床(偏差値50)、高齢者住宅等が8361床(偏差値60)である。介護保険施設は全国平均レベルであるが、高齢者住宅系は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、11184人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設40、特別養護老人ホーム53、介護療養型医療施設59、有料老人ホーム74、軽費ホーム44、グループホーム39、サ高住46である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値44と少なく、在宅療養支援病院は偏差値53とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、1773人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均、0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

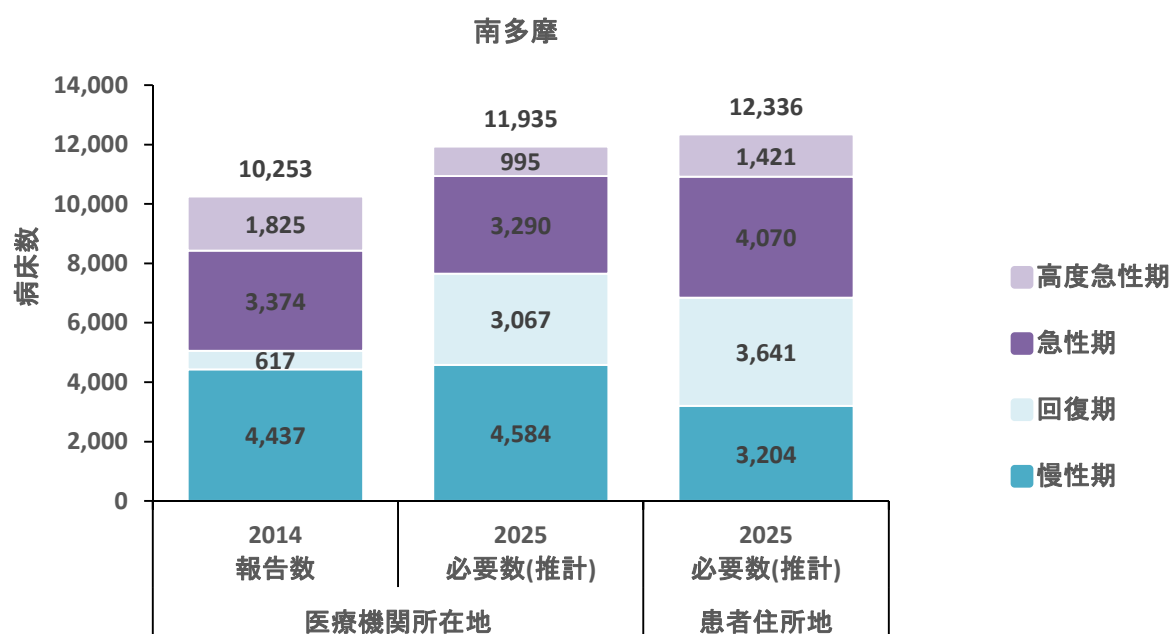
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は10253床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は11935床であり、その差は+1682床(+16%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は1825床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は995床であり、その差は-830床(-45%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は3374床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3290床であり、その差は-84床(-2%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は617床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3067床であり、その差は+2450床(+397%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は4437床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は4584床であり、その差は+147床(+3%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は+17%であり、介護の充足度は高い。2040年の介護充足度指数は-30%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

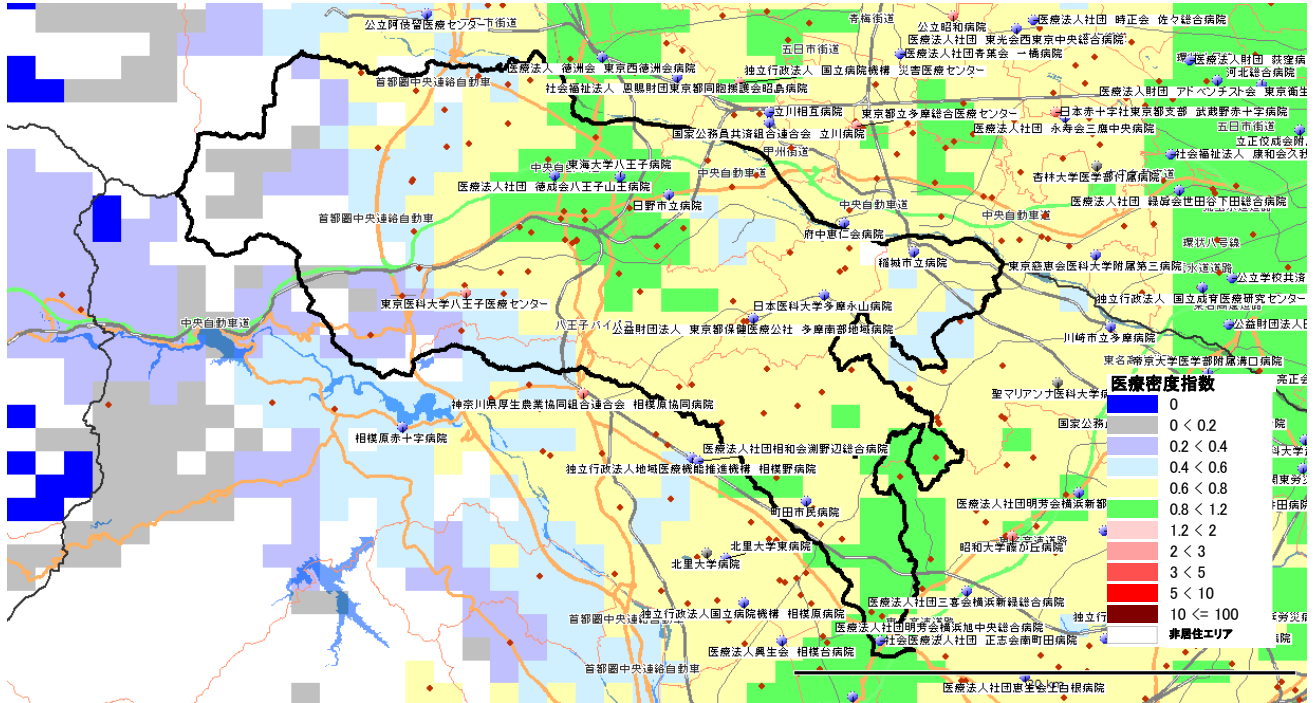
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

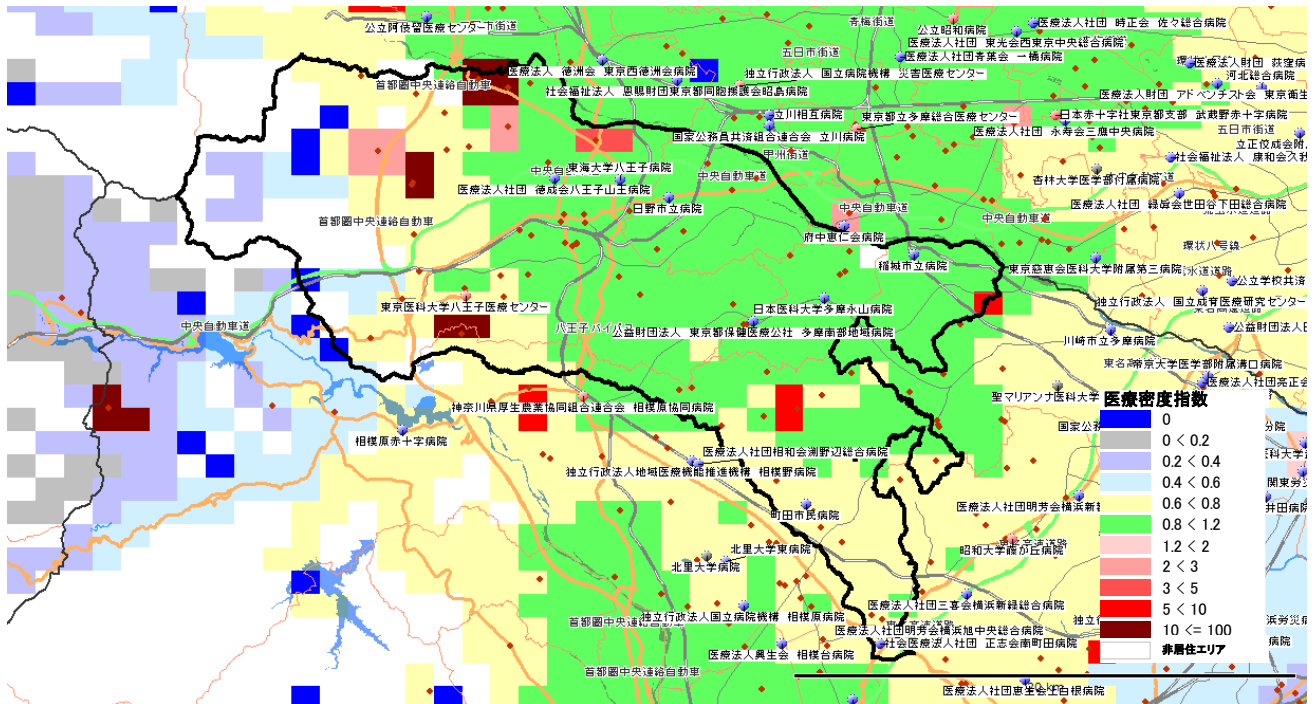
13. 東京都

2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-9-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-9-2 慢性期医療密度指数マップ



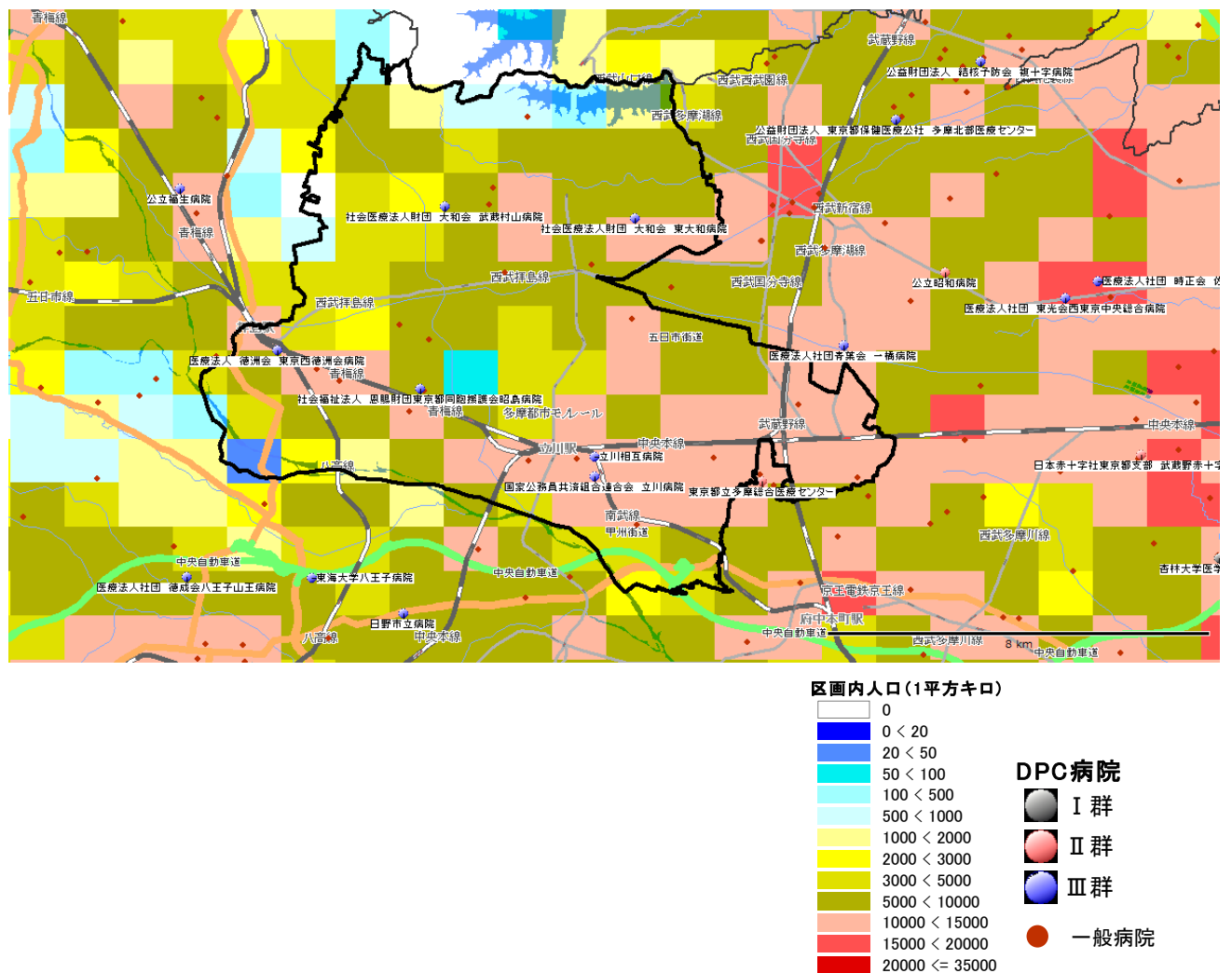
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# きたたませいぶ

## 13-10. 北多摩西部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> [立川市](#), [昭島市](#), [国分寺市](#), [国立市](#), [東大和市](#), [武蔵村山市](#)

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 北多摩西部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (北多摩西部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など：北多摩西部(立川市)は、総人口約649千人(2015年推計)、面積90km<sup>2</sup>、人口密度は7187人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測：北多摩西部の総人口は2025年に638千人へと減少し(2015年比-2%)、2040年に590千人へと減少する(2025年比-8%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の72千人が、2025年にかけて101千人へと増加し(2015年比+40%)、2040年には108千人へと増加する(2025年比+7%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費：北多摩西部の一人当たり医療費(国保)は282千円(偏差値43)、介護給付費は225千円(偏差値43)であり、医療費、介護給付費ともに低い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度：北多摩西部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は0.75、一人当たり慢性期医療密度指数は0.77で、急性期の医療も慢性期の医療も少ない。

\*医師・看護師の現状：総医師数の偏差値が44(病院医師数41、診療所医師数52)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は39と少ない。

\*一般病床等の現状：人口当たりの一般病床の偏差値は41で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は47とやや少ない。北多摩西部には、年間全身麻酔件数が1000例以上の東大和病院、立川病院、災害医療センター(Ⅱ群・救命)、500例以上の東京西徳洲会病院、立川相互病院がある。

\*療養病床の現状：人口当たりの療養病床の偏差値は46と療養病床数はやや少ない。

\*リハビリの現状：総療法士数は偏差値45とやや少なく、回復期病床数は偏差値47とやや少ない。

\*精神病床の現状：人口当たりの精神病床の偏差値は38で精神病床数は少ない。

\*診療所の現状：人口当たりの診療所数の偏差値は48で診療所数は全国平均レベルである。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状：北多摩西部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、6349人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が3669床(偏差値44)、高齢者住宅等が2680床(偏差値50)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、4442人(75歳以上1000人当たりの偏差値41)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設45、特別養護老人ホーム48、介護療養型医療施設42、有料老人ホーム56、軽費ホーム44、グループホーム38、サ高住54である。

\*在宅ケアの現状：在宅療養支援診療所は偏差値45とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値51と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、900人(75歳以上1000人当たりの偏差値49)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

#### 【医療と介護の需要予測】

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均、0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実

**\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>**

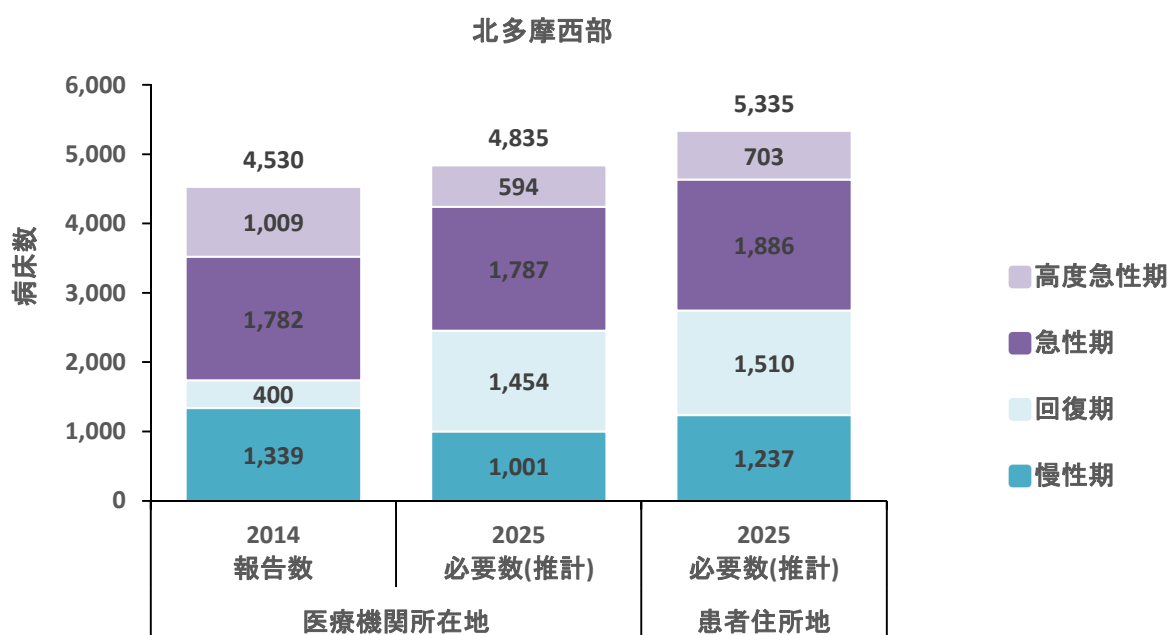
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は4530床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は4835床であり、その差は+305床(+7%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は1009床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は594床であり、その差は-415床(-41%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は1782床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1787床であり、その差は+5床(±0%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は400床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1454床であり、その差は+1054床(+264%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1339床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1001床であり、その差は-338床(-25%)である。



**\*介護の2040年の需要予測：** 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-11%であり、介護の充足度は低い。2040年の介護充足度指数は-66%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

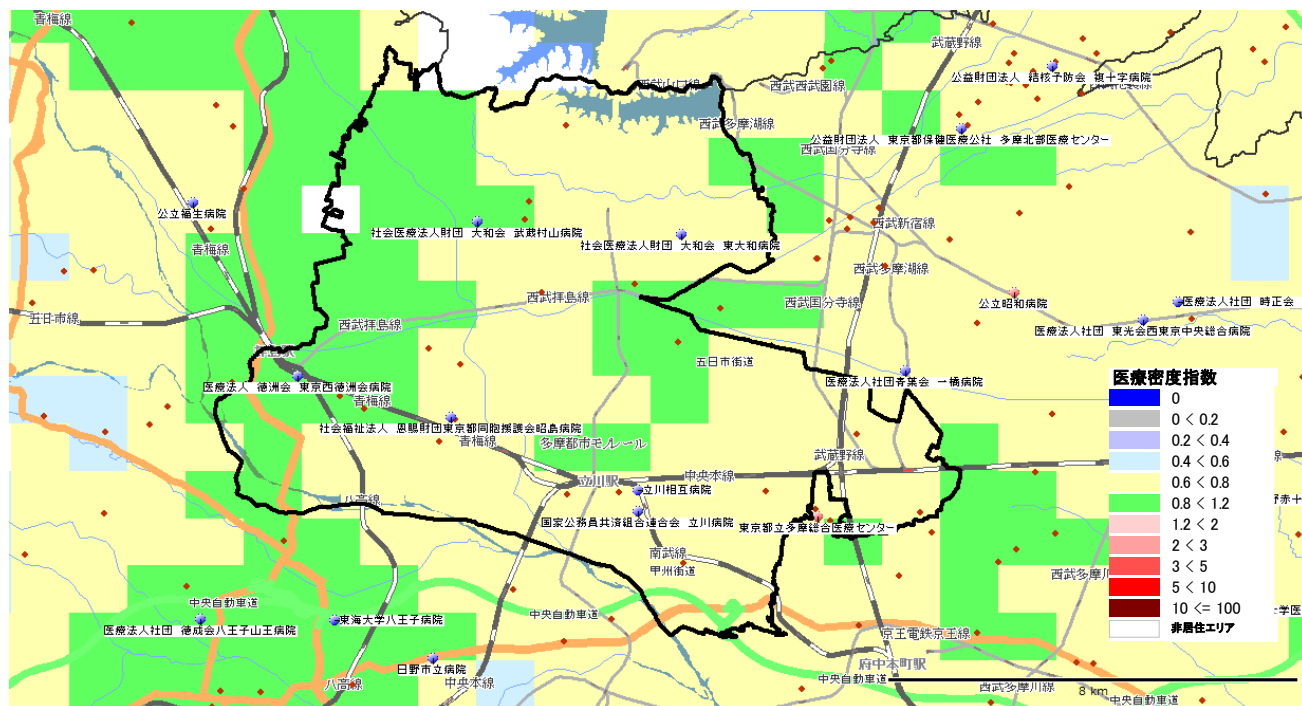
合計病床数には無回答が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

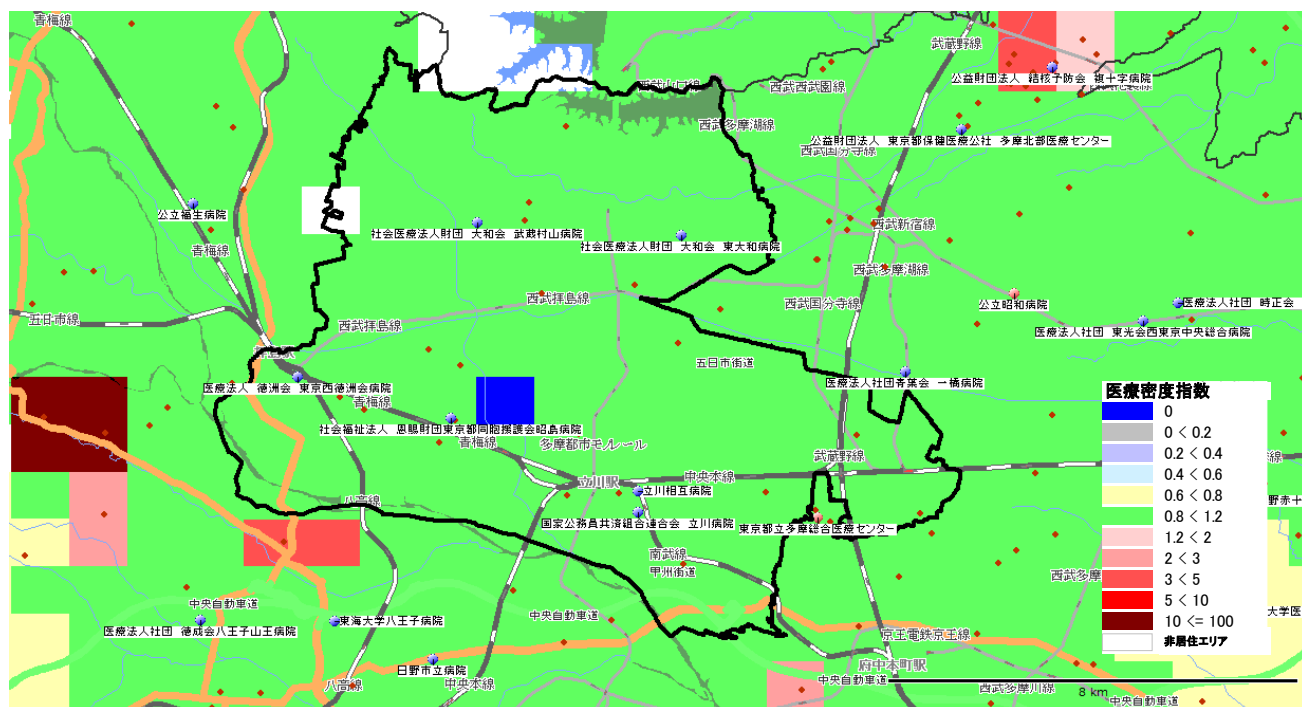
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-10-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-10-2 慢性期医療密度指数マップ



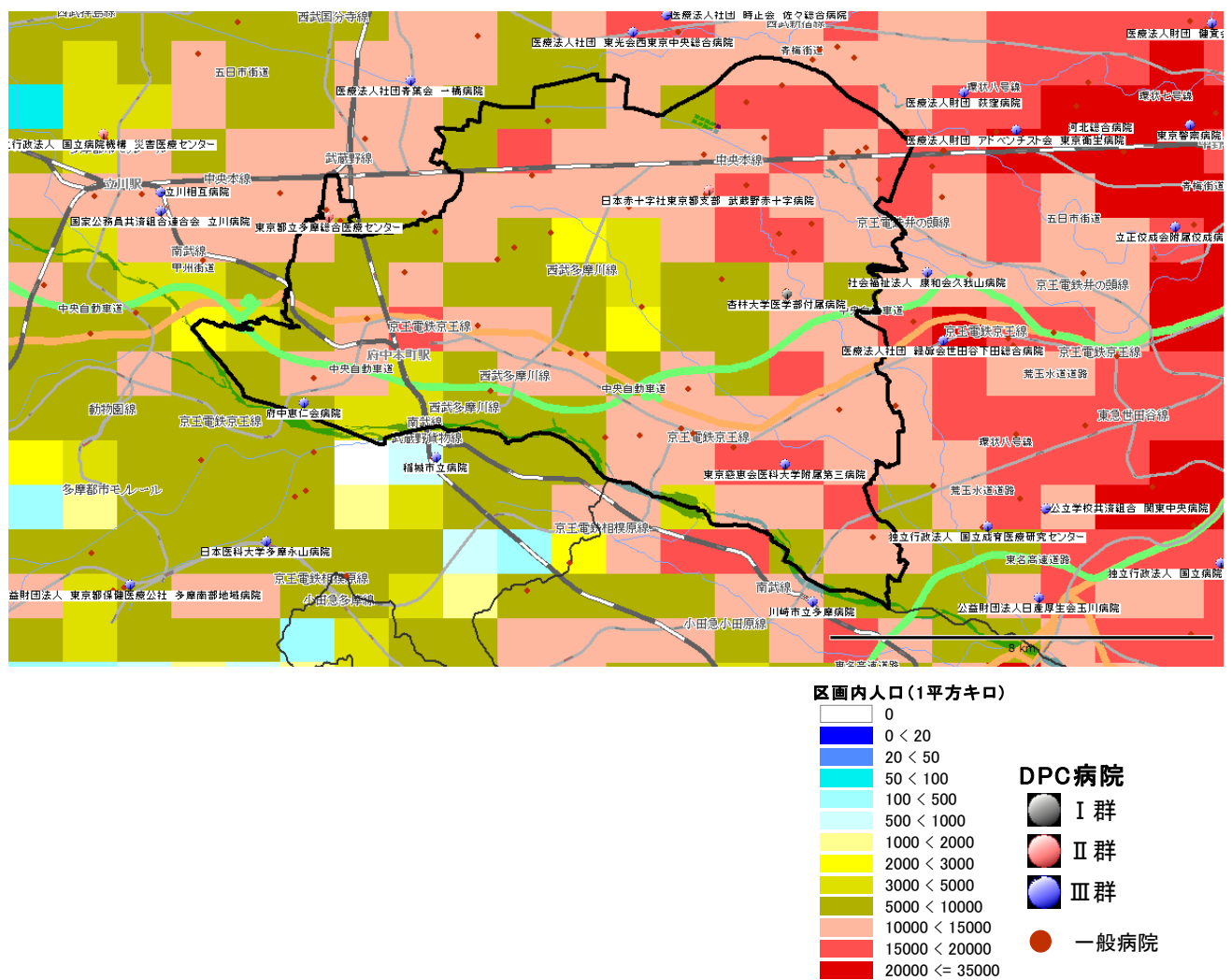
<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# きたたまななぶ 13-11. 北多摩南部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 武蔵野市, 三鷹市, 府中市, 調布市, 小金井市, 狛江市

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 北多摩南部医療圏を1 km<sup>2</sup>区画 (1 km<sup>2</sup>メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000 人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000 人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない (1,000 人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## (北多摩南部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

## 【地域の概要】

\*人口、面積など： 北多摩南部(武蔵野市)は、総人口約 1019 千人(2015 年推計)、面積 96 km<sup>2</sup>、人口密度は 10634 人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 北多摩南部の総人口は 2025 年に 1017 千人とほぼ変わらず(2015 年比±0%)、2040 年に 965 千人へと減少する(2025 年比-5%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 110 千人が、2025 年にかけて 149 千人へと増加し(2015 年比+35%)、2040 年には 172 千人へと増加する(2025 年比+15%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 北多摩南部の一人当たり医療費(国保)は 275 千円(偏差値 41)、介護給付費は 247 千円(偏差値 49)であり、医療費は低い、介護給付費は全国平均レベルである。

## 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 北多摩南部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 0.71、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.53 で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療はかなり少ない。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が 56(病院医師数 58、診療所医師数 51)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は 48 と全国平均レベルである。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は 46 で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数の偏差値は 55 とやや多い。北多摩南部には、年間全身麻酔件数が 2000 例以上の武蔵野赤十字病院(Ⅱ群・救命)、杏林大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、東京都立多摩総合医療センター(Ⅱ群・救命)、1000 例以上の東京慈恵会医科大学附属第三病院、500 例以上の府中恵仁会病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は 44 と療養病床数は少ない。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値 46 とやや少なく、回復期病床数は偏差値 47 とやや少ない。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は 53 で精神病床数はやや多い。

\*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は 51 で診療所数は全国平均レベルである。

## 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 北多摩南部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9467 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 44)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 4197 床(偏差値 34)、高齢者住宅等が 5270 床(偏差値 58)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6179 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 37)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設 38、特別養護老人ホーム 38、介護療養型医療施設 48、有料老人ホーム 73、軽費ホーム 45、グループホーム 39、サ高住 43 である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値 50 と全国平均レベルであり、在宅療養支援病院は偏差値 53 とやや多い。介護職員(在宅)の合計は、1596 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 52)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

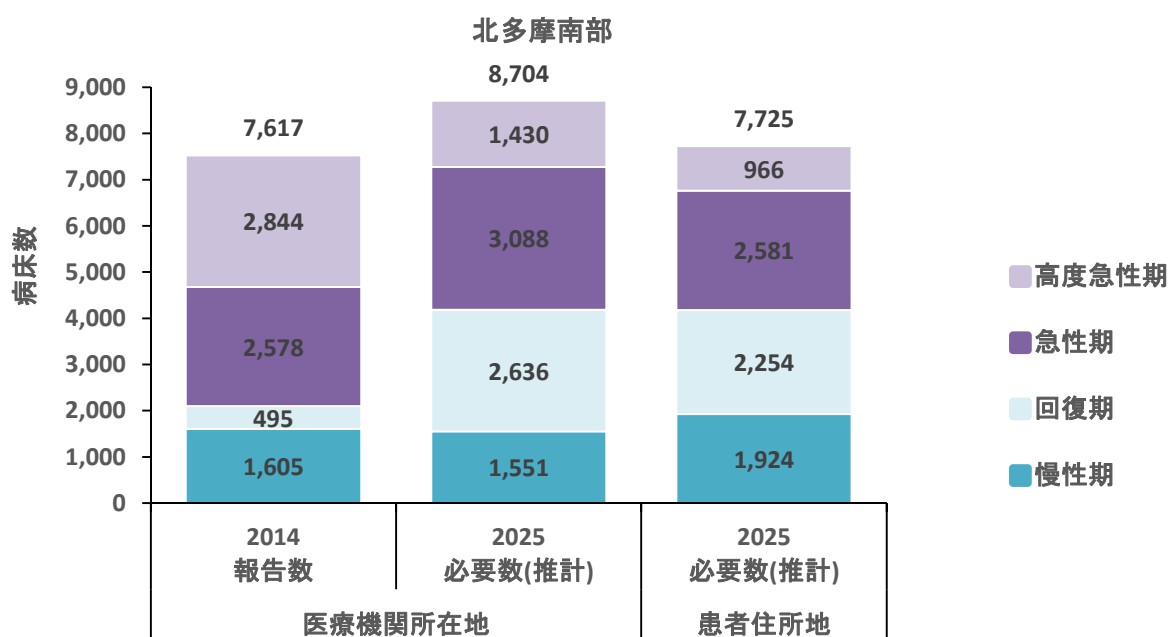
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は7617床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は8704床であり、その差は+1087床(+14%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は2844床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1430床であり、その差は-1414床(-50%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は2578床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は3088床であり、その差は+510床(+20%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は495床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は2636床であり、その差は+2141床(+433%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は1605床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1551床であり、その差は-54床(-3%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-6%であり、介護の充足度は全国平均レベルである。2040年の介護充足度指数は-66%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

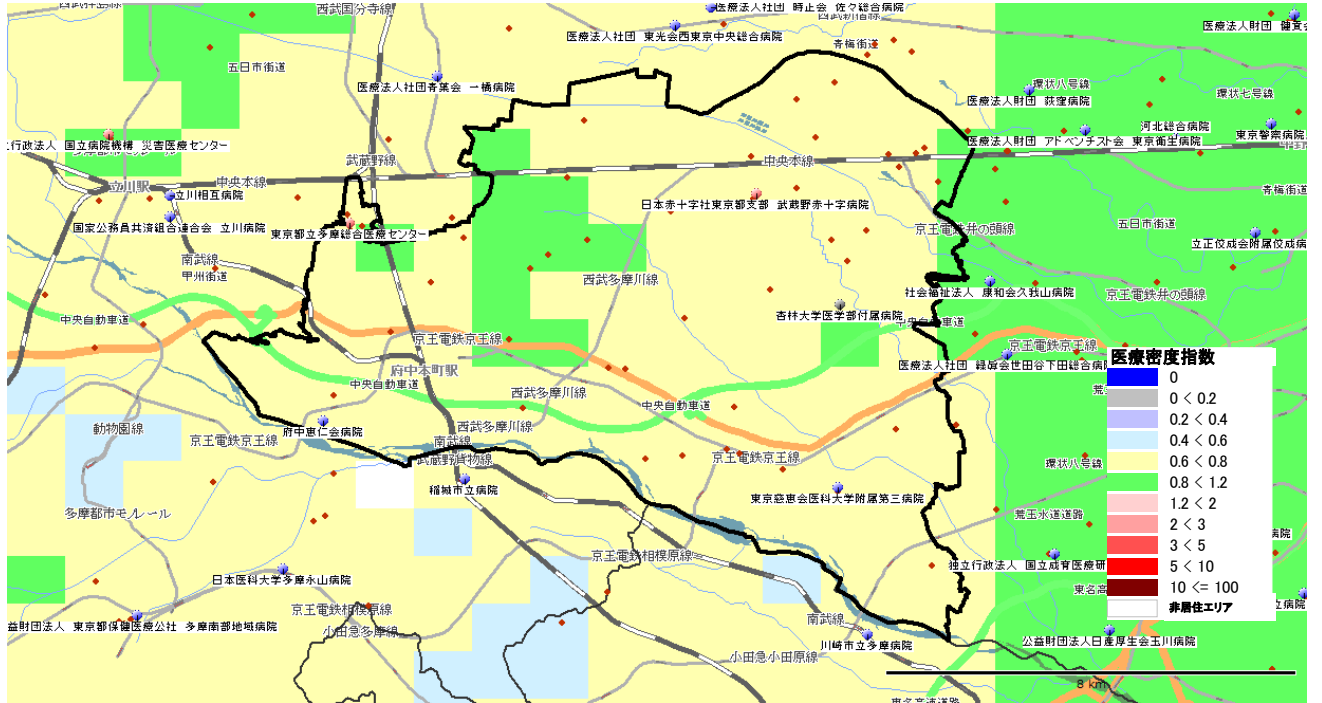
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

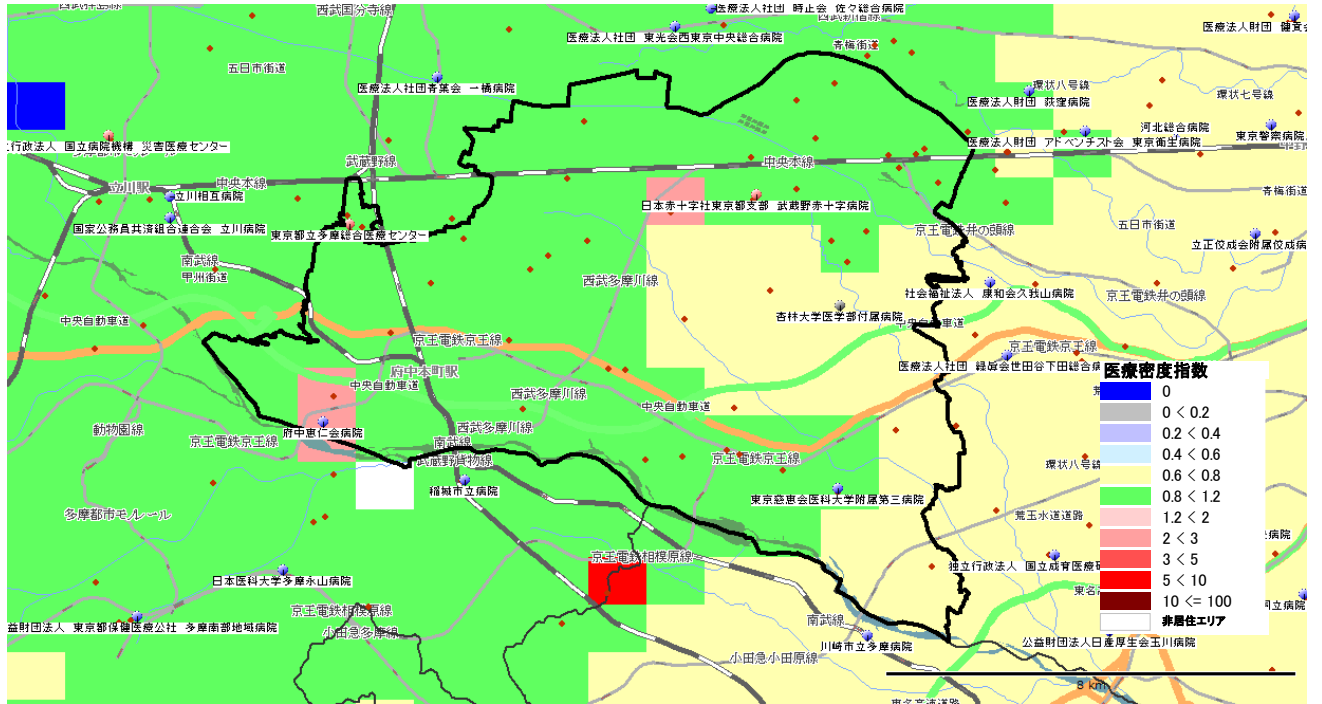
# 13. 東京都

## 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-11-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-11-2 慢性期医療密度指数マップ

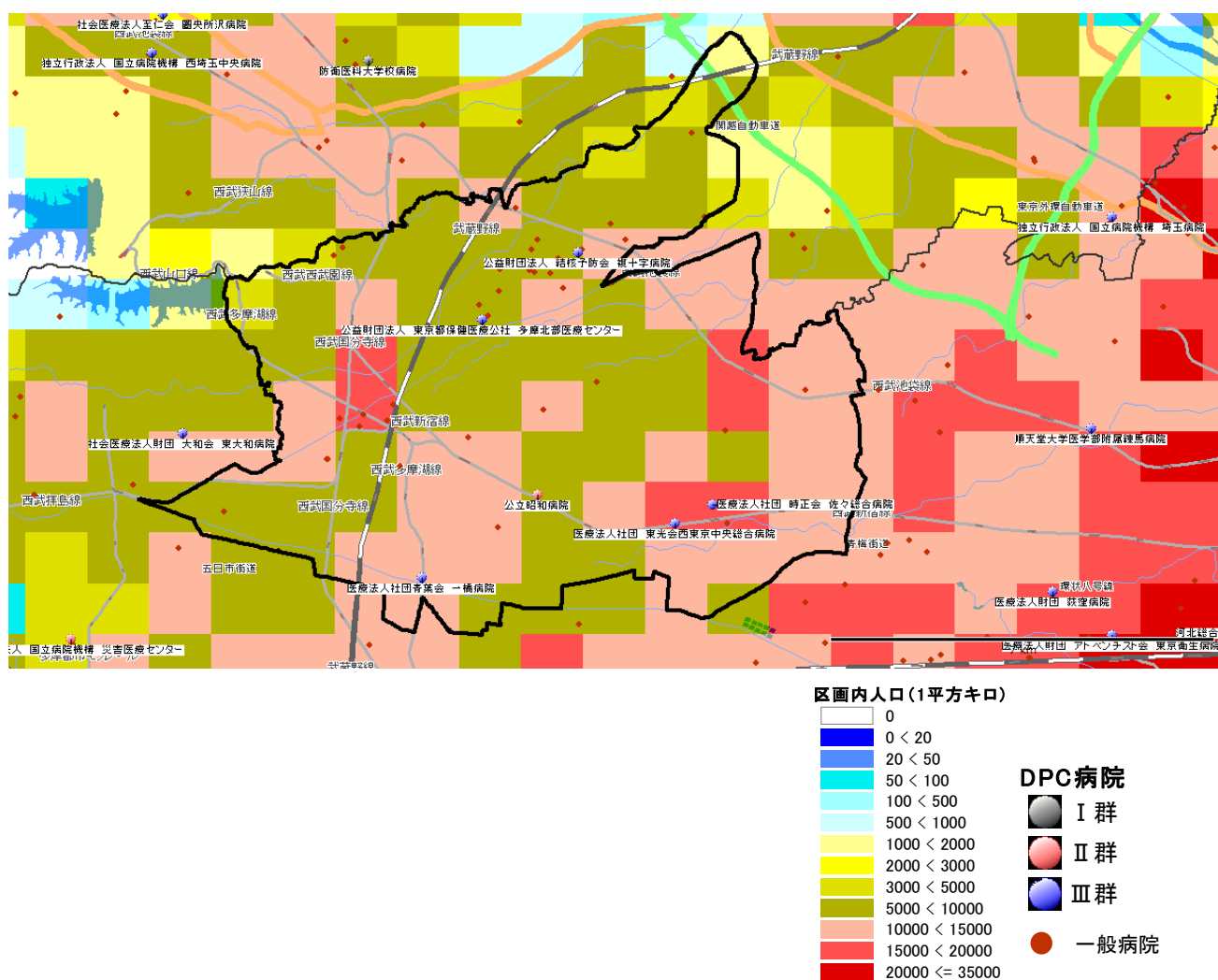


<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

# 13-12. 北多摩北部医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> [小平市](#), [東村山市](#), [清瀬市](#), [東久留米市](#), [西東京市](#)

人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 北多摩北部医療圏を1km<sup>2</sup>区画(1km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所:国勢調査(平成22年、総務省)地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (北多摩北部医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

\*人口、面積など： 北多摩北部(小平市)は、総人口約736千人(2015年推計)、面積77km<sup>2</sup>、人口密度は9608人/km<sup>2</sup>の大都市型二次医療圏である。

\*人口の将来予測： 北多摩北部の総人口は2025年に724千人へと減少し(2015年比-2%)、2040年に674千人へと減少する(2025年比-7%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の90千人が、2025年にかけて118千人へと増加し(2015年比+31%)、2040年には126千人へと増加する(2025年比+7%)ことが予想される。

\*医療費と介護給付費： 北多摩北部の一人当たり医療費(国保)は288千円(偏差値45)、介護給付費は235千円(偏差値46)であり、医療費、介護給付費ともにやや低い。

#### 【医療の現状】

\*入院医療の充実度： 北多摩北部の一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は0.69、一人当たり慢性期医療密度指数は0.81で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

\*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が43(病院医師数44、診療所医師数43)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は44と少ない。

\*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は45で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数の偏差値は39と少ない。北多摩北部には、年間全身麻酔件数が2000例以上の公立昭和病院(Ⅱ群・救命)、500例以上の西東京中央総合病院、佐々総合病院、複十字病院がある。

\*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は49と療養病床数は全国平均レベルである。

\*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値47とやや少なく、回復期病床数は偏差値49と全国平均レベルである。

\*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は51で精神病床数は全国平均レベルである。

①診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は42で診療所数は少ない。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

\*介護施設の現状： 北多摩北部の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、8452人(75歳以上1000人当たりの偏差値49)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が4966床(偏差値47)、高齢者住宅等が3486床(偏差値51)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや下回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5869人(75歳以上1000人当たりの偏差値43)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設42、特別養護老人ホーム51、介護療養型医療施設50、有料老人ホーム59、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム41、サ高住49である。

\*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値45とやや少なく、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。介護職員(在宅)の合計は、1019人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均、0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

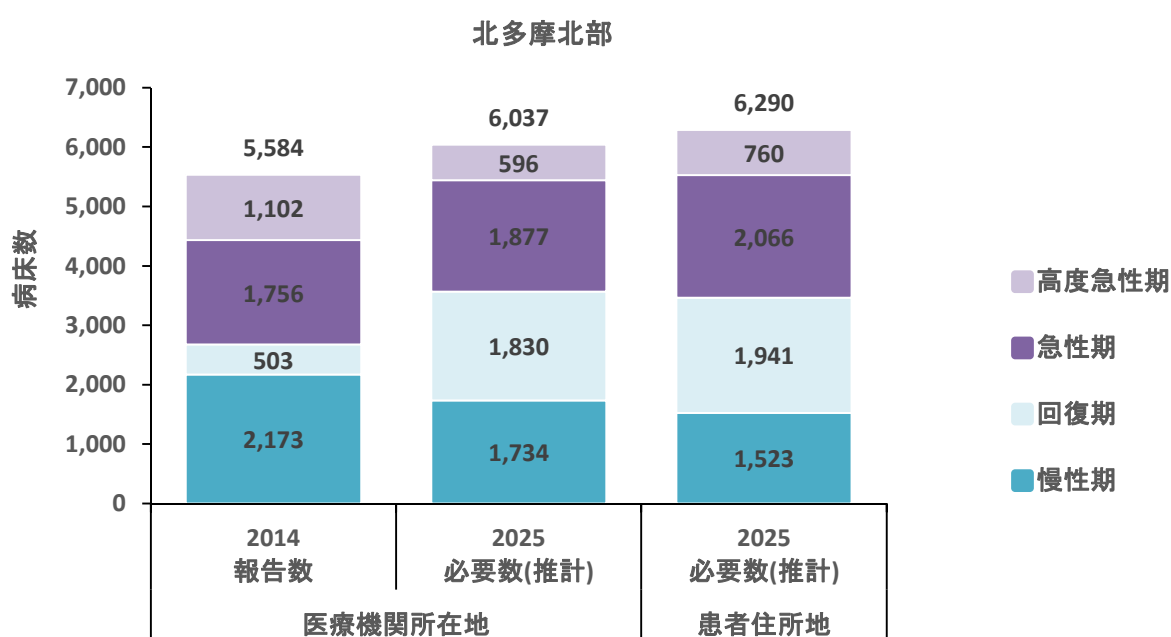
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は5584床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は6037床であり、その差は+453床(+8%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は1102床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は596床であり、その差は-506床(-46%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は1756床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1877床であり、その差は+121床(+7%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は503床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1830床であり、その差は+1327床(+264%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は2173床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は1734床であり、その差は-439床(-20%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は±0%であり、介護の充足度は全国平均レベルである。2040年の介護充足度指数は-41%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/firyo/firyo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

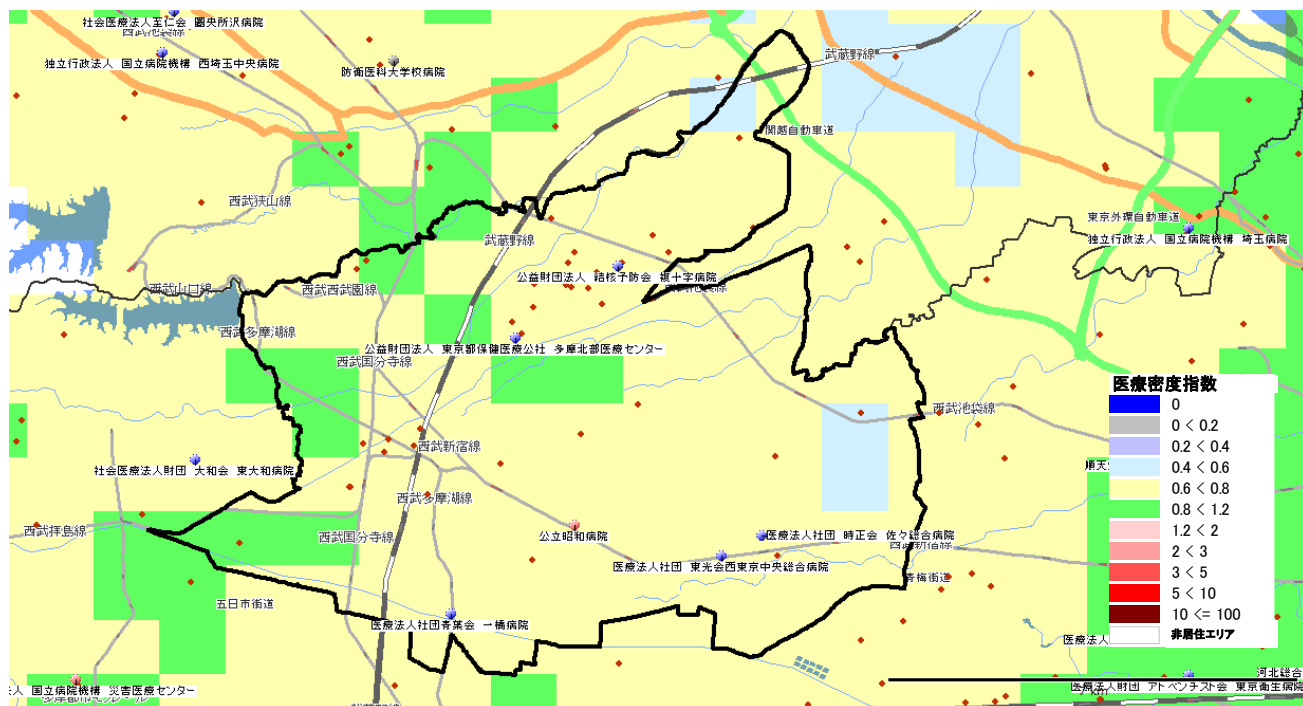
合計病床数には無回答が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベット数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

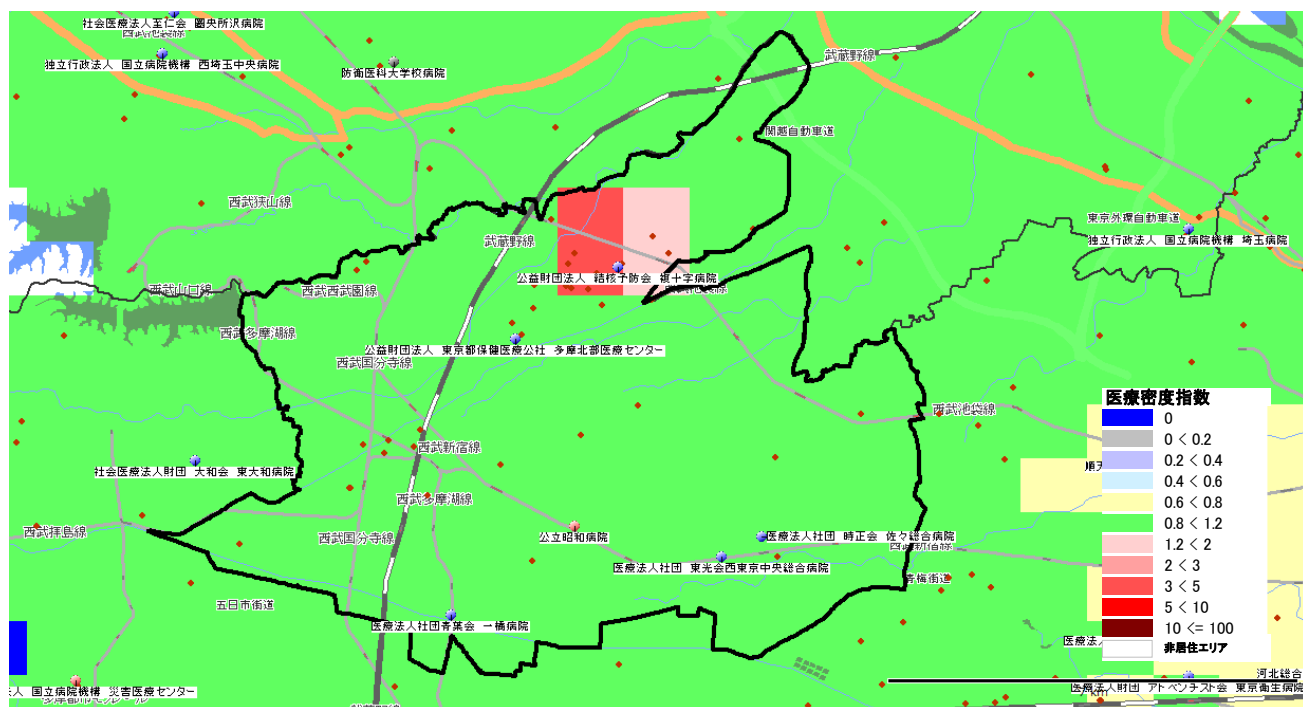
### 13. 東京都

#### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-12-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-12-2 慢性期医療密度指数マップ

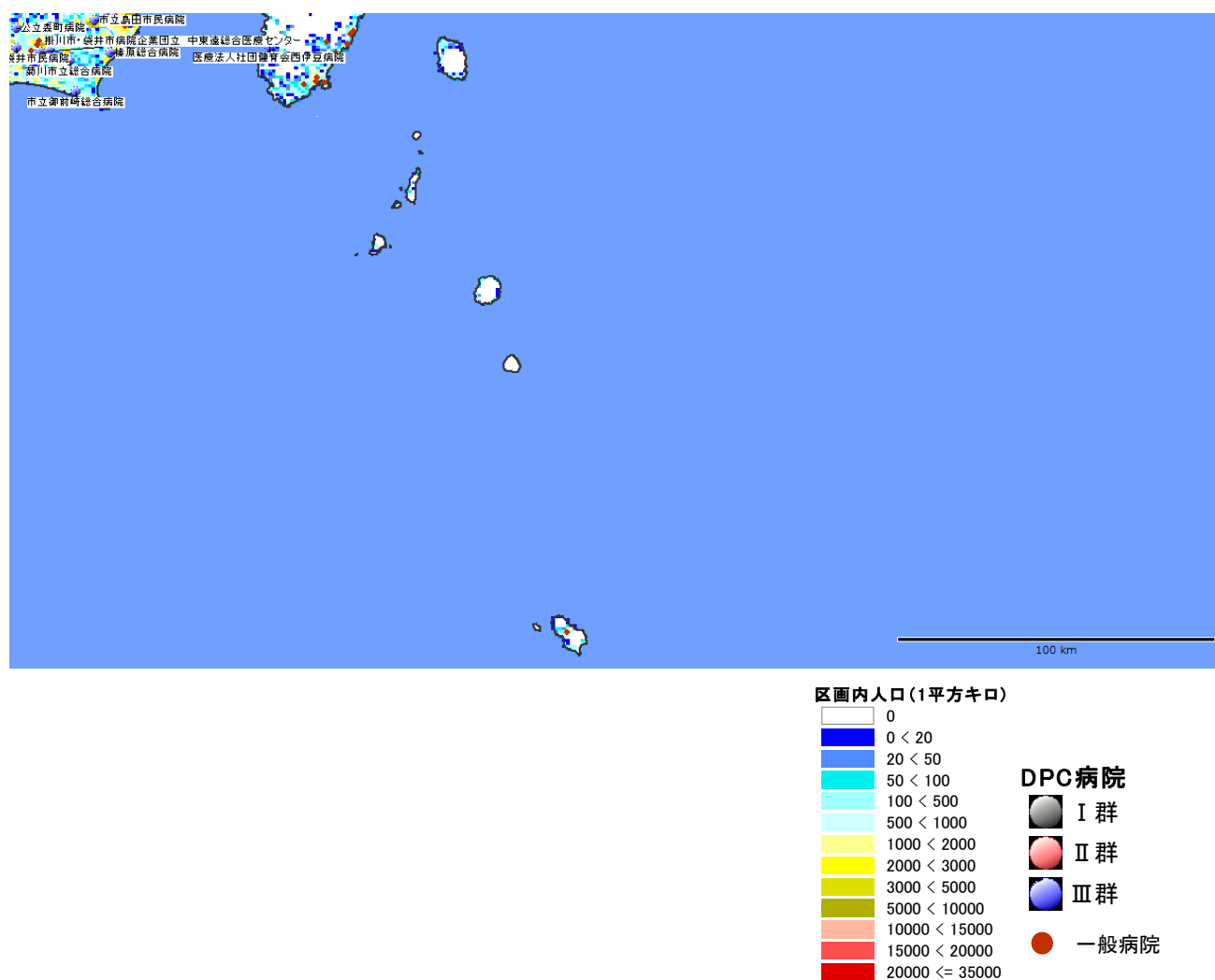


<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。



# 13-13. とう 島しょ医療圏

構成市区町村<sup>1</sup> 大島町,利島村,新島村,神津島村,三宅村,御蔵島村,八丈町,青ヶ島村,小笠原村  
 人口分布<sup>2</sup> (1 km<sup>2</sup>区画単位)



<sup>1</sup> 日本医師会 JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

<sup>2</sup> 島しょ医療圏を1 km<sup>2</sup>区画(1 km<sup>2</sup>メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km<sup>2</sup>以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km<sup>2</sup>)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km<sup>2</sup>未満)。白色は非居住地。出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報 GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREA シリーズ

## 13. 東京都

### (島しょ医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

#### 【地域の概要】

**\*人口、面積など：** 島しょ(大島町)は、総人口約 27 千人(2015 年推計)、面積 401 km<sup>2</sup>、人口密度は 67 人/km<sup>2</sup>の過疎地域型二次医療圏である。

**\*人口の将来予測：** 島しょの総人口は 2025 年に 23 千人へと減少し(2015 年比-15%)、2040 年に 19 千人へと減少する(2025 年比-17%)ことが予想される。一方、75 歳以上人口は、2015 年の 4 千人が、2025 年にかけて 5 千人へと増加し(2015 年比+25%)、2040 年には 4 千人へと減少する(2025 年比-20%)ことが予想される。

**\*医療費と介護給付費：** 島しょの一人当たり医療費(国保)は 284 千円(偏差値 44)、介護給付費は 263 千円(偏差値 54)であり、医療費は低い、介護給付費はやや高い。

#### 【医療の現状】

**\*入院医療の充実度：** 島しょの一人当たり急性期医療密度指数<sup>3</sup>は 0.18、一人当たり慢性期医療密度指数は 0.37 で、急性期の医療も慢性期の医療もかなり少ない。

**\*医師・看護師の現状：** 総医師数の偏差値が 36(病院医師数 28、診療所医師数 55)と、総医師数は少ないが、病院医師数は非常に少ない。総看護師数の偏差値は 31 と非常に少ない。

**\*一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は 28 で、一般病床は非常に少ない。全身麻酔数は 0 件(偏差値 28)、島しょには、年間全身麻酔件数が 500 例以上の病院はない。

**\*療養病床の現状：** 療養病床は存在しない。

**\*リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値 33 と非常に少なく、回復期病床数は存在しない。

**\*精神病床の現状：** 精神病床は存在しない。

**\*診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は 50 で診療所数は全国平均レベルである。

#### 【介護施設や在宅ケアの現状】

**\*介護施設の現状：** 島しょの総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、336 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 37)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が 327 床(偏差値 61)、高齢者住宅等が 9 床(偏差値 26)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅系は全国平均レベルを大きく下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、329 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 49)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

75 歳以上 1000 人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設なし(偏差値 12)、特別養護老人ホーム 89、介護療養型医療施設なし(偏差値 40)、有料老人ホームなし(偏差値 37)、軽費ホームなし(偏差値 43)、グループホーム 33、サ高住なし(偏差値 31)である。

**\*在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値 41 と少なく、在宅療養支援病院は存在しない。介護職員(在宅)の合計は、44 人(75 歳以上 1000 人当たりの偏差値 44)で、75 歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

<sup>3</sup>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0 が全国平均、0.8 を下回ると少ない、0.6 を下回ると非常に少ない、1.2 以上充実、1.5 以上非常に充実

## 【医療と介護の需要予測】

\*病床機能報告制度による病床機能別病床数と2025年必要病床数(推計)<sup>4</sup>

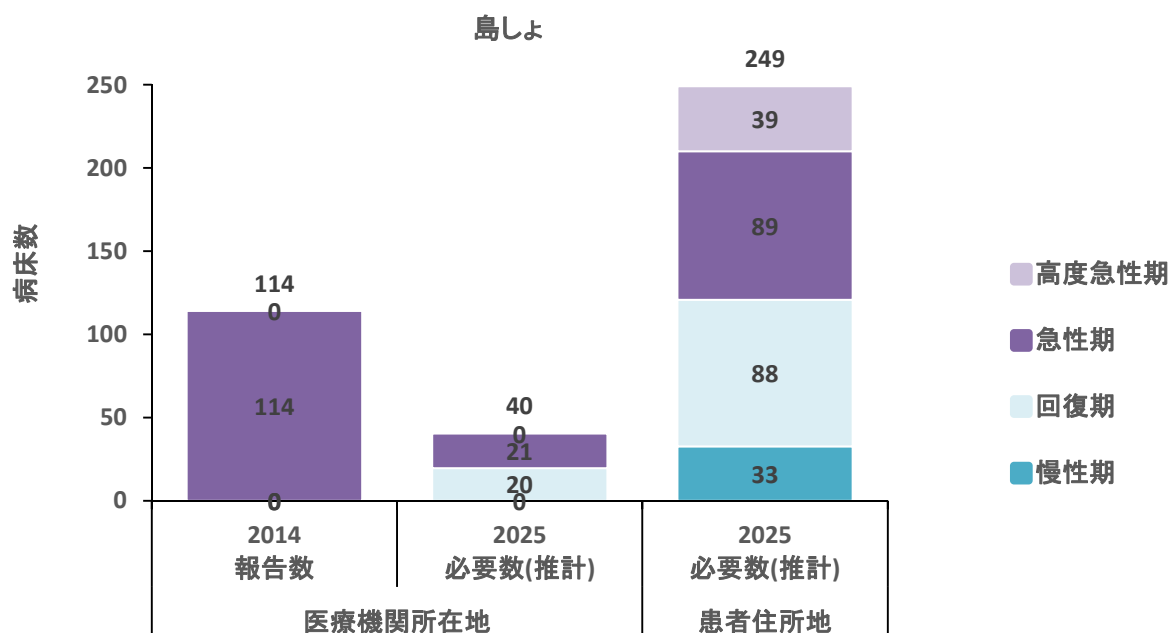
①合計病床数： 病床機能報告制度による2014年の合計病床数は114床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は40床であり、その差は-74床(-65%)である。

②高度急性期病床数： 高度急性期病床の報告は0床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は0床であり、その差は±0床(+100%)である。

③急性期病床数： 急性期病床の報告は114床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は21床であり、その差は-93床(-82%)である。

④回復期病床数： 回復期病床の報告は0床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は20床であり、その差は+20床(+100%)である。

⑤慢性期病床数： 慢性期病床の報告は0床、2025年の必要病床数(推計)(医療機関所在地)は0床であり、その差は±0床(+100%)である。



\*介護の2040年の需要予測： 現在の介護充足度指数<sup>5</sup>は-14%であり、介護の充足度は低い。2040年の介護充足度指数は-14%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

<sup>4</sup>必要病床数(推計)は、都道府県については、医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会第1次報告の推計結果、二次医療圏については地域医療構想策定ガイドラインに基づき都道府県が推計した公表値のうち、推計方法パターンBの値を掲載している。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo\\_hoken/kamren/kyogikai/27\\_5\\_29.files/02075\\_3hyou.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/kamren/kyogikai/27_5_29.files/02075_3hyou.pdf)(2015年9月1日時点)

医療機関所在地ベース：患者の流出入が現状のまま継続するものとして、一定の仮定を置いて推計。患者住所地ベース：患者の流出入がなく、入院が必要な全ての患者は住所地の二次医療圏の医療機関の病床に入院するものとして、一定の仮定を置いて推計。

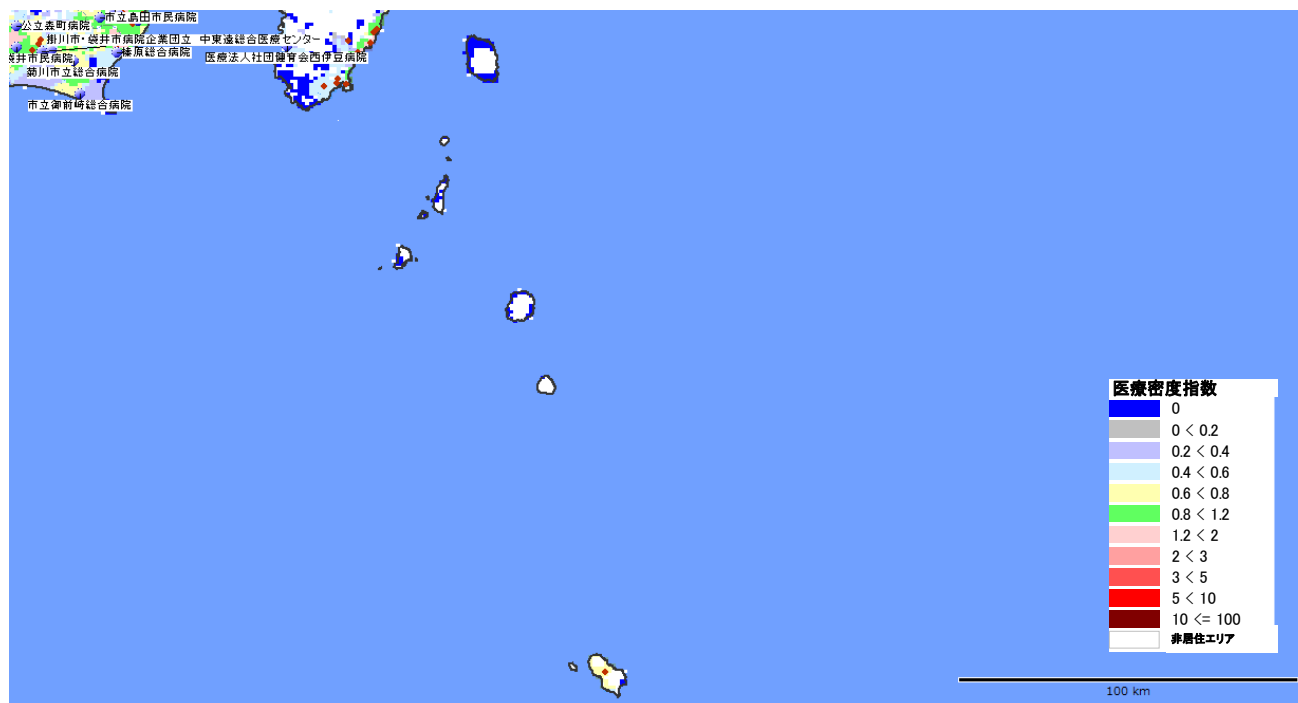
合計病床数には無回答分が含まれているため、合計病床数と各機能別病床数の合計値は合致しない。

<sup>5</sup>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2015年の全国平均(95.5床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

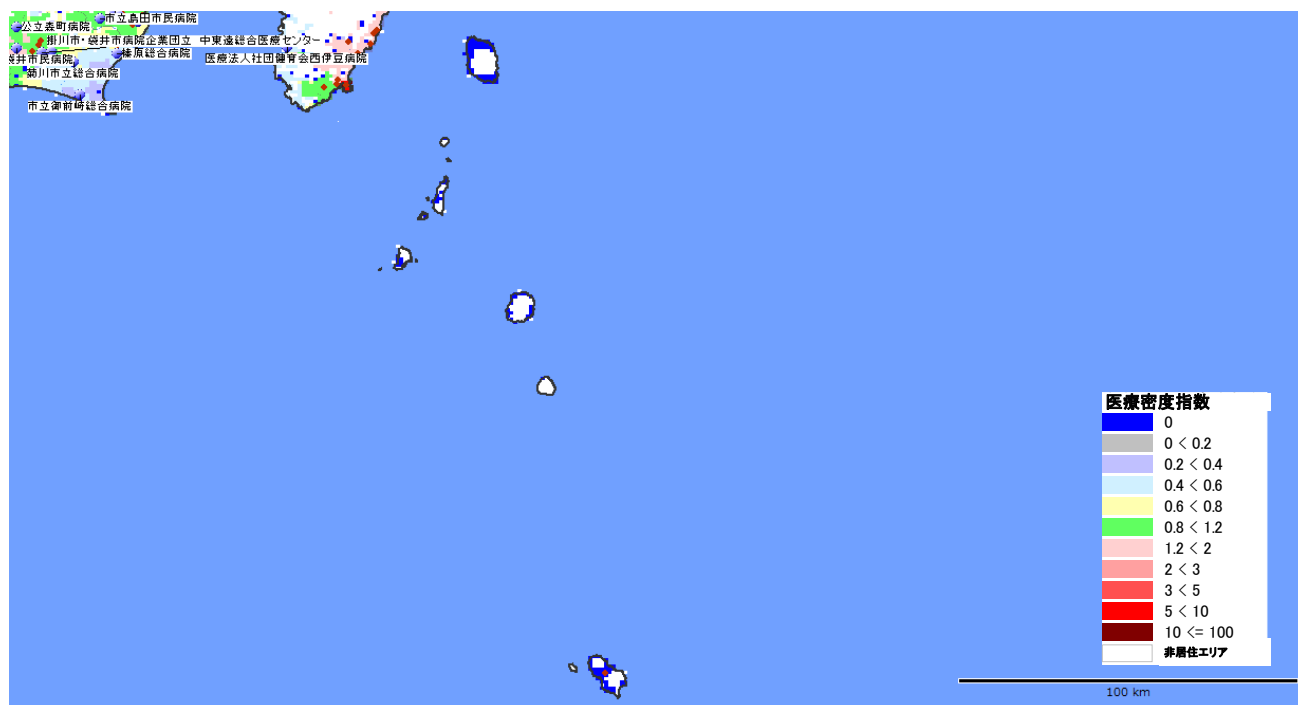
## 13. 東京都

### 2. 医療密度<sup>6</sup>

図表 13-13-1 急性期医療密度指数マップ



図表 13-13-2 慢性期医療密度指数マップ



<sup>6</sup>急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。